

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第6469346号
(P6469346)

(45) 発行日 平成31年2月13日(2019.2.13)

(24) 登録日 平成31年1月25日(2019.1.25)

(51) Int.Cl.

A63F 5/04 (2006.01)

F 1

A 6 3 F 5/04 6 0 5 C
A 6 3 F 5/04 6 0 5 D

請求項の数 3 (全 79 頁)

(21) 出願番号 特願2014-5239 (P2014-5239)
 (22) 出願日 平成26年1月15日 (2014.1.15)
 (65) 公開番号 特開2015-131058 (P2015-131058A)
 (43) 公開日 平成27年7月23日 (2015.7.23)
 審査請求日 平成28年12月1日 (2016.12.1)

(73) 特許権者 000144153
 株式会社三共
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
 (74) 代理人 110001195
 特許業務法人深見特許事務所
 (72) 発明者 小倉 敏男
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株式会社三共内

審査官 山本 一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】スロットマシン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンにおいて、

賭数の設定に使用可能な遊技用価値を記憶する遊技用価値記憶手段と、

1ゲームに対して設定されている賭数を記憶する賭数記憶手段と、

再遊技表示結果が導出されたときに、遊技者所有の遊技用価値を消費することなく次のゲームが開始可能となるように賭数を設定する再遊技導出時設定手段と、

遊技者により投入された遊技媒体の流下経路を外部に排出される排出側経路または内部に取り込む取込側経路に切り替える経路切替手段と、

前記経路切替手段の制御を行う切替制御手段とを備え、

前記スロットマシンは、

ゲームが行われているときにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新し、

10

20

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により精算操作がされた場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値に相当する遊技媒体を返却する精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことがなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記精算制御が行われたときには演出状態を遊技終了後の状態である客待ち演出状態に制御する一方、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後において前記精算制御が実行されたときには演出状態を前記客待ち演出状態に制御せず、

前記切替制御手段は、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かの判定を、投入された遊技媒体の検出を行う検出処理よりも前に行い、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達している場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第1不可設定処理を行い、

賭数が設定されており、かつ遊技媒体が投入可能な状態において前記検出処理により投入された遊技媒体が検出されたときに、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第2不可設定処理を行い、

前記第1不可設定処理が行われた場合にも前記第2不可設定処理が行われた場合にも共通の切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が不可である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が排出側経路となるように前記経路切替手段の制御を行う、スロットマシン。

【請求項2】

各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、

前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンにおいて、

賭数の設定に使用可能な遊技用価値を記憶する遊技用価値記憶手段と、

1 ゲームに対して設定されている賭数を記憶する賭数記憶手段と、

再遊技表示結果が導出されたときに、遊技者所有の遊技用価値を消費することなく次のゲームが開始可能となるように賭数を設定する再遊技導出時設定手段と、

遊技者により投入された遊技媒体の流下経路を外部に排出される排出側経路または内部に取り込む取込側経路に切り替える経路切替手段と、

前記経路切替手段の制御を行う切替制御手段とを備え、

前記スロットマシンは、

ゲームが行われているときにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により遊技媒

10

20

30

40

50

体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新し、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数の設定が開始されるまでにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数の設定が開始された以降において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により精算操作がされた場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値に相当する遊技媒体を返却する精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことがなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記精算制御が行われたときには演出状態を遊技終了後の状態である客待ち演出状態に制御する一方、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後において前記精算制御が実行されたときは演出状態を前記客待ち演出状態に制御せず、

前記切替制御手段は、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かの判定を、投入された遊技媒体の検出を行う検出処理よりも前に行い、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達している場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第1不可設定処理を行い、

賭数が設定されており、かつ遊技媒体が投入可能な状態において前記検出処理により投入された遊技媒体が検出されたときに、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第2不可設定処理を行い、

前記第1不可設定処理が行われた場合にも前記第2不可設定処理が行われた場合にも共通の切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が不可である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が排出側経路となるように前記経路切替手段の制御を行う、スロットマシン。

【請求項3】

前記切替制御手段は、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了し、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が上限数に到達した後、遊技媒体が投入可能な状態において遊技媒体の投入が検出されたときにも、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、遊技媒体が投入可能な状態において遊技媒体の投入が検出されたときにも、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを共通の判定処理により判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、共通の前記第2不可設定処理を行い、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かを判定することなく、遊技媒体の投入が可能である旨の設定を行う第1可能設定処理を行い、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記

10

20

30

40

50

憶されている遊技用価値が上限数に達していない場合には、遊技媒体の投入が可能である旨の設定を行う第2可能設定処理を行い、

前記第1可能設定処理が行われた場合にも前記第2可能設定処理が行われた場合にも共通の前記切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が可能である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が取込側経路となるように前記経路切替手段の制御を行う、請求項1または請求項2に記載のスロットマシン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、
前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果
を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンに関する。 10

【背景技術】

【0002】

スロットマシンは、一般に、外周部に識別情報としての複数種類の図柄が描かれた複数（通常は3つ）のリールを有する可変表示装置を備えており、まず遊技者のB E T操作により賭数を設定し、規定の賭数が設定された状態でスタート操作されることによりリールの回転を開始し、各リールに対応して設けられた停止ボタンが操作されることにより回転を停止する。そして、全てのリールの回転を停止したときに入賞ライン上に予め定められた入賞図柄の組合せ（たとえば、7 - 7 - 7、以下図柄の組み合わせを役とも呼ぶ）が導出されることによって入賞が発生する。 20

【0003】

役の種類としては、小役、ボーナス役、再遊技役といった種類がある。ここで、小役を構成する図柄の組合せが入賞ライン上に停止された場合には、小役の種類ごとに定められた数のメダルが払い出されるという利益を遊技者が得ることができる。ボーナス役を構成する図柄の組合せが入賞ライン上に停止された場合には、次のゲームからレギュラーボーナスやビッグボーナスといった遊技者にとって有利な遊技状態へ移行されるという利益を遊技者が得ができる。再遊技役を構成する図柄の組合せが入賞ライン上に停止（以下、「再遊技役が発生」などともいう）された場合には、賭数の設定に新たなメダルを消費することなく次のゲームを行うことができるという利益を得ることができる。 30

【0004】

各役が発生するためには、一般的には、事前（通常はスタートレバー操作時）に行われる内部抽選で当選することが条件となる。そして、内部抽選に当選している役を構成する図柄の組合せを有効なラインに揃えるようにするとともに、内部抽選に当選していない役を構成する図柄の組合せを有効なラインに揃えないようにするリール制御が行われる。このようなスロットマシンにおいて、再遊技役が発生した後において投入されたメダルを受容し、投入されたメダルの枚数に相当する遊技用価値を記憶可能（クレジット可能）にしたものがあった（特許文献1参照）。 40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2003-190371号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

スロットマシンが備えるクレジットとは、一般的に、賭数が既に設定済みであることを前提条件として、その後に投入されたメダルが払い出されてしまうことによる煩わしさを解消するための機能を有している。しかしながら、特許文献1に記載のスロットマシンでは、再遊技役が発生すると即座にクレジット可能（クレジット受付時期）となるものであって、再遊技役の発生により賭数が設定されるタイミングとの関係について何ら考慮され 50

ていない。このため、特許文献1に記載のスロットマシンにおいては、再遊技役の発生後において、賭数が設定されるタイミングに未だ到達していないときであっても、メダルが投入されるとクレジットされてしまう。その結果、再遊技役の発生後において、賭数設定よりも先にクレジットされてしまうといった違和感を抱かせてしまう虞があった。

【0007】

この発明は、かかる実情に鑑み考え出されたものであり、その目的は、再遊技役の発生後において違和感を抱かせることなく遊技用価値を記憶可能にするスロットマシンを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

10

(A) 各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンにおいて、賭数の設定に使用可能な遊技用価値を記憶する遊技用価値記憶手段と、

1ゲームに対して設定されている賭数を記憶する賭数記憶手段と、

再遊技表示結果が導出されたときに、遊技者所有の遊技用価値を消費することなく次のゲームが開始可能となるように賭数を設定する再遊技導出時設定手段と、

遊技者により投入された遊技媒体の流下経路を外部に排出される排出側経路または内部に取り込む取込側経路に切り替える経路切替手段と、

前記経路切替手段の制御を行う切替制御手段とを備え、

前記スロットマシンは、

20

ゲームが行われているときにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新し、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することが可能であり、

30

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により精算操作がされた場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値に相当する遊技媒体を返却する精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことがなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことが可能であり、

40

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記精算制御が行われたときには演出状態を遊技終了後の状態である客待ち演出状態に制御する一方、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後において前記精算制御が実行されたときは演出状態を前記客待ち演出状態に制御せず、

前記切替制御手段は、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達

50

しているか否かの判定を、投入された遊技媒体の検出を行う検出処理よりも前に行い、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達している場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第1不可設定処理を行い、

賭数が設定されており、かつ遊技媒体が投入可能な状態において前記検出処理により投入された遊技媒体が検出されたときに、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第2不可設定処理を行い、

前記第1不可設定処理が行われた場合にも前記第2不可設定処理が行われた場合にも共通の切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が不可である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が排出側経路となるように前記経路切替手段の制御を行う。

スロットマシンは以下のように構成されていてもよい。

(B) 各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示部を備え、

前記可変表示部を変動表示した後、前記可変表示部の変動表示を停止することで表示結果を導出し、該表示結果に応じて入賞が発生可能なスロットマシンにおいて、

賭数の設定に使用可能な遊技用価値を記憶する遊技用価値記憶手段と、

1ゲームに対して設定されている賭数を記憶する賭数記憶手段と、

再遊技表示結果が導出されたときに、遊技者所有の遊技用価値を消費することなく次のゲームが開始可能となるように賭数を設定する再遊技導出時設定手段と、

遊技者により投入された遊技媒体の流下経路を外部に排出される排出側経路または内部に取り込む取込側経路に切り替える経路切替手段と、

前記経路切替手段の制御を行う切替制御手段とを備え、

前記スロットマシンは、

ゲームが行われているときにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新し、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数の設定が開始されるまでにおいて遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新することも前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することもなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数の設定が開始された以降において遊技者により遊技媒体が投入された場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新することが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において遊技者により精算操作がされた場合、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値に相当する遊技媒体を返却する精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後から前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となるまでにおいて遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことがなく、当該再遊技導出時設定手段により賭数が設定されて次のゲームが開始可能となった以降において遊技者により精算操作がされた場合、前記精算制御を行うことが可能であり、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記精算制御が行われたときには演出状態を遊技終了後の状態である客待ち演出状態に制御する一方、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了した後において前記精算制御が実行されたときは演出状態を前記客待ち演出状態に制御せず、

前記切替制御手段は、

10

20

30

40

50

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かの判定を、投入された遊技媒体の検出を行う検出処理よりも前に行い、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達している場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第1不可設定処理を行い、

賭数が設定されており、かつ遊技媒体が投入可能な状態において前記検出処理により投入された遊技媒体が検出されたときに、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、遊技媒体の投入が不可である旨の設定を行う第2不可設定処理を行い、

前記第1不可設定処理が行われた場合にも前記第2不可設定処理が行われた場合にも共通の切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が不可である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が排出側経路となるように前記経路切替手段の制御を行う。

また、(A)または(B)のスロットマシンは、

前記切替制御手段は、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了し、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が上限数に到達した後、遊技媒体が投入可能な状態において遊技媒体の投入が検出されたときにも、前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記再遊技導出時設定手段により賭数が設定された後、遊技媒体が投入可能な状態において遊技媒体の投入が検出されたときにも、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達するか否かを共通の判定処理により判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達する場合には、共通の前記第2不可設定処理を行い、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かを判定することなく、遊技媒体の投入が可能である旨の設定を行う第1可能設定処理を行い、

前記再遊技表示結果が導出されてゲームが終了し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達しているか否かを判定し、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が上限数に達していない場合には、遊技媒体の投入が可能である旨の設定を行う第2可能設定処理を行い、

前記第1可能設定処理が行われた場合にも前記第2可能設定処理が行われた場合にも共通の前記切替処理を行うことで、遊技媒体の投入が可能である旨の設定がされている場合に、遊技者により投入された遊技媒体の流下経路が取込側経路となるように前記経路切替手段の制御を行うようにしてもよい。

スロットマシンは以下のように構成されていてもよい。

(1) 遊技用価値を用いて1ゲームに対して所定数の賭数を設定することによりゲームが開始可能となるとともに、各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示装置に表示結果が導出されることにより1ゲームが終了し、該可変表示装置に導出された表示結果に応じて入賞が発生可能とされたスロットマシン(スロットマシン1)であって、

遊技の制御を行う遊技制御手段(メイン制御部41)が搭載された遊技制御基板(遊技制御基板40)と、

演出の制御を行う演出制御手段(第1サブ制御部91)が搭載された演出制御基板(第1演出制御基板90)と、

前記遊技制御手段から送信された制御情報(コマンド)を前記演出制御手段が受信可能となるように前記遊技制御基板と前記演出制御基板とを接続する接続手段(コネクタ410、420)と、

前記遊技制御基板を収納する基板ケース(基板ケース200)と、

痕跡を残さず開封することができないように前記基板ケースを封止する封止手段(封印シール400等)と、

10

20

30

40

50

投入された遊技媒体（メダル）を検出する遊技媒体検出手段（投入メダルセンサ31）とを備え、

前記演出制御基板および前記接続手段は、前記遊技制御基板とともに前記基板ケースに収納され（図5に示すように、遊技制御基板40が収納されている基板ケース200に、第1演出制御基板90およびコネクタ410、420は収納され）、

前記遊技制御手段と前記演出制御手段とは、前記遊技制御手段から前記演出制御手段への一方向通信のみ可能に接続されており（遊技制御基板40から第1演出制御基板90へは、一方向のみにしか信号が通過できないように構成されている）、

前記遊技制御基板は、

賭け操作（1枚BETスイッチ5、MAXBETスイッチ6への操作）に応じて賭数の設定に使用可能な遊技用価値（クレジットの値であるクレジットカウンタ）を記憶する遊技用価値記憶手段（メイン制御部41のRAMの所定領域）と、10

1ゲームに対して設定されている賭数（BETカウンタの値）を記憶する賭数記憶手段（メイン制御部41のRAMの所定領域）と、

前記遊技媒体検出手段による検出結果に応じて（S30においてYES）、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数および前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値のうちいずれかを更新する遊技媒体検出時更新手段（S33～S35、S40）と、

再遊技表示結果（リプレイ、第1～第3のリプレイ）が導出されることにより（S12においてYES）、前記遊技用価値を用いることなく次のゲームが開始可能となるよう前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新する再遊技導出時更新手段（S16、S17）とを含み、20

前記遊技媒体検出時更新手段は、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記遊技媒体検出手段により遊技媒体が検出されることにより、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数（遊技状態がRB（BB）の場合には2、通常遊技状態では3）未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新する第1遊技媒体検出時更新手段（S33～S35）と、

前記再遊技表示結果が導出された後において前記再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が更新されて次のゲームが開始可能となった以降に前記遊技媒体検出手段により遊技媒体が検出されることにより、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新する第2遊技媒体検出時更新手段（図16のS40。図15のS10～S12の処理に加えて、さらにS13～S17の処理により賭数設定が完了した後であってS18においてクレジット可能であると判定された後において、S20以後において実行される。図19（c）参照）とを有する。30

【0009】

このような構成によれば、再遊技表示結果が導出された後であっても、投入された遊技媒体が、再遊技導出時更新手段により賭数が更新されて次のゲームが開始可能となった以降に検出された遊技媒体であることにより、当該遊技媒体に応じて遊技用価値を更新することができる。このため、再遊技表示結果が導出された後における遊技用価値の更新が賭数の設定よりも先に行われることを防止できる。その結果、違和感を抱かせることなく、再遊技表示結果が導出された後における遊技者の利便性を向上させることができる。40

【0010】

また、遊技制御基板と、演出制御基板と、接続手段とが基板ケースに収納され、かつ基板ケースが痕跡を残さず開封不能となるように封止手段により封止されるため、演出制御手段に対して不正な制御情報を受信させることによる不正を行うことが困難となるうえに、開封されてもその痕跡が残ることで不正がされた可能性を早期に発見することができる。

【0011】

なお、上限数は、予め定められた数であればよく、ひとつの数であってもよく、また、

50

制御されている遊技状態に応じて定められた数であってもよい。また、上限数は、ゲームが開始可能となる所定数と同じであってもよく、所定数よりも大きな数であってもよい。

【0012】

再遊技表示結果が導出された後において遊技用価値が更新可能となる遊技媒体は、前記再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が更新されて次のゲームが開始可能となった以降に検出された遊技媒体であればよく、たとえば、前記再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が更新されて次のゲームが開始可能となった以降において所定条件（所定期間経過、所定処理終了など）が成立してから以降に検出された遊技媒体であってもよい（変形例における〔リプレイ入賞後における投入・精算の許容タイミングについて〕欄の（b）参照）。

10

【0013】

また、前記再遊技表示結果が導出された後において、次のゲームが開始可能となるタイミングを解除条件が成立するまで遅延させる遅延制御を行う遅延制御手段（S13）を備え、

前記解除条件は、前記遊技媒体検出手段による検出結果が解除用結果（特定センサにより検出）となったことにより成立するようにしてもよい。

【0014】

このような構成を備えることにより、再遊技表示結果が導出された後において遅延制御が行われ、遊技媒体が投入されて遊技媒体検出手段による検出結果が解除用結果となることで遅延制御が解除される。これにより、遊技者に対して、再遊技表示結果が導出されることにより賭数が更新される場合においても、遊技媒体を投入しなければ次のゲームを開始できず、遊技媒体が投入されたことにより次のゲームが開始できるようになったようと思わせることができる。

20

【0015】

また、封止手段は、痕跡を残さずに開封不能となるように前記基板ケースを封止する構成であればよく、基板ケースと別個に構成されていてもよいし、基板ケースに一体的に構成されていてもよいし、基板ケースと別個の部材と基板ケースとにより構成されていてもよい。

【0016】

また、遊技制御手段と演出制御手段とは、演出制御手段から遊技制御手段へも通信可能になるように接続させるようにしてもよい。つまり、遊技制御手段と演出制御手段とは、お互いに双方向通信可能となるように接続させるようにしてもよい。

30

【0017】

（2）遊技用価値を用いて1ゲームに対して所定数の賭数を設定することによりゲームが開始可能となるとともに、各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示装置に表示結果が導出されることにより1ゲームが終了し、該可変表示装置に導出された表示結果に応じて入賞が発生可能とされたスロットマシン（スロットマシン1）であって、

遊技の制御を行う遊技制御手段（メイン制御部41）が搭載された遊技制御基板（遊技制御基板40）と、

40

演出の制御を行う演出制御手段（第1サブ制御部91）が搭載された演出制御基板（第1演出制御基板90）と、

前記遊技制御手段から送信された制御情報（コマンド）を前記演出制御手段が受信可能となるように前記遊技制御基板と前記演出制御基板とを接続する接続手段（コネクタ410、420）と、

前記遊技制御基板を収納する基板ケース（基板ケース200）と、

痕跡を残さずに開封することができないように前記基板ケースを封止する封止手段（封印シール400等）と、

投入された遊技媒体（メダル）を検出する遊技媒体検出手段（投入メダルセンサ31）とを備え、

50

前記演出制御基板および前記接続手段は、前記遊技制御基板とともに前記基板ケースに収納され(図5に示すように、遊技制御基板40が収納されている基板ケース200に、第1演出制御基板90およびコネクタ410、420は収納され)、

前記遊技制御手段と前記演出制御手段とは、前記遊技制御手段から前記演出制御手段への一方向通信のみ可能に接続されており(遊技制御基板40から第1演出制御基板90へは、一方向のみにしか信号が通過できないように構成されている)、

前記遊技制御基板は、

賭け操作(1枚BETスイッチ5、MAXBETスイッチ6への操作)に応じて賭数の設定に使用可能な遊技用価値(クレジットの値であるクレジットカウンタ)を記憶する遊技用価値記憶手段(メイン制御部41のRAMの所定領域)と、

1ゲームに対して設定されている賭数(BETカウンタの値)を記憶する賭数記憶手段(メイン制御部41のRAMの所定領域)と、

前記遊技媒体検出手段による検出結果に応じて(S30においてYES)、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数および前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値のうちいずれかを更新する遊技媒体検出時更新手段(S33～S35、S40)と、

再遊技表示結果(リプレイ、第1～第3のリプレイ)が導出されることにより(S12においてYES)、前記遊技用価値を用いることなく次のゲームが開始可能となるよう前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新する再遊技導出時更新手段(S16、S17)とを含み、

前記遊技媒体検出時更新手段は、

前記再遊技表示結果が導出されずにゲームが終了した後において前記遊技媒体検出手段により遊技媒体が検出されることにより、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が予め定められた上限数(遊技状態がRB(BB)の場合には2、通常遊技状態では3)未満であるときには前記賭数記憶手段に記憶されている賭数を更新し、当該上限数に達しているときには前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新する第1遊技媒体検出時更新手段(S33～S35)と、

前記再遊技表示結果が導出された後において前記再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数の更新の開始以降に前記遊技媒体検出手段により遊技媒体が検出されることにより、前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値を更新する第2遊技媒体検出時更新手段(図19(d)参照、変形例における[リプレイ入賞後における投入・精算の許容タイミングについて]欄の(a)参照)とを有する。

【0018】

このような構成によれば、再遊技表示結果が導出された後であっても、投入された遊技媒体が、再遊技導出時更新手段による賭数の更新の開始以降に検出された遊技媒体であることにより、当該遊技媒体に応じて遊技用価値を更新することができる。このため、再遊技表示結果が導出された後における遊技用価値の更新が賭数の設定よりも先に行われることを防止できる。その結果、違和感を抱かせることなく、再遊技表示結果が導出された後における遊技者の利便性を向上させることができる。

【0019】

また、遊技制御基板と、演出制御基板と、接続手段とが基板ケースに収納され、かつ基板ケースが痕跡を残さず開封不能となるように封止手段により封止されるため、演出制御手段に対して不正な制御情報を受信させることによる不正を行うことが困難となるうえに、開封されてもその痕跡が残ることで不正がされた可能性を早期に発見することができる。

【0020】

なお、上限数は、予め定められた数であればよく、ひとつの数であってもよく、また、制御されている遊技状態に応じて定められた数であってもよい。また、上限数は、ゲームが開始可能となる所定数と同じであってもよく、所定数よりも大きな数であってもよい。

【0021】

再遊技表示結果が導出された後において遊技用価値が更新可能となる遊技媒体は、前記

10

20

30

40

50

再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数の更新の開始以降に検出された遊技媒体であればよく、たとえば、前記再遊技導出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数の更新の開始以降において所定条件（所定期間経過、所定処理終了など）が成立してから以降に検出された遊技媒体であってもよい（変形例における〔リプレイ入賞後における投入・精算の許容タイミングについて〕欄の（b）参照）。

【0022】

また、前記再遊技表示結果が導出された後において、次のゲームが開始可能となるタイミングを解除条件が成立するまで遅延させる遅延制御を行う遅延制御手段（S13）を備え、

前記解除条件は、前記遊技媒体検出手段による検出結果が解除用結果（特定センサにより検出）となったことにより成立するようにしてもよい。 10

【0023】

このような構成を備えることにより、再遊技表示結果が導出された後において遅延制御が行われ、遊技媒体が投入されて遊技媒体検出手段による検出結果が解除用結果となることで遅延制御が解除される。これにより、遊技者に対して、再遊技表示結果が導出されることにより賭数が更新される場合においても、遊技媒体を投入しなければ次のゲームを開始できず、遊技媒体が投入されたことにより次のゲームが開始できるようになったようと思わせることができる。

【0024】

また、封止手段は、痕跡を残さずに開封不能となるように前記基板ケースを封止する構成であればよく、基板ケースと別個に構成されていてもよいし、基板ケースに一体的に構成されていてもよいし、基板ケースと別個の部材と基板ケースとにより構成されていてもよい。 20

【0025】

また、遊技制御手段と演出制御手段とは、演出制御手段から遊技制御手段へも通信可能になるように接続させるようにしてもよい。つまり、遊技制御手段と演出制御手段とは、お互いに双方向通信可能となるように接続させるようにしてもよい。

【0026】

（3）上記（1）または（2）のスロットマシンにおいて、排出操作（精算スイッチ10への操作）に応じて、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数に相当する遊技媒体と、前記遊技用価値記憶手段に記憶された遊技用価値に相当する遊技媒体とを排出可能な排出手段（S54～S59）とを備え、 30

前記排出手段は、前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が前記再遊技導出時更新手段により更新された賭数であるとき（S54でYES）には当該賭数に相当する遊技媒体を排出せず、前記遊技用価値記憶手段に記憶された遊技用価値に相当する遊技媒体のみを排出する（S59）。

【0027】

このような構成によれば、再遊技導出時更新手段により更新された賭数に相当する遊技媒体を排出させないことにより再遊技表示結果の存在意義を維持しつつ、遊技用価値に相当する遊技媒体については再遊技表示結果が導出された後であっても排出操作に応じて排出可能としたことにより、再遊技表示結果が導出された後における遊技者の利便性をさらに向上せることができる。 40

【0028】

（4）上記（1）～（3）のうちいずれかのスロットマシンにおいて、前記可変表示装置は、前記複数種類の識別情報を変動表示可能な複数の可変表示領域のそれぞれに表示結果を導出させることができ（リール2L～2R）、

前記スロットマシンは、遊技用価値を用いて1ゲームに対して所定数の賭数を設定することによりゲームが開始可能となるとともに、前記複数の可変表示領域のすべてに前記表示結果が導出されることにより1ゲームが終了し、1ゲームの結果として前記複数の可変表示領域のそれぞれに導出された前記表示結果の組合せに応じて入賞が発生可能とされ、 50

前記複数の可変表示領域に表示結果を導出させる制御を行う導出制御手段（S3）を備え、

前記複数の可変表示領域に跨って設定された複数のライン（入賞ラインL1～L5）のうち所定のライン上に導出され得る識別情報の組合せには、外形が同一と類似のうち少なくとも一方の識別情報のみから構成される特定組合せ（たとえば、「リプレイ-リプレイ-リプレイ」）と、前記特定組合せと異なる非特定組合せ（たとえば、「BAR-リプレイ-リプレイ」）とが含まれ、

前記再遊技表示結果は、

前記所定のライン上の組合せが前記特定組合せのうち特定再遊技組合せ（たとえば、「リプレイ-リプレイ-リプレイ」）となることにより導出される特定再遊技表示結果（第1のリプレイ）と、10

前記所定のライン上の組合せが前記非特定組合せのうち非特定再遊技組合せ（たとえば、「BAR-リプレイ-リプレイ」）となることにより導出される非特定再遊技表示結果（第2のリプレイ、第3のリプレイ）とを含む。

【0029】

このような構成によれば、所定のライン上に導出され得る識別情報の組合せには特定組合せのみならず、非特定組合せが含まれることにより、所定のライン上に導出され得る識別情報の組合せのバリエーションを豊富にすることができる。一方、非特定再遊技表示結果が導出された場合には、非特定組合せが導出されるため、特定再遊技表示結果が導出された場合よりも再遊技表示結果の導出に気付かずに、遊技媒体を投入してしまう可能性が高まるが、検出された遊技媒体に応じて遊技用価値を更新させることができるために、投入した遊技媒体が受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。20

【0030】

なお、非特定組合せは、少なくとも、外形が同一と類似のうち少なくとも一方の識別情報以外の識別情報を含む組合せである点において特定組合せと異なるものであればよい。また、外形が同一の識別情報とは、一の識別情報と外形（たとえば、図柄の外縁の形）が同じ識別情報のことをいう。たとえば、外形が同一の識別情報には、一の識別情報と外形が同じで全体の色や模様が異なる識別情報、および一の識別情報と外形が同じで一部の色や模様が異なる識別情報が含まれる。また、外形が類似の識別情報とは、一の識別情報と外形（たとえば、図柄の外縁の形）が類似するために需要者である遊技者の視覚を通じて起こさせる美感（印象）が共通する識別情報をいい、その結果、観念的に同じ識別情報であると認識できる（異なる識別情報であると認識し難い）識別情報をいう。たとえば、外形が類似の識別情報には、（ア）一の識別情報と大きさのみが異なる識別情報、（イ）一の識別情報と外形が同一の識別情報が複数からなる識別情報、（ウ）一の識別情報にキャラクタがついた識別情報、（エ）一の識別情報と向きが異なるものの一の識別情報と観念的に同じものを想起させる識別情報、（オ）一の識別情報の一部が欠けているが全体としての外形が同じになる識別情報、（カ）一の識別情報の一部が隆起しているが全体としての外形が同じになる識別情報、（キ）一の識別情報の一部の形状が異なるが全体としての外形が同じになる識別情報、（ク）一の識別情報と観念的に同じものを想起させる識別情報、および（ア）～（ク）のうち複数の点において相違するが一の識別情報と観念的に同じ識別情報であると認識できる識別情報が含まれる。30

【0031】

複数のラインとは、入賞を発生させる所定の識別情報の組合せが導出されることにより入賞を発生させ得る入賞ラインのみ含むものであってもよく、また、入賞ラインのみならず、入賞を発生させる所定の識別情報の組合せが導出されたとしても当該入賞を発生させない無効ラインをも含むものであってもよい。また、ラインとは、複数の可変表示領域に跨って設定されたラインであれば、直線ラインに限らず、たとえば、左上段、中下段、および右上段を結ぶV字型のラインや、逆V字型のラインなど、どのような形状となるラインであってもよい。40

【0032】

(5) 上記(4)のスロットマシンにおいて、前記複数種類の識別情報は、前記特定再遊技組合せを構成する識別情報(リプレイ)とは異なる識別情報であって、入賞を発生させる識別情報の組合せを構成する特定識別情報(黒7)を含み、

前記非特定再遊技組合せは、前記特定識別情報を含む。

【0033】

このような構成によれば、非特定再遊技表示結果の導出に気付かず遊技媒体を投入してしまう可能性がより一層高まるが、検出された遊技媒体に応じて遊技用価値を更新させることができるために、投入した遊技媒体が受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。

10

【0034】

前記非特定再遊技組合せは、前記特定識別情報と前記再遊技組合せを構成する識別情報とから構成される組合せであってもよく、また、前記特定識別情報のみで構成される組合せであってもよい。

【0035】

(6) 上記(4)または(5)のスロットマシンにおいて、前記特定再遊技表示結果が導出されたときには賭数が設定される旨を特定態様(音、光、画像など)で報知する特定報知制御を行い(S14、第1サブ制御部91によるBET音出力)、前記非特定再遊技表示結果が導出されたときには前記特定報知制御と同じ制御を行わない(S15、第1サブ制御部91によるBET音出力させない)報知制御手段を備える。

20

【0036】

このような構成によれば、非特定再遊技表示結果の導出に気付かず遊技媒体を投入してしまう可能性がより一層高まるが、検出された遊技媒体に応じて遊技用価値を更新させることができるために、投入した遊技媒体が受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。

【0037】

特定報知制御は、賭数が設定される旨を示唆する制御であればよく、たとえば、所定音を出力させる制御であってもよく、所定演出(ランプ点灯、所定画像表示など)を実行させる制御であってもよい。

【0038】

(7) 上記(1)～(6)のうちいずれかのスロットマシンにおいて、前記第1遊技媒体検出時更新手段により前記賭数記憶手段に記憶されている賭数が更新されたときに、当該更新された賭数(賭数が3であるときは、3回分)に応じた所定の報知(BET音を出力)する賭数更新時出力手段(S34、第1サブ制御部91によるBET音出力)と、

30

前記第2遊技媒体検出時更新手段により前記遊技用価値記憶手段に記憶されている遊技用価値が更新されたときに、所定の報知と同一または略同一の報知をする(賭数が3であるときは、3回分のBET音を出力する)遊技用価値更新時出力手段(S39、第1サブ制御部91によるBET音出力)とを備える。

【0039】

このような構成によれば、再遊技表示結果の導出に気付かず遊技媒体を投入して遊技用価値が更新された場合でも、上限数に相当する回数までは所定情報と同じ情報が出力されるために、遊技者の勘違いで遊技媒体を投入して賭数を設定しているつもりであるにもかかわらず所定音が出力されないことにより、不信感や違和感を抱かせてしまうことを防止することができる。

40

【0040】

(8) 上記(1)～(7)のうちいずれかのスロットマシンにおいて、演出に係る出力を行う演出出力装置(液晶表示器51等)と、

前記演出制御手段から送信された演出指示情報(出力制御コマンド)に基づいて前記演出出力装置(液晶表示器51等)の制御を行う出力制御手段(第2サブ制御部191)が搭載された出力制御基板(第2演出制御基板190)とを備え、

50

前記出力制御基板は、前記基板ケースに収納されない（第2演出制御基板190は基板ケース外に設置される）。

【0041】

このような構成によれば、出力制御手段については、演出制御基板とは別個の出力制御基板に搭載されることで、演出制御基板の面積を小さくできるため、基板ケースが大型化することで基板ケースの取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【0042】

【図1】本実施の形態におけるスロットマシンの正面図である。

【図2】スロットマシンの内部構造図である。

10

【図3】リールの図柄配列を示す図である。

【図4】スロットマシンの構成を示すブロック図である。

【図5】遊技制御基板、第1演出制御基板、第2演出制御基板の接続状況および基板ケースの収容形態を示す図である。

【図6】基板ケースの構造を示す分解斜視図である。

【図7】小役の種類、小役の図柄組み合わせ、払枚数、および小役に関連する技術事項について説明するための図である。

【図8】再遊技役の種類、再遊技役の図柄組み合わせ、作動、および再遊技役に関連する技術事項について説明するための図である。

【図9】小役に関する抽選対象役の組み合わせについて説明するための図である。

20

【図10】再遊技役に関する抽選対象役の組み合わせについて説明するための図である。

【図11】メイン制御部が実行するゲーム処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図12】メイン制御部がゲーム処理中に実行する判定用役当選コマンド生成、格納処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図13】メイン制御部が管理する停止順種別テーブルについて説明するための図である。

【図14】メイン制御部が実行する演出状態判定処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図15】メイン制御部が実行するBET処理の制御内容を示すフローチャートである。

30

【図16】メイン制御部が実行するBET処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図17】メイン制御部が実行するBET処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図18】メイン制御部が実行するリップフリーズ処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図19】ゲーム終了後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングについて説明するための図である。

【図20】サブ制御部が実行するタイマ割込処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図21】サブ制御部が管理するナビストック抽選テーブルについて説明するための図である。

【図22】サブ制御部が実行するAT信号出力フラグ制御処理の制御内容を示すフローチャートである。

40

【図23】サブ制御部が実行する判定用ナビ演出処理の制御内容を示すフローチャートである。

【図24】ATに関するタイミングチャートの一例を示す図である。

【図25】ゲーム終了後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングについての変形例を説明するための図である。

【図26】遊技制御基板、第1演出制御基板、第2演出制御基板の接続状況および基板ケースの収容形態の変形例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0043】

50

本発明に係るスロットマシンを実施するための形態を実施例に基づいて以下に説明する。

【0044】

[スロットマシンの構成]

まず、本実施の形態に用いたスロットマシン1について以下に説明すると、本実施の形態のスロットマシン1は、前面が開口する筐体1aと、この筐体1aの側端に回動自在に枢支された前面扉1bと、から構成されている。

【0045】

本実施の形態のスロットマシン1の筐体1aの内部には、図2に示すように、外周に複数種の図柄が配列されたリール2L、2C、2R（以下、左リール、中リール、右リール）が水平方向に並設されており、図1に示すように、これらリール2L、2C、2Rに配列された図柄のうち連続する3つの図柄が前面扉1bに設けられた透視窓3から見えるように配置されている。10

【0046】

リール2L、2C、2Rの外周部には、図3に示すように、それぞれ「ベル」、「リブレイ」、「スイカA」、「白7」、「黒BAR」、「チェリー」、「スイカB」、「ブランク」、「白BAR」、および「黒7」といった互いに識別可能な複数種類の図柄が所定の順序で、それぞれ20個ずつ描かれている。「ベル」の図柄は、全体的に黄色の絵柄となり、「スイカA」および「スイカB」の図柄は、全体的に緑色の絵柄となり、「チェリー」の図柄は、全体的に赤色の絵柄からなる。リール2L、2C、2Rの外周部に描かれた図柄は、前面扉1bのリールパネルの略中央に設けられた透視窓3において各々上中下三段に表示される。上記の複数種類の図柄は、各々、他の図柄と外形が異なる図柄である。20

【0047】

各リール2L、2C、2Rは、各々対応して設けられリールモータ32L、32C、32R（図4参照）によって回転させることで、各リール2L、2C、2Rの図柄が透視窓3に連続的に変化しつつ表示されるとともに、各リール2L、2C、2Rの回転を停止させることで、透視窓3に3つの連続する図柄が表示結果として導出表示されるようになっている。

【0048】

リール2L、2C、2Rの内側には、リール2L、2C、2Rそれぞれに対して、基準位置を検出するリールセンサ33L、33C、33Rと、リール2L、2C、2Rを背面から照射するリールLED55と、が設けられている。また、リールLED55は、リール2L、2C、2Rの連続する3つの図柄に対応する12のLEDからなり、各図柄をそれぞれ独立して照射可能とされている。30

【0049】

前面扉1bにおける各リール2L、2C、2Rに対応する位置には、リール2L、2C、2Rを前面側から透視可能とする横長長方形状の透視窓3が設けられており、該透視窓3を介して遊技者側から各リール2L、2C、2Rが視認できるようになっている。

【0050】

前面扉1bには、メダルを投入可能なメダル投入部4、メダルが払い出されるメダル払出口9、クレジット（賭数の設定に使用可能な遊技者所有の遊技用価値として記憶されているメダル数）を用いて、その範囲内において遊技状態に応じて定められた規定数の賭数のうち最大の賭数（上限数：本実施の形態ではいずれの遊技状態においても3）を設定する際に操作されるMAXBETスイッチ6、クレジットとして記憶されているメダルおよび賭数の設定に用いたメダルを精算する（クレジットおよび賭数の設定に用いた分のメダルを返却させる）際に操作される精算スイッチ10、ゲームを開始する際に操作されるスタートスイッチ7、リール2L、2C、2Rの回転を各々停止する際に操作されるストップスイッチ8L、8C、8R、演出に用いるための演出用スイッチ56が遊技者により操作可能にそれぞれ設けられている。前面扉1bには、さらに、クレジットの範囲内におい4050

て遊技状態に応じてメダル1枚分の賭数を設定する際に操作される1枚BETスイッチ5がMAXBETスイッチ6に並べて設けられている(図1においては1枚BETスイッチ5を図示省略。図4参照)。なお、1枚BETスイッチ5は設けられていないものであつてもよい。

【0051】

本実施の形態では、回転を開始した3つのリール2L、2C、2Rのうち、最初に停止するリールを第1停止リールと称し、また、その停止を第1停止と称する。同様に、2番目に停止するリールを第2停止リールと称し、また、その停止を第2停止と称し、3番目に停止するリールを第3停止リールと称し、また、その停止を第3停止あるいは最終停止と称する。また、3つのリール2L、2C、2Rのうち、左リール2Lを第1停止することを左第1停止、中リール2Cを第1停止することを中第1停止、右リール2Rを第1停止することを右第1停止と称する。10

【0052】

また、本実施の形態では、遊技者がストップスイッチ8L、8C、8Rを操作する手順(押し順ともいう)には、順押し、順挟み押し、中左押し、中右押し、逆挟み押し、および逆押しが含まれる。順押しとは、左リール2Lを第1停止させた後に、中リール2Cを第2停止させる押し順をいう。また、順挟み押しとは、左リール2Lを第1停止させた後に、右リール2Rを第2停止させる押し順をいう。中左押しとは、中リール2Cを第1停止させた後に、左リール2Lを第2停止させる押し順をいう。中右押しとは、中リール2Cを第1停止させた後に、右リール2Rを第2停止させる押し順をいう。逆挟み押しとは、右リール2Rを第1停止させた後に、左リール2Lを第2停止させる押し順をいう。逆押しとは、右リール2Rを第1停止させた後に、中リール2Cを第2停止させる押し順をいう。20

【0053】

前面扉1bには、クレジットとして記憶されているメダル枚数が表示されるクレジット表示器11、役の発生により払い出されたメダル枚数やエラー発生時にその内容を示すエラーコードなどが表示される遊技補助表示器12、賭数が1設定されている旨を点灯により報知する1BETLED14、賭数が2設定されている旨を点灯により報知する2BETLED15、賭数が3設定されている旨を点灯により報知する3BETLED16、メダルの投入が可能な状態を点灯により報知する投入要求LED17、スタートスイッチ7の操作によるゲームのスタート操作が有効である旨を点灯により報知するスタート有効LED18、ウェイト(前回のゲーム開始から一定期間経過していないためにリールの回転開始を待機している状態)中である旨を点灯により報知するウェイト中LED19、後述するリプレイゲーム中である旨を点灯により報知するリプレイ中LED20が設けられたペイアウト表示器13が設けられている。30

【0054】

1枚BETスイッチ5やMAXBETスイッチ6の内部には、1枚BETスイッチ5やMAXBETスイッチ6の操作による賭数の設定操作が有効である旨を点灯により報知するBETスイッチ有効LED21(図4参照)が設けられており、ストップスイッチ8L、8C、8Rの内部には、該当するストップスイッチ8L、8C、8Rによるリールの停止操作が有効である旨を点灯により報知する左、中、右停止有効LED22L、22C、22R(図4参照)がそれぞれ設けられている。また、前面扉1bにおけるストップスイッチ8L、8C、8Rの下方には、スロットマシン1のタイトルや配当表などが印刷された下部パネルが設けられている。40

【0055】

前面扉1bの内側には、所定のキー操作により後述するエラー状態および後述する打止状態を解除するためのリセット操作を検出するリセットスイッチ23、後述する設定値の変更中や設定値の確認中にその時点の設定値が表示される設定値表示器24、打止状態(リセット操作がなされるまでゲームの進行が規制される状態)に制御する打止機能の有効/無効を選択するための打止スイッチ36a、自動精算処理(クレジットとして記憶され50

ているメダルを遊技者の操作によらず精算（返却）する処理）に制御する自動精算機能の有効／無効を選択するための自動精算スイッチ36b、メダル投入部4から投入されたメダルの流路を、筐体1a内部に設けられた後述のホッパータンク34a（図2参照）側またはメダル払出口9側のいずれか一方に選択的に切り替えるための流路切替ソレノイド30、メダル投入部4から投入され、ホッパータンク34a側に流下したメダルを検出する投入メダルセンサ31（流路切替ソレノイド30よりもホッパータンク34a側（下流側）に配置）を有するメダルセレクタ（図示略）、前面扉1bの開放状態を検出するドア開放検出スイッチ25（図4参照）が設けられている。投入メダルセンサ31は、メダルを検出可能なセンサを複数（たとえば3つ）備えており、これら複数のセンサが投入されたメダルを所定の順（上流側のセンサから順）に検出可能となるように構成されている。メイン制御部41は、これら複数のセンサによる検出結果が、メダル投入部4から投入されたメダルを所定の順で検出されたときの検出結果（適正な検出結果ともいう）となったことにより、投入メダルセンサ31により投入メダルが検出あるいは投入メダルの通過が検出されたと判定する。10

【0056】

筐体1a内部には、図2に示すように、前述したリール2L、2C、2R、リールモータ32L、32C、32R、各リール2L、2C、2Rのリール基準位置をそれぞれ検出可能なリールセンサ33L、33C、33R（図4参照）からなるリールユニット2、外部出力信号を出力するための外部出力基板1000、メダル投入部4から投入されたメダルを貯留するホッパータンク34a、ホッパータンク34aに貯留されたメダルをメダル払出口9より払い出すためのホッパーモータ34b、ホッパーモータ34bの駆動により払い出されたメダルを検出する払出センサ34cからなるホッパーユニット34、電源ボックス100が設けられている。20

【0057】

ホッパーユニット34の側部には、ホッパータンク34aから溢れたメダルが貯留されるオーバーフロータンク35が設けられている。オーバーフロータンク35の内部には、貯留された所定量のメダルを検出可能な高さに設けられた左右に離間する一対の導電部材からなる満タンセンサ35aが設けられており、導電部材がオーバーフロータンク35内に貯留されたメダルを介して接触することにより導電したときに内部に貯留されたメダル貯留量が所定量以上となったこと、すなわちオーバーフロータンクが満タン状態となったことを検出できるようになっている。30

【0058】

電源ボックス100の前面には、設定変更状態または設定確認状態に切り替えるための設定キースイッチ37、通常時においてはエラー状態や打止状態を解除するためのリセットスイッチとして機能し、設定変更状態においては後述する内部抽選の当選確率（出玉率）の設定値を変更するための設定スイッチとして機能するリセット／設定スイッチ38、電源をon/offする際に操作される電源スイッチ39が設けられている。

【0059】

本実施の形態のスロットマシン1においてゲームを行う場合には、まず、メダルをメダル投入部4から投入するか、あるいはクレジットを使用して賭数を設定する。クレジットを使用するにはMAXBETスイッチ6を操作すればよい。遊技状態に応じて定められた規定数の賭数が設定されると、入賞ラインL1（図1参照）が有効となり、スタートスイッチ7の操作が有効な状態、すなわち、ゲームが開始可能な状態となる。本実施の形態では、規定数の賭数として遊技状態にかかわらず3枚が定められて規定数の賭数が設定されると入賞ラインL1が有効となる。なお、遊技状態に対応する規定数のうち最大数を超えてメダルが投入された場合には、その分はクレジットに加算される。40

【0060】

入賞ラインとは、各リール2L、2C、2Rの透視窓3に表示された図柄の組み合わせが後述する小役や再遊技役などの図柄組み合わせであるかを判定するために設定されるラインである。なお、本実施の形態においては、これらの役を「入賞役」や「入賞」ともい50

い、いずれかの役を構成する図柄の組合せが入賞ライン上に停止することを、入賞する、入賞が発生するなどともいう。

【0061】

本実施の形態では、図1に示すように、リール2Lの中段、リール2Cの中段、リール2Rの中段、すなわち中段に水平方向に並んだ図柄を結ぶ入賞ラインL1のみが入賞ラインとして定められている。なお、本実施の形態では、1本の入賞ラインのみを適用しているが、複数の入賞ラインを適用してもよい。たとえば、入賞ラインは、左リール2Lの上段、中リール2Cの上段、右リール2Rの上段、すなわち上段に並んだ図柄を結ぶ入賞ラインL2と、左リール2Lの上段、中リール2Cの中段、右リール2Rの下段、すなわち右下がりに並んだ図柄を結ぶ入賞ラインL3と、左リール2Lの下段、中リール2Cの中段、右リール2Rの上段、すなわち右上がりに並んだ図柄を結ぶ入賞ラインL4と、左リール2Lの下段、中リール2Cの下段、右リール2Rの下段、すなわち下段に並んだ図柄を結ぶ入賞ラインL5とを含んでいてもよい。10

【0062】

ゲームが開始可能な状態でスタートスイッチ7を操作すると、各リール2L、2C、2Rが回転し、各リール2L、2C、2Rの図柄が連続的に変動する。この状態でいずれかのストップスイッチ8L、8C、8Rを操作すると、対応するリール2L、2C、2Rの回転が停止し、透視窓3に表示結果が導出表示される。

【0063】

そして全てのリール2L、2C、2Rが停止されたときにおいて、有効化された入賞ラインL1に小役を発生させる図柄の組合せが停止していないときには、当該停止時に1ゲームが終了する。一方、有効化された入賞ラインL1に小役を発生させる図柄の組合せが停止しているときには、その小役の入賞に応じて定められた枚数のメダルが遊技者に対して付与（クレジット加算、クレジットが上限数（本実施の形態では50）に達した場合にはメダル払出口9（図1参照）からメダル払出）されて、1ゲームが終了する。20

【0064】

なお、本実施の形態では、3つのリールを用いた構成を例示しているが、リールを1つのみ用いた構成、2つのリールを用いた構成、4つ以上のリールを用いた構成としてもよく、2以上のリールを用いた構成においては、2以上の全てのリールに導出された表示結果の組み合わせに基づいて入賞を判定する構成とすればよい。また、本実施の形態では、物理的なリールにて可変表示装置が構成されているが、液晶表示器などの画像表示装置にて可変表示装置が構成されていてもよい。30

【0065】

また、本実施の形態におけるスロットマシン1にあっては、ゲームが開始されて各リール2L、2C、2Rが回転して図柄の変動が開始した後、いずれかのストップスイッチ8L、8C、8Rが操作されたときに、当該ストップスイッチ8L、8C、8Rに対応するリールの回転が停止して図柄が停止表示される。ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作から対応するリール2L、2C、2Rの回転を停止するまでの最大停止遅延時間は190ms（ミリ秒）である。40

【0066】

リール2L、2C、2Rは、1分間に80回転し、 80×21 （1リール当たりの図柄コマ数）=1680コマ分の図柄を変動させてるので、190msの間では最大で4コマの図柄を引き込むことができるようとなる。つまり、停止図柄として選択可能なのは、ストップスイッチ8L、8C、8Rが操作されたときに表示されている図柄と、そこから4コマ先までにある図柄、合計5コマ分の図柄である。このため、たとえば、ストップスイッチ8L、8C、8Rのいずれかが操作されたときに当該ストップスイッチに対応するリールの下段に表示されている図柄を基準とした場合、当該図柄から4コマ先までの図柄を下段に表示させることができるために、リール2L、2C、2R各々において、ストップスイッチ8L、8Rのうちいずれかが操作されたときに当該ストップスイッチに対応するリールの中段に表示されている図柄を含めて5コマ以内に配置されている図柄を入賞ライン上50

に表示させることができる。

【0067】

図4は、スロットマシン1の構成を示すブロック図である。スロットマシン1には、図4に示すように、遊技制御基板40、第1演出制御基板90、第2演出制御基板190、電源基板101が設けられており、遊技制御基板40によって遊技状態が制御され、第1演出制御基板90および第2演出制御基板190によって遊技状態に応じた演出が制御され、電源基板101によってスロットマシン1を構成する電気部品の駆動電源が生成され、各部に供給される。

【0068】

電源基板101には、外部からAC100Vの電源が供給されるとともに、このAC100Vの電源からスロットマシン1を構成する電気部品の駆動に必要な直流電圧が生成され、遊技制御基板40および遊技制御基板40を介して接続された第1演出制御基板90に供給され、さらに第1演出制御基板90を介して第2演出制御基板190に供給されるようになっている。尚、第1演出制御基板90に対して電源を供給する電源供給ラインが遊技制御基板40を介さず、電源基板101から第1演出制御基板90に直接接続され、電源基板101から第1演出制御基板90に対して直接電源が供給される構成としてもよい。また、第2演出制御基板190に対して電源を供給する電源供給ラインが第1演出制御基板90を介さず、電源基板101または遊技制御基板40から第2演出制御基板190に直接接続され、電源基板101または遊技制御基板40から第2演出制御基板190に対して直済電源が供給される構成としてもよい。

【0069】

また、電源基板101には、前述したホッパーモータ34b、払出センサ34c、満タンセンサ35a、設定キースイッチ37、リセット／設定スイッチ38、電源スイッチ39が接続されている。

【0070】

遊技制御基板40には、前述した1枚BETスイッチ5(図1では図示略)、MAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8R、精算スイッチ10、リセットスイッチ23、打止スイッチ36a、自動精算スイッチ36b、投入メダルセンサ31、ドア開放検出スイッチ25、リールセンサ33L、33C、33Rが接続されているとともに、電源基板101を介して前述したホッパーモータ34b、払出センサ34c、満タンセンサ35a、設定キースイッチ37、リセット／設定スイッチ38が接続されており、これらに接続されたスイッチ類の検出信号が入力されるようになっている。

【0071】

また、遊技制御基板40には、前述したクレジット表示器11、遊技補助表示器12、1～3BETLED14～16、投入要求LED17、スタート有効LED18、ウェイト中LED19、リプレイ中LED20、BETスイッチ有効LED21、左、中、右停止有効LED22L、22C、22R、設定値表示器24、流路切替ソレノイド30、リールモータ32L、32C、32Rが接続されているとともに、電源基板101を介して前述したホッパーモータ34bが接続されており、これら電気部品は、遊技制御基板40に搭載された後述のメイン制御部41の制御に基づいて駆動されるようになっている。

【0072】

遊技制御基板40には、メイン制御部41、乱数回路42、パルス発信器43、スイッチ検出回路44、モータ駆動回路45、ソレノイド駆動回路46、LED駆動回路47、電断検出回路48、リセット回路49が搭載されている。

【0073】

メイン制御部41は、メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータからなり、遊技の制御を行うとともに、遊技制御基板40に搭載された制御回路の各部を直接的または間接的に制御する。

【0074】

10

20

30

40

50

乱数回路42は、所定範囲（本実施の形態では0～65535）の乱数を発生させる。パルス発信器43は、一定周波数のクロック信号を乱数回路42に供給する。スイッチ検出回路44は、遊技制御基板40に直接または電源基板101を介して接続されたスイッチ類から入力された検出信号を取り込んでメイン制御部41に伝送する。モータ駆動回路45は、メイン制御部41から出力されたモータ駆動信号（ステッピングモータの位相信号）をリールモータ32L、32C、32Rに伝送する。ソレノイド駆動回路46は、メイン制御部41から出力されたソレノイド駆動信号を流路切替ソレノイド30に伝送する。LED駆動回路47は、メイン制御部41から出力されたLED駆動信号を遊技制御基板40に接続された各種表示器やLEDに伝送する。電断検出回路48は、スロットマシン1に供給される電源電圧を監視し、電圧低下を検出したときに、その旨を示す電圧低下信号をメイン制御部41に対して出力する。リセット回路49は、電源投入時または電源遮断時などの電源が不安定な状態においてメイン制御部41にシステムリセット信号を与える。

【0075】

メインCPU41aは、計時機能、タイマ割込などの割込機能（割込禁止機能を含む）を備え、ROM41bに記憶されたプログラム（後述）を実行して、遊技の進行に関する処理を行うとともに、遊技制御基板40に搭載された制御回路の各部を直接的または間接的に制御する。ROM41bは、メインCPU41aが実行するプログラムや各種テーブルなどの固定的なデータを記憶する。RAM41cは、メインCPU41aがプログラムを実行する際のワーク領域などとして使用される。I/Oポート41dは、メイン制御部41が備える信号入出力端子を介して接続された各回路との間で制御信号を入出力する。

【0076】

また、メイン制御部41には、停電時においてもバックアップ電源が供給されており、バックアップ電源が供給されている間は、RAM41cに記憶されているデータが保持されるようになっている。

【0077】

メインCPU41aは、基本処理として遊技制御基板40に接続された各種スイッチ類の検出状態が変化するまでは制御状態に応じた処理を繰り返しループし、各種スイッチ類の検出状態の変化に応じて段階的に移行する処理を実行する。また、メインCPU41aは、前述のように割込機能を備えており、割込の発生により基本処理に割り込んで割込処理を実行できるようになっており、電断検出回路48から出力された電圧低下信号の入力に応じて電断処理（メイン）を実行し、一定時間間隔ごとにタイマ割込処理（メイン）を実行する。なお、タイマ割込処理（メイン）の実行間隔は、基本処理において制御状態に応じて繰り返す処理が一巡する時間とタイマ割込処理（メイン）の実行時間とを合わせた時間よりも長い時間に設定されており、今回と次回のタイマ割込処理（メイン）との間で必ず制御状態に応じて繰り返す処理が最低でも一巡することとなる。

【0078】

電断処理においては、当該処理の開始とともに他の割込処理の実行を禁止する。そして、使用している可能性がある全てのレジスタをRAM41cに退避させる処理が行われる。これにより、電断復旧時に、元の処理に復帰できるようにする。次に、全出力ポートを初期化した後、RAM41cに記憶されている全てのデータに基づいてRAMパリティを計算して所定のパリティ格納領域にセットし、RAMアクセスを禁止する。そして何らの処理も行わないループ処理に入る。すなわち、そのまま電圧が低下すると内部的に動作停止状態になる。よって、電断時に確実にメイン制御部41は動作停止する。このように電断処理においては、その時点のRAMパリティを計算してパリティ格納領域に格納されるようになっており、次回起動時において計算したRAMパリティと比較することで、RAM41cに格納されているデータが正常か否かを確認できるようになっている。

【0079】

次に、リセット回路49は、電源投入時においてメイン制御部41が起動可能なレベルまで電圧が上昇したときにメイン制御部41に対してリセット信号を出力し、メイン制御

10

20

30

40

50

部41を起動させるとともに、メイン制御部41から定期的に出力される信号に基づいてリセットカウンタの値がクリアされずにカウントアップした場合、すなわちメイン制御部41が一定時間動作を行わなかった場合にメイン制御部41に対してリセット信号を出力し、メイン制御部41を再起動させる回路である。

【0080】

また、メインCPU41aは、I/Oポート41dを介して第1演出制御基板90に、各種のコマンドを送信する。ここで、遊技制御基板40から第1演出制御基板90へは、たとえば、ダイオードやトランジスタなどの単方向性回路などを用いて、一方（遊技制御基板40から第1演出制御基板90への方向）のみにしか信号が通過できないように構成されている。そのため、遊技制御基板40から第1演出制御基板90へ送信されるコマンドは一方で送られ、第1演出制御基板90から遊技制御基板40へ向けてコマンドが送られることはない。遊技制御基板40から第1演出制御基板90へのコマンド送信は、シリアル通信にて行われる。なお、遊技制御基板40と第1演出制御基板90とは、直接接続される構成に限らず、たとえば、中継基板を介して接続されるように構成してもよい。なお、本実施の形態では、遊技制御基板40から第1演出制御基板90へ送信されるコマンドは一方で送られる構成であるが、第1演出制御基板90から遊技制御基板40へ所定のコマンド（たとえば、演出に関するコマンドであり、ATに制御されているか否かなどを特定できるコマンド）を送信する構成、すなわち遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが双方向通信可能な構成としてもよい。

【0081】

第1演出制御基板90には、演出用スイッチ56が接続されており、この演出用スイッチ56の検出信号が入力されるようになっている。第1演出制御基板90には、第1サブCPU91a、ROM91b、RAM91c、I/Oポート91dを備えたマイクロコンピュータにて構成され、演出（遊技者にとっての有利度に影響する演出を含む）の制御を行う第1サブ制御部91、電源投入時または第1サブCPU91aからの初期化命令が一定時間入力されないときに第1サブCPU91aにリセット信号を与えるリセット回路95、第1演出制御基板90に接続された演出用スイッチ56から入力された検出信号を検出するスイッチ検出回路96、日付情報および時刻情報を含む時間情報を出力する時計装置97、スロットマシン1に供給される電源電圧を監視し、電圧低下を検出したときに、その旨を示す電圧低下信号を第1サブCPU91aに対して出力する電断検出回路98、その他の回路等、が搭載されており、第1サブCPU91aは、遊技制御基板40から送信されるコマンドを受けて、演出を行うための各種の制御を行う。

【0082】

リセット回路95は、遊技制御基板40においてメイン制御部41にシステムリセット信号を与えるリセット回路49よりもリセット信号を解除する電圧が低く定められており、電源投入時において第1サブ制御部91は、メイン制御部41よりも早い段階で起動するようになっている。一方で、電断検出回路98は、遊技制御基板40においてメイン制御部41に電圧低下信号を出力する電断検出回路48よりも電圧低下信号を出力する電圧が低く定められており、電断時において第1サブ制御部91は、メイン制御部41よりも遅い段階で停電を検知し、後述する電断処理（サブ）を行うこととなる。

【0083】

第1サブ制御部91は、メイン制御部41と同様に、割込機能を備えており、メイン制御部41からのコマンド受信時に割込を発生させて、メイン制御部41から送信されたコマンドを取得し、バッファに格納するコマンド受信割込処理を実行する。また、第1サブ制御部91は、システムクロックの入力数が一定数に到達する毎、すなわち一定時間間隔（約2ms）毎に割込を発生させて後述するタイマ割込処理（サブ）を実行する。

【0084】

また、第1サブ制御部91は、メイン制御部41とは異なり、コマンドの受信に基づいて割込が発生した場合には、タイマ割込処理（サブ）の実行中であっても、当該処理に割り込んでコマンド受信割込処理を実行し、タイマ割込処理（サブ）の契機となる割込が同

10

20

30

40

50

時に発生してもコマンド受信割込処理を最優先で実行するようになっている。

【0085】

また、第1サブ制御部91にも、停電時においてバックアップ電源が供給されており、バックアップ電源が供給されている間は、RAM91cに記憶されているデータが保持されるようになっている。

【0086】

本実施の形態において第1サブ制御部91は、シリアル通信回路(図示略)を介して第2サブ制御部191に演出装置の出力パターンを示す各種の出力制御コマンドを送信する。第1サブ制御部91から第2サブ制御部191へ送信される出力制御コマンドは一方方向のみで送られ、第2サブ制御部191から第1サブ制御部91へ向けて出力制御コマンドが送られることはない。また、本実施の形態では、シリアル通信回路を介して第2サブ制御部191に対して出力制御コマンドを送信する構成、すなわち出力制御コマンドをシリアル信号にて送信する構成であるが、パラレル出力ポート(図示略)を介して第2サブ制御部191に対して出力制御コマンドが送信される構成、すなわち出力制御コマンドがパラレル信号にて送信される構成としてもよい。10

【0087】

また、本実施の形態では、第1サブ制御部91から第2サブ制御部191へ送信される出力制御コマンドは一方方向のみで送られる構成であるが、第2サブ制御部191から第1サブ制御部91へ第2サブ制御部191の制御状態を示すコマンドを送信する構成、すなわち第1サブ制御部91と第2サブ制御部191とが双方向通信可能な構成としてもよい。この場合には、例えば、各演出装置の出力状況を監視し、演出装置に異常等が生じた際に、演出装置の異常等を第1サブ制御部91に通知するようにしてもよい。また、タッチセンサ付液晶表示装置や演出用スイッチといった入力機器を接続し、入力機器からの入力情報を特定可能なコマンドを第2サブ制御部191が第1サブ制御部91に送信するようにしてもよい。20

【0088】

第2演出制御基板190には、スロットマシン1の前面扉1bに配置されており、演出等に応じて所定の情報(キャラやメッセージなど)を表示する液晶表示器51(図4参照)、演出等に応じて発光される演出効果LED52、演出等に応じて発光される演出用停止LED57a、57b、演出等に応じて音が出力されるスピーカ53、54、前述したリールLED55等の演出装置が接続されており、これら演出装置は、第2演出制御基板190に搭載された第2サブ制御部191による制御に基づいて駆動されるようになっている。30

【0089】

尚、本実施の形態では、演出装置として液晶表示器51、演出効果LED52、演出用停止LED57a、57b、スピーカ53、54、リールLED55を例示しているが、演出装置は、これらに限られず、例えば、機械的に駆動する表示装置や機械的に駆動する役モノなどを演出装置として適用してもよい。

【0090】

第2演出制御基板190には、第2サブCPU191a、ROM191b、RAM191c、I/Oポート191dを備えたマイクロコンピュータにて構成され、演出装置の出力制御を行う第2サブ制御部191、第2演出制御基板190に接続された液晶表示器51の表示制御を行う表示制御回路92、演出効果LED52、リールLED55の駆動制御を行うLED駆動回路93、スピーカ53、54からの音声出力制御を行う音声出力回路94、電源投入時または第2サブCPU191aからの初期化命令が一定時間入力されないときに第2サブCPU191aにリセット信号を与えるリセット回路195、各演出装置に実行させる演出に用いるデータ(例えば、液晶表示器51にて表示される画像データ、スピーカ53、54から出力される音声データ等)が予め記録された演出データ用ROM192、その他の回路等、が搭載されており、第2サブ制御部191は、第1サブ制御部91から送信される出力制御コマンドに基づいて各種の演出装置の出力制御を直接的40

または間接的に行えるようになっている。

【0091】

尚、第2サブ制御部191には、第1サブ制御部91と異なり停電時においてバックアップ電源は供給されず、停電時にはRAM191cに記憶されているデータは保持されないようになっている。

【0092】

本実施の形態では、演出に関する制御が、第1演出制御基板90に搭載された第1サブ制御部91と、第2演出制御基板190に搭載された第2サブ制御部191と、により連携して行われる。

【0093】

10

詳しくは、第1サブ制御部91は、メイン制御部41から送信されたコマンドに基づいて演出パターン、演出装置の制御パターンなどを決定し、決定結果に基づいて演出装置の出力パターンを特定可能な出力制御コマンドを第2サブ制御部191に対して送信する。

【0094】

一方、第2サブ制御部191は、第1サブ制御部91から送信された出力制御パターンから演出装置の出力パターンを特定し、特定した出力パターンに基づいて演出装置の出力制御を行うようになっている。

【0095】

20

すなわち本実施の形態では、第1サブ制御部91が、演出内容（遊技者にとっての有利度に影響する演出を含む）を決定する一方、第2サブ制御部191が、第1サブ制御部91による決定内容に従って演出装置の出力制御のみを行うようになっており、第2サブ制御部191は、独自に演出内容を決定しない構成となっている。

【0096】

[基板ケース200について]

次に、図5を用いて、遊技制御基板40、第1演出制御基板90、および第2演出制御基板190の関係を説明する。遊技制御基板40および第1演出制御基板90は、互いに並設された状態、すなわち遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが重ならない状態で1つの基板ケース200内に収容される。基板ケース200は、たとえば、透明な熱可塑性合成樹脂からなる。その際、これら遊技制御基板40と第1演出制御基板90とは、互いの対向端辺部に設けられた雄雌のコネクタ410、420を介して基板対基板接続され、コネクタ410、420を介して遊技制御基板40から第1演出制御基板90に対して各種コマンドを送信できるようになっている。なお、図5では、雄雌のコネクタ410、420については、簡易的に記載している。また、本実施の形態では、基板ケース200内に収容される遊技制御基板40と第1演出制御基板90とは、コネクタ410、420を介して基板対基板接続されているが、ケーブル等を介して配線接続してもよい。

30

【0097】

また、図5に示すように、遊技制御基板40および第1演出制御基板90がコネクタ410、420を介して基板対基板接続された状態で1つの基板ケース200内に収納される。また、第2演出制御基板190は、基板ケース200に収容されず、基板ケース200の外に設置されるようになっている。すなわち第2サブ制御部191については、第1演出制御基板90とは別個の第2演出制御基板190に搭載されることで、第1演出制御基板90の面積を小さくできるため、基板ケース200を小型化できる。

40

【0098】

図6は、基板ケース200の構造を示す分解斜視図である。図6に示すように、基板ケース200は、遊技制御基板40の裏面（他面）40b側および第1演出制御基板90の裏面90b側を覆うベース体としてのベース部材201と、遊技制御基板40の実装面（一面）40a側および第1演出制御基板90の実装面（一面）90b側を覆うカバー体としてのカバー部材202と、から構成され、遊技制御基板40および第1演出制御基板90を挟持するように組み付けられるものである。

【0099】

50

他方の短辺の側壁の長手方向の中央部には、カバー体側封止部としての板状のカバー側溶着部223が外向きに延設され、ベース部材201とカバー部材202とが位置合わせされたときに、ベース部材201のベース側溶着部207の上面側に対向するようになっている。

【0100】

側壁の長手方向の上側方位置には、ベース部材201とカバー部材202とが位置合わせされたときに、ベース部材201のネジ孔209の前面側に対向して配置されるカバー側封印部224が形成されている。カバー側封印部224の前面は、封印シール400を貼着可能な平坦状の封印シール貼付面とされている。

【0101】

ここで、例えばメーカー等により、遊技制御基板40および第1演出制御基板90を基板ケース200内に収納して遊技店等に出荷する際等においては、溶着部であるカバー側溶着部223とベース側溶着部207とを溶着（例えば、超音波溶着機等を用いた超音波溶着、かしめ）する（第1封止状態とも言う）。また、ネジ226がネジ孔209に貫通されてネジ止めされるとともに、ベース部材201に設けられた挿通穴222に、ベース部材201に設けられた係止片203が挿通される。

10

【0102】

そして、カバー側封印部224とベース側封印部229とに跨るように封印シール400を貼付して封止状態（第2封止状態または封印状態とも言う）を構成するとともに、該貼着した封印シール400を覆うように、合成樹脂材からなるコ字形のシール保護カバー228をカバー部材202とベース部材201とを挟み込むように装着し、封印シール400を保護した状態で出荷する。

20

【0103】

このようにベース側溶着部207とカバー側溶着部223との対向面が融解変形して溶着されて互いに一体化されることで、両者を剥離させることが極めて困難となる。そしてこのようにベース側溶着部207とカバー側溶着部223との対向面が固着されることで、ベース部材201に対するカバー部材202のスライド移動が規制されるため、ベース部材201に対するカバー部材202の係止状態を解除することができなくなる。すなわち、ベース側溶着部207の溶着面とカバー側溶着部223のカバー側溶着面との固着状態を解除しない限り、カバー部材202を開放することができない封止状態が形成される。

30

【0104】

ここで、例えばカバー部材202をベース部材201に対して係止解除方向に強制的にスライド移動させることでカバー側溶着部223とベース側溶着部207とを剥離する場合、互いの対向面同士が融解して変形していることから、カバー側溶着部223およびベース側溶着部207双方、つまりベース部材201およびカバー部材202双方に傷や変形痕が残ることになるため、カバー部材202が開放（開封）された可能性があることを確実に発見することができる。

【0105】

そしてベース側溶着部207とカバー側溶着部223との対向面を溶着により接合することにより封止状態が形成された場合、封止状態を解除してカバー部材202を開封した際にはベース部材201やカバー部材202の接合部が破壊されてその痕跡が確実に残るため、不正行為が行われた可能性があることを発見することが可能となる。

40

【0106】

また、ベース側溶着部207とカバー側溶着部223とを溶着により接合することで、ネジ等により接合する場合に比べて基板ケース200の側辺の長手方向に接合面が広がるため、封止状態において基板ケース200の短辺部を強引に撓ませてベース部材201とカバー部材202との間に隙間を形成し、該隙間から針金等の異物を進入させることが困難となる。

【0107】

50

封印シール400は、略矩形状のベースシート(図示略)を備えており、ベースシート(図示略)の背面には粘着剤が塗布され粘着層(図示略)が形成されている。粘着層には不正監視用の電子タグとしてのICタグ403が埋め込まれている。

【0108】

ICタグ403は、ICチップおよびアンテナ部より構成されており、ICチップは集積回路として形成されるものであり、制御部およびメモリ領域(記憶部)を有する。メモリ領域は、データ書き換え不可な不揮発性メモリ(ROM)により構成されており、その記憶容量は例えば128bitとなっている。メモリ領域には、識別情報としてのID情報が格納されている。具体的には、製造メーカー名(又は複数のメーカーごとに付されたメーカー固有番号)、遊技機固有のID番号が格納されている。ICチップのメモリ領域はデータ書き換え不可であるため、ID情報が不正に改ざんされる等の不都合が抑制できるようになっている。10

【0109】

ICチップのID情報は、制御部によって呼び出されてアンテナ部から発信することができるよう構成されており、アンテナ部から発信されたID情報を、リーダ装置で受信して読み取ることができるようになっている。詳細には、リーダ装置からは前記周波数の電波で呼び出しが行われるようになっており、この電波により誘導電磁界が形成される。そして、誘導電磁界内にアンテナ部が含まれると、アンテナ部に電磁誘導で起電力が発生する。ICチップではこの起電力を電源として、メモリ領域に格納されているID情報を制御部で呼び出してアンテナ部から発信する。20

【0110】

封印シール400をベース側封印部229およびカバー側封印部224から剥がそうとする場合、封印シール400の破断が生じ易いとともに、アンテナ部が分断されやすくなる。アンテナ部が分断された場合、特にその分断箇所が後述する発信不可能部である場合にはID情報が出力されなくなるので、ID情報をリーダ装置で読み取ることができなくなる。尚、発信不可能部以外の箇所で分断された場合にもID情報が出力されなくなる、或いは出力されにくくなることがある。よって、遊技制御基板40や第1演出制御基板90に対して不正行為が行われた場合には、それを容易に発見することができる。

【0111】

また、封印シール400の外面がシール保護カバー228により被覆されることにより、封印状態において封印シール400の表面がシール保護カバー228により保護され、封印シール400やICタグ403に直接触れることができなくなるため、封印シール400やICタグ403に対する不正行為を極力防止できるとともに、基板ケース200の筐体1aへの取り付け、取り外し作業時や使用時等において、ICタグ403に何らかの外力が加わって破損が生じることを回避することができる。30

【0112】

また、カバー部材202は、位置合わせされた状態からベース部材201に対して係止解除方向にスライド移動させなければベース部材201から離脱させることができない構造とされている。すなわち、ベース部材201に対するカバー部材202の離脱方向に対して略直交する方向に向けてスライド移動案内するスライド移動案内手段を備え、このスライド移動案内手段によりスライド移動案内されている状態で係止されるようになっていることで、カバー側溶着部223とベース側溶着部207とを互いに反対側に向けて引き離そうとする際に係止作用が働くため、カバー側溶着部223とベース側溶着部207とを剥離させることが極めて困難となる。40

【0113】

また、基板ケース200と同種の2つの基板ケースを入手したとしても、いずれもカバー部材202を開放する際に、ベース部材201およびカバー部材202双方に傷が残り、傷のないベース部材201とカバー部材202とを得ることができないので、新規な基板ケース200を不正に構成することが極めて困難となる。

【0114】

10

20

30

40

50

このように、カバー側溶着部 223 とベース側溶着部 207 とが互いに溶着（固着）されることで、ベース部材 201 に対するカバー部材 202 のスライド移動が規制されることになる。すなわち、ベース部材 201 の一方の短辺に形成された係止片 203、203 がカバー部材 202 の挿通穴 222、222 に係止された状態で、他方の短辺のカバー側溶着部 223 とベース側溶着部 207 とが固着されることで、ベース部材 201 の上面がカバー部材 202 により閉鎖される封止状態が構成される。この封止状態は、カバー部材 202 のカバー側溶着部 223 およびベース部材 201 のベース側溶着部 207 の溶着部双方を切断（破壊）しない限り解除することができなくなるので、カバー部材 202 が開放された場合にはその痕跡、つまり基板ケース 200 の一部が破壊された痕跡が確実に残り、これにより、基板ケース 200 内に収納された遊技制御基板 40 や第 1 演出制御基板 90 に対して何らかの不正行為が行われた可能性があることを発見することが可能となる。

【0115】

尚、本実施例では、ベース部材 201 とカバー部材 202 とが閉鎖位置に位置合わせされたときに、カバー側溶着部 223 とベース側溶着部 207 とが当接するようになっていたが、互いに溶着可能に配置されれば、カバー側溶着部 223 とベース側溶着部 207 とが互いに離間して配置されてもよい。この場合、例えばホーン H の先端に形成したボス（図示略）を下方のベース側溶着部 207 を溶解させながら上方のカバー側溶着部 223 まで押し込むスポット溶着等が適用可能である。

【0116】

[設定値]

本実施の形態のスロットマシン 1 は、設定値に応じてメダルの払出率が変わるものである。詳しくは、後述する内部抽選において設定値に応じた当選確率を用いることにより、メダルの払出率が変わることになっている。設定値は 1 ~ 6 の 6 段階からなり、6 が最も払出率が高く、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど払出率が低くなる。すなわち設定値として 6 が設定されている場合には、遊技者にとって最も有利度が高く、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。

【0117】

[電断処理]

本実施の形態におけるスロットマシン 1 においては、メイン C P U 41a が電断検出回路 48 からの電圧低下信号を検出した際に、電断処理（メイン）を実行する。電断処理（メイン）では、レジスタを後述する R A M 41c のスタックに退避し、R A M 41c にいずれかのビットが 1 となる破壊診断用データ、すなわち 0 以外の特定のデータを格納するとともに、R A M 41c の全ての領域に格納されたデータに基づく R A M パリティが 0 となるように R A M パリティ調整用データを計算し、R A M 41c に格納する処理を行うようになっている。

【0118】

そして、メイン C P U 41a は、その起動時において R A M 41c の全ての領域に格納されたデータに基づいて R A M パリティを計算するとともに、破壊診断用データの値を確認し、R A M パリティが 0 であり、かつ破壊診断用データの値も正しいことを条件に、R A M 41c に記憶されているデータに基づいてメイン C P U 41a の処理状態を電断前の状態に復帰させるが、R A M パリティが 0 でない場合（1 の場合）や破壊診断用データの値が正しくない場合には、R A M 異常と判定し、R A M 異常エラーコードをレジスタにセットして R A M 異常エラー状態に制御し、遊技の進行を不能化させようになっている。なお、R A M 異常エラー状態は、他のエラー状態と異なり、リセットスイッチ 23 やリセット / 設定スイッチ 38 を操作しても解除されないようになっており、設定変更状態において新たな設定値が設定されるまで解除されることがない。

【0119】

また、第 1 サブ C P U 91a も電断検出回路 98 からの電圧低下信号を検出した際に、電断処理（サブ）を実行する。電断処理（サブ）では、レジスタを後述する R A M 91c

10

20

30

40

50

のスタックに退避し、RAM91cにいずれかのビットが1となる破壊診断用データを格納するとともに、RAM91cの全ての領域に格納されたデータに基づくRAMパリティが0となるようにRAMパリティ調整用データを計算し、RAM91cに格納する処理を行うようになっている。

【0120】

そして、第1サブCPU91aは、その起動時においてRAM91cの全ての領域に格納されたデータに基づいてRAMパリティを計算し、RAMパリティが0であることを条件に、RAM91cに記憶されているデータに基づいて第1サブCPU91aの処理状態を電断前の状態に復帰させるが、RAMパリティが0でない場合(1の場合)には、RAM異常と判定し、RAM91cを初期化するようになっている。この場合、第1サブCPU91aと異なり、RAM91cが初期化されるのみで演出の実行が不能化されることはない。10

【0121】

〔初期化〕

次に、メイン制御部41のRAM41cの初期化について説明する。メイン制御部41のRAM41cの格納領域は、重要ワーク、非保存ワーク、一般ワーク、特別ワーク、未使用領域、スタック領域に区分されている。

【0122】

重要ワークは、各種表示器やLEDの表示用データ、I/Oの入出力データなど、初期化すると不都合があるデータが格納されるワークである。非保存ワークは、各種スイッチ類の状態を保持するワークであり、起動時にRAM41cのデータが破壊されているか否かにかかわらず必ず値が設定されることとなる。一般ワークは、停止制御テーブル、停止図柄、メダルの払出枚数など、初期化可能なデータが格納されるワークである。特別ワークは、各種ソフトウェア乱数など、設定開始前にのみ初期化されるデータが格納されるワークである。未使用領域は、RAM41cの格納領域のうち使用していない領域であり、後述する複数の初期化条件のいずれか1つでも成立すれば初期化されることとなる。スタック領域は、メイン制御部41のレジスタから退避したデータが格納される領域であり、このうちの未使用スタック領域は、未使用領域と同様に、後述する複数の初期化条件のいずれか1つでも成立すれば初期化されることとなるが、使用中スタック領域は、プログラムの続行のため、初期化されることはない。2030

【0123】

本実施の形態においてメイン制御部41は、設定キースイッチ37がonの状態での起動時、RAM異常エラー発生時、設定キースイッチ37がoffの状態での起動時でRAM41cのデータが破壊されていないとき、1ゲーム終了時の5つからなる初期化条件が成立した際に、各初期化条件に応じて初期化される領域の異なる4種類の初期化を行う。

【0124】

〔入賞ライン〕

本実施の形態のスロットマシン1は、遊技状態に応じて設定可能な賭数の規定数が定められており、遊技状態に応じて定められた規定数の賭数が設定されたことを条件にゲームを開始させることが可能となる。なお、本実施の形態では、遊技状態に応じた規定数の賭数が設定された時点で、入賞ラインL1が有効化される。40

【0125】

本実施の形態のスロットマシン1は、全てのリール2L、2C、2Rが停止した際に、有効化された入賞ラインL1上に役と呼ばれる図柄の組み合わせが揃うと入賞となる。役は、同一図柄の組み合わせ(たとえば、通常リップ:「リプレイ - リプレイ - リプレイ」など)であってもよいし、異なる図柄を含む組み合わせ(たとえば、ベルリップ1:「リプレイ - 白7 - スイカA」など)であってもよい。なお、異なる図柄を含む組み合わせとは、他の図柄と異なる図柄を一つ以上含む組み合わせをいう。

【0126】

入賞となる役の種類は、遊技状態に応じて定められているが、大きく分けて、メダルの50

払い出しを伴う小役と、遊技用価値（メダル、クレジットなど）を用いた賭数の設定を行わずとも入賞したゲームで設定されていた賭数を自動設定させることにより次のゲームを行うことが可能な再遊技役とがある。なお、本実施の形態では、小役と再遊技役のみを備える構成であるが、遊技者にとって有利な遊技状態への移行を伴う特別役（ビッグボーナス、チャレンジボーナスなど）を備えていてもよい。遊技状態に応じて定められた各役の入賞が発生するためには、後述する内部抽選に当選して、当該役の当選フラグがRAM41cに設定されている必要がある。なお、小役および再遊技役の当選フラグは、当該フラグが設定されたゲームにおいてのみ有効とされ、次のゲームでは無効となる。特別役を備える場合、特別役の当選フラグは、当該フラグにより許容された役の組合せが揃うまで有効とされ、許容された役の組合せが揃ったゲームにおいて無効となる。

10

【0127】

[内部抽選]

以下、本実施の形態の内部抽選について説明する。内部抽選は、上記した各役への入賞を許容するか否かを、全てのリール2L、2C、2Rの表示結果が導出表示される以前に（実際には、スタートスイッチ7の検出時）決定するものである。内部抽選では、まず、スタートスイッチ7の検出時に内部抽選用の乱数値（0～65535の整数）を取得する。詳しくは、RAM41cに割り当てられた乱数値格納ワークの値と同じくRAM41cに割り当てられた抽選用ワークに設定する。そして、遊技状態に応じて定められた各役について、抽選用ワークに格納された数値データと、遊技状態を特定するための遊技状態フラグの値、賭数および設定値に応じて定められた各役の判定値数に応じて行われる。

20

【0128】

乱数値格納ワークは、スタートスイッチ7の操作と同時にラッチされた数値データが格納される記憶領域であり、新たな数値データがラッチされるごとに、ラッチされた数値データがその後のタイマ割込処理（メイン）において読み出され、乱数値格納ワークに格納された数値データが新たにラッチされた最新の数値データに更新されるようになっている。

【0129】

内部抽選では、内部抽選の対象となる役、現在の遊技状態フラグ値および設定値に対応して定められた判定値数を、内部抽選用の乱数値（抽選用ワークに格納された数値データ）に順次加算し、加算の結果がオーバーフローしたときに、当該役に当選したものと判定される。このため、判定値数の大小に応じた確率（判定値数 / 65536）で役が当選することとなる。そして、いずれかの役の当選が判定された場合には、当選が判定された役に対応する当選フラグをRAM41cに割り当てられた内部当選フラグ格納ワークに設定する。なお、内部当選フラグ格納ワークに設定された当選フラグは、1ゲームごとにクリアされる。

30

【0130】

[リールの停止制御]

次に、リール2L、2C、2Rの停止制御について説明する。メイン制御部41は、リールの回転が開始したとき、およびリールが停止し、かつ未だ回転中のリールが残っているときに、セキュリティチェックプログラムに格納されているテーブルインデックスおよびテーブル作成用データを参照して、回転中のリール別に停止制御テーブルを作成する。そして、ストップスイッチ8L、8C、8Rのうち、回転中のリールに対応するいずれかの操作が有效地に検出されたときに、該当するリールの停止制御テーブルを参照し、参照した停止制御テーブルの滑りコマ数に基づいて、操作されたストップスイッチ8L、8C、8Rに対応するリール2L、2C、2Rの回転を停止させる制御を行う。

40

【0131】

テーブルインデックスには、内部抽選による当選フラグの設定状態（以下、内部当選状態と呼ぶ）別に、テーブルインデックスを参照する際の基準アドレスから、テーブル作成用データが格納された領域の先頭アドレスを示すインデックスデータが格納されているアドレスまでの差分が登録されている。これにより内部当選状態に応じた差分を取得し、基

50

準アドレスに対してその差分を加算することで該当するインデックスデータを取得することが可能となる。なお、役の当選状況が異なる場合でも、同一の制御が適用される場合においては、インデックスデータとして同一のアドレスが格納されており、このような場合には、同一のテーブル作成用データを参照して、停止制御テーブルが作成されることとなる。

【0132】

テーブル作成用データは、停止操作位置に応じた滑りコマ数を示す停止制御テーブルと、リールの停止状況に応じて参照すべき停止制御テーブルのアドレスとからなる。リールの停止状況に応じて参照される停止制御テーブルは、全てのリールが回転しているか、左リールのみ停止しているか、中リールのみ停止しているか、右リールのみ停止しているか、左、中リールが停止しているか、左、右リールが停止しているか、中、右リールが停止しているか、によって異なる場合があり、さらに、いずれかのリールが停止している状況においては、停止済みのリールの停止位置によっても異なる場合があるので、それぞれの状況について、参照すべき停止制御テーブルのアドレスが回転中のリール別に登録されており、テーブル作成用データの先頭アドレスに基づいて、それぞれの状況に応じて参照すべき停止制御テーブルのアドレスが特定可能とされ、この特定されたアドレスから、それぞれの状況に応じて必要な停止制御テーブルを特定できるようになっている。なお、リールの停止状況や停止済みのリールの停止位置が異なる場合でも、同一の停止制御テーブルが適用される場合においては、停止制御テーブルのアドレスとして同一のアドレスが登録されているものもあり、このような場合には、同一の停止制御テーブルが参照されることとなる。10

【0133】

停止制御テーブルは、停止操作が行われたタイミング別の滑りコマ数を特定可能なデータである。本実施の形態では、リールモータ32L、32C、32Rに、336ステップ(0～335)の周期で1周するステッピングモータを用いている。すなわちリールモータ32L、32C、32Rを336ステップ駆動させることでリール2L、2C、2Rが1周することとなる。そして、リール1周に対して16ステップ(1図柄が移動するステップ数)ごとに分割した20の領域(コマ)が定められており、これらの領域には、リール基準位置から1～20の領域番号が割り当てられている。一方、1リールに配列された図柄数も20であり、各リールの図柄に対して、リール基準位置から1～20の図柄番号が割り当てられているので、1番図柄から20番図柄に対して、それぞれ1～20の領域番号が順に割り当てられることとなる。そして、停止制御テーブルには、領域番号別の滑りコマ数が所定のルールで圧縮して格納されており、停止制御テーブルを展開することによって領域番号別の滑りコマ数を取得できるようになっている。20

【0134】

前述のようにテーブルインデックスおよびテーブル作成用データを参照して作成される停止制御テーブルは、領域番号に対応して、各領域番号に対応する領域が停止基準位置(本実施の形態では、透視窓3の下段図柄の領域)に位置するタイミング(リール基準位置からのステップ数が各領域番号のステップ数の範囲に含まれるタイミング)でストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出された場合の滑りコマ数がそれぞれ設定されたテーブルである。40

【0135】

次に、停止制御テーブルの作成手順について説明すると、まず、リール回転開始時においては、そのゲームの内部当選状態に応じたテーブル作成用データの先頭アドレスを取得する。具体的には、まずテーブルインデックスを参照し、内部当選状態に対応するインデックスデータを取得し、そして取得したインデックスデータに基づいてテーブル作成用データを特定し、特定したテーブル作成用データから全てのリールが回転中の状態に対応する各リールの停止制御テーブルのアドレスを取得し、取得したアドレスに格納されている各リールの停止制御テーブルを展開して全てのリールについて停止制御テーブルを作成する。50

【 0 1 3 6 】

また、いずれか 1 つのリールが停止したとき、またはいずれか 2 つのリールが停止したときには、リール回転開始時に取得したインデックスデータ、すなわちそのゲームの内部当選状態に応じたテーブル作成用データの先頭アドレスに基づいてテーブル作成用データを特定し、特定したテーブル作成用データから停止済みのリールおよび当該リールの停止位置の領域番号に対応する未停止リールの停止制御テーブルのアドレスを取得し、取得したアドレスに格納されている各リールの停止制御テーブルを展開して未停止のリールについて停止制御テーブルを作成する。

【 0 1 3 7 】

次に、メイン制御部 4 1 がストップスイッチ 8 L、8 C、8 R のうち、回転中のリールに対応するいずれかの操作を有効に検出したときに、該当するリールに表示結果を導出させる際の制御について説明すると、ストップスイッチ 8 L、8 C、8 R のうち、回転中のリールに対応するいずれかの操作を有効に検出すると、停止操作を検出した時点のリール基準位置からのステップ数に基づいて停止操作位置の領域番号を特定し、停止操作が検出されたリールの停止制御テーブルを参照し、特定した停止操作位置の領域番号に対応する滑りコマ数を取得する。そして、取得した滑りコマ数分リールを回転させて停止させる制御を行う。10

【 0 1 3 8 】

具体的には、停止操作を検出した時点のリール基準位置からのステップ数から、取得した滑りコマ数引き込んで停止させるまでのステップ数を算出し、算出したステップ数分リールを回転させて停止させる制御を行う。これにより、停止操作が検出された停止操作位置の領域番号に対応する領域から滑りコマ数分先の停止位置となる領域番号に対応する領域が停止基準位置（本実施の形態では、透視窓 3 の下段図柄の領域）に停止することとなる。20

【 0 1 3 9 】

本実施の形態のテーブルインデックスには、一の遊技状態における一の内部当選状態に対応するインデックスデータとして 1 つのアドレスのみが格納されており、さらに、一のテーブル作成用データには、一のリールの停止状況（および停止済みのリールの停止位置）に対応する停止制御テーブルの格納領域のアドレスとして 1 つのアドレスのみが格納されている。30

【 0 1 4 0 】

すなわち一の遊技状態における一の内部当選状態に対応するテーブル作成用データ、およびリールの停止状況（および停止済みのリールの停止位置）に対応する停止制御テーブルが一意的に定められており、これらを参照して作成される停止制御テーブルも、一の遊技状態における一の内部当選状態、およびリールの停止状況（および停止済みのリールの停止位置）に対して一意となる。このため、遊技状態、内部当選状態、リールの停止状況（および停止済みのリールの停止位置）の全てが同一条件となった際に、同一の停止制御テーブル、すなわち同一の制御パターンに基づいてリールの停止制御が行われることとなる。

【 0 1 4 1 】

また、本実施の形態では、滑りコマ数として 0 ~ 4 の値が定められており、停止操作を検出してから最大 4 コマ図柄を引き込んでリールを停止させることが可能である。すなわち停止操作を検出した停止操作位置を含め、最大 5 コマの範囲から図柄の停止位置を指定できるようになっている。また、1 図柄分リールを移動させるのに 1 コマの移動が必要であるので、停止操作を検出してから最大 4 図柄を引き込んでリールを停止させることができあり、停止操作を検出した停止操作位置を含め、最大 5 図柄の範囲から図柄の停止位置を指定できることとなる。40

【 0 1 4 2 】

本実施の形態では、いずれかの役に当選している場合には、当選役を入賞ライン上に 4 コマの範囲で最大限引き込み、当選していない役が入賞ライン上に揃わないように引き込50

む滑りコマ数が定められた停止制御テーブルを作成し、リールの停止制御を行う一方、いずれの役にも当選していない場合には、いずれの役も揃わない滑りコマ数が定められた停止制御テーブルを作成し、リールの停止制御を行う。これにより、停止操作が行われた際に、入賞ライン上に最大4コマの引込範囲で当選している役を揃えて停止させることができれば、これを揃えて停止させる制御が行われ、当選していない役は、最大4コマの引込範囲でハズシで停止させる制御が行われることとなる。

【0143】

本実施の形態においてメイン制御部41は、リール2L、2C、2Rの回転が開始した後、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出されるまで、停止操作が未だ検出されていないリールの回転を継続し、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出されたことを条件に、対応するリールに表示結果を停止させる制御を行うようになっている。なお、リール回転エラーの発生により、一時的にリールの回転が停止した場合でも、その後リール回転が再開した後、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出されるまで、停止操作が未だ検出されていないリールの回転を継続し、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出されたことを条件に、対応するリールに表示結果を停止させる制御を行うようになっている。10

【0144】

[送信コマンド]

次に、メイン制御部41が第1サブ制御部91に対して送信するコマンドについて説明する。本実施の形態では、メイン制御部41が第1サブ制御部91に対して、BETコマンド、クレジットコマンド、内部当選コマンド、フリーズコマンド、フリーズ解除コマンド、リール回転開始コマンド、リール停止コマンド、入賞番号コマンド、払出開始コマンド、払出終了コマンド、復帰コマンド、遊技状態コマンド、待機コマンド、打止コマンド、エラーコマンド、設定コマンド、設定確認コマンド、ドアコマンド、操作検出コマンド、判定用役当選コマンド、およびAT信号出力コマンドを含む複数種類のコマンドを送信する。これらコマンドは、コマンドの種類を示す1バイトの種類データとコマンドの内容を示す1バイトの拡張データとからなり、第1サブ制御部91は、種類データからコマンドの種類を特定できるようになっている。20

【0145】

BETコマンドは、メダルの投入枚数（すなわち賭数の設定に使用されたメダル枚数）、および、BET音の出力の有無を特定可能なコマンドであり、ゲーム終了後（設定変更後）からゲーム開始までの状態であり、規定数の賭数が設定されていない状態において、メダルが投入されるか、MAXBETスイッチ6が操作されて賭数が設定されたときに送信される。また、BETコマンドは、賭数の設定操作がなされたときに送信されるので、第1サブ制御部91では、BETコマンドを受信することで、賭数の設定操作がなされたこと、賭数、および、BET音の出力の有無を特定可能である。30

【0146】

クレジットコマンドは、クレジットとして記憶されているメダル枚数、および、出力する音の種類（BET音かクレジット音）を特定可能なコマンドであり、ゲーム終了後（設定変更後）からゲーム開始までの状態であり、規定数の賭数が設定されている状態において、メダルが投入されてクレジットが加算されたときに送信される。40

【0147】

内部当選コマンドは、内部抽選結果を特定可能なコマンドであり、スタートスイッチ7が操作されてゲームが開始したときに送信される。また、内部当選コマンドは、スタートスイッチ7が操作されたときに送信されるので、内部当選コマンドを受信することでスタートスイッチ7が操作されたことを特定可能である。

【0148】

フリーズコマンドは、フリーズ（ゲームの進行を所定時間遅延させる制御状態）の開始を特定可能なコマンドであり、フリーズの開始時に送信される。フリーズ解除コマンドは、実行中のフリーズを解除したことを特定可能なコマンドであり、フリーズの解除時に送50

信される。

【0149】

リール回転開始コマンドは、リールの回転の開始を通知するコマンドであり、リール 2 L、2 C、2 R の回転が開始されたときに送信される。リール停止コマンドは、停止するリールが左リール、中リール、右リールのいずれかであるか、該当するリールの停止操作位置の領域番号、該当するリールの停止位置の領域番号、を特定可能なコマンドであり、各リールの停止操作に伴う停止制御が行われるごとに送信される。また、リール停止コマンドは、ストップスイッチ 8 L、8 C、8 R が操作されたときに送信されるので、リール停止コマンドを受信することでストップスイッチ 8 L、8 C、8 R が操作されたことを特定可能である。

10

【0150】

入賞番号コマンドは、入賞ライン L 1 に揃った図柄の組み合わせ、入賞の有無、ならびに入賞の種類、入賞時のメダルの払出枚数を特定可能なコマンドであり、全リールが停止して入賞判定が行われた後に送信される。

【0151】

払出開始コマンドは、メダルの払出開始、および、精算の種類を通知するコマンドであり、入賞やクレジット（賭数の設定に用いられたメダルを含む）の精算によるメダルの払出が開始されたときに送信される。また、払出終了コマンドは、メダルの払出終了を通知するコマンドであり、入賞およびクレジットの精算によるメダルの払出が終了したときに送信される。復帰コマンドは、メイン制御部 4 1 が電断前の制御状態に復帰した旨を示すコマンドであり、メイン制御部 4 1 の起動時において電断前の制御状態に復帰した際に送信される。

20

【0152】

遊技状態コマンドは、次ゲームの遊技状態を特定可能なコマンドであり、ゲームの終了時に送信される。待機コマンドは、待機状態へ移行する旨を示すコマンドであり、1 ゲーム終了後、賭数が設定されずに一定時間経過して待機状態に移行するとき、クレジット（賭数の設定に用いられたメダルを含む）の精算によるメダルの払出が終了し、払出終了コマンドが送信された後に送信される。

【0153】

打止コマンドは、打止状態の発生または解除を示すコマンドであり、R T 2 終了後、打止状態が開始した時点で打止状態の発生を示す打止コマンドが送信され、リセット操作がなされて打止状態が解除された時点で、打止状態の解除を示す打止コマンドが送信される。

30

【0154】

エラーコマンドは、エラー状態の発生または解除、エラー状態の種類を示すコマンドであり、エラーが判定され、エラー状態に制御された時点でエラー状態の発生およびその種類を示すエラーコマンドが送信され、リセット操作がなされてエラー状態が解除された時点で、エラー状態の解除を示すエラーコマンドが送信される。

【0155】

設定コマンドは、設定変更状態の開始または終了、設定変更後設定値を示すコマンドであり、設定変更状態に移行する時点で設定変更状態の開始を示す設定コマンドが送信され、設定変更状態の終了時に設定変更状態の終了および設定変更後の設定値を示す設定コマンドが送信される。また、設定変更状態への移行に伴ってメイン制御部 4 1 の制御状態が初期化されるため、設定開始を示す設定コマンドによりメイン制御部 4 1 の制御状態が初期化されたことを特定可能である。

40

【0156】

設定確認コマンドは、設定確認状態の開始または終了を示すコマンドであり、設定確認状態に移行する際に設定確認開始を示す設定確認コマンドが送信され、設定確認状態の終了時に設定確認終了を示す設定確認コマンドが送信される。

【0157】

50

ドアコマンドは、ドア開放検出スイッチ25の検出状態、すなわちon（開放状態）/off（閉状態）を示すコマンドであり、電源投入時、1ゲーム終了時（ゲーム終了後、次のゲームの賭数の設定が開始可能となる前までの時点）、ドア開放検出スイッチ25の検出状態が変化（onからoff、offからon）した時に送信される。

【0158】

操作検出コマンドは、操作スイッチ類（MAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8R）の検出状態（on/off）を示すコマンドであり、一定時間ごとに送信される。

【0159】

判定用役当選コマンドは、判定用役（本実施の形態においては、押し順リップ1、押し順リップ2、通常リップ）に当選したこと、および当選した判定用役の種類を示すコマンドであり、スタートスイッチ7が操作されて判定用役に当選した場合にゲームが開始したときにコマンドバッファに格納された後送信される。 10

【0160】

ここで、判定用役とは、当選したときにメイン制御部41により所定の停止順種別が抽選によって決定される役であり、メイン制御部41は、停止順種別によって特定される押し順と実際に遊技者によって操作された押し順とが一致する場合に、判定用役に対する押し順が正解したことを特定する。なお、判定用役当選コマンドには停止順種別を示す情報も付加される。本実施の形態においては、判定用役として、押し順リップ1、押し順リップ2、および通常リップが定められている。 20

【0161】

AT信号出力コマンドは、AT（アシストタイム）への制御を示すAT信号を外部出力したことを見示すコマンドであり、AT信号の出力命令を設定した際にコマンドバッファに格納された後送信される。

【0162】

ATとは、後述するナビストックを獲得することにより、所定ゲーム数の間、遊技者にとって有利となるナビ演出が実行される期間のことである。ナビ演出とは、AT中に所定の役に当選したときに、遊技者にとって有利となるストップスイッチの押し順を想起させるメッセージが、液晶表示器51に表示されたり、スピーカ53、54によって音声出力されたりする演出のことである。遊技者は、このナビ演出に従ってストップスイッチを操作することにより、純増枚数を増やせるなど有利に遊技を進めることができるようになっている。 30

【0163】

本実施の形態におけるナビ演出には、判定用ナビ演出と、通常のナビ演出とが含まれている。判定用ナビ演出とは、メイン制御部41が、AT中であるか否かを判定するために用いられるナビ演出であり、通常のナビ演出とは、判定用ナビ演出とは異なり、AT中であるか否かを判定するためには用いられないナビ演出である。

【0164】

これらコマンドのうちドアコマンドおよび操作検出コマンド以外のコマンドは、基本処理において生成され、非初期化領域に割り当てられたコマンドバッファ内のコマンドデータを新たに生成したコマンドデータに更新するとともに、シリアル通信回路の送信データレジスタに転送することで、第1サブ制御部91に送信される。 40

【0165】

一方、ドアコマンドは、タイマ割込処理（メイン）のドア監視処理において生成され、ドアコマンド格納領域に格納される。ドアコマンド格納領域には、電源投入時または1ゲーム終了時にその時点のドア開放検出スイッチ25の検出状態を示すドアコマンドが格納され、ドア開放検出スイッチ25の検出状態が変化した時にその変化後の検出状態を示すドアコマンドが格納される。また、ドアコマンド格納領域に格納されたドアコマンドは、当該ドアコマンドが送信された後もクリアされることなく、その後、新たに格納されるドアコマンドによって上書きされるようになっている。なお、電源投入時または1ゲーム 50

終了時には、ドアコマンド格納領域に格納されているドアコマンドの送信を要求するドアコマンド送信要求 1 が設定され、ドアコマンド送信要求 1 が設定されているか、ドア開放検出スイッチ 25 の検出状態が変化したときに、ドアコマンド送信要求 2 が設定されるようになっており、このドアコマンド送信要求 2 が設定されることによりドアコマンド格納領域に格納されているドアコマンドの送信が命令され、その後実行されるタイマ割込処理（メイン）のコマンド送信処理において、コマンドバッファに格納され、シリアル通信回路 511 に転送することで、第 1 サブ制御部 91 に送信される。

【 0166 】

また、操作検出コマンドは、タイマ割込処理（メイン）のコマンド送信処理が 10 回実行されるごとに、スイッチの検出状態に基づいて生成されるとともに、シリアル通信回路 10 に転送することで、第 1 サブ制御部 91 に送信される。

【 0167 】

[コマンド受信時の第 1 サブ制御部 91 による制御]

次に、メイン制御部 41 が第 1 演出制御基板 90 に対して送信するコマンドに基づいて第 1 サブ制御部 91 が実行する演出の制御について説明する。第 1 サブ制御部 91 は、メイン制御部 41 からのコマンドを受信した際に、コマンド受信割込処理を実行する。コマンド受信割込処理では、RAM 91c に設けられた受信用バッファに、コマンド伝送ラインから取得したコマンドを格納する。受信用バッファには、最大で 16 個のコマンドを格納可能な領域が設けられており、複数のコマンドを蓄積できるようになっている。

【 0168 】

第 1 サブ制御部 91 は、タイマ割込処理（サブ）において、受信用バッファに未処理のコマンドが格納されているか否かを判定し、未処理のコマンドが格納されている場合には、そのうち最も早い段階で受信したコマンドに基づいて ROM 91b に格納された制御パターンテーブルを参照し、制御パターンテーブルに登録された制御内容に基づいて液晶表示器 51、演出効果 LED 52、スピーカ 53、54、リール LED 55 などの各種演出装置の出力制御を行う。

【 0169 】

制御パターンテーブルには、複数種類の演出パターンごとに、コマンドの種類に対応する液晶表示器 51 の表示パターン、演出効果 LED 52 の点灯態様、スピーカ 53、54 の出力態様、リール LED 55 の点灯態様など、これら演出装置の制御パターンが登録されており、第 1 サブ制御部 91 は、コマンドを受信した際に、制御パターンテーブルの当該ゲームにおいて RAM 91c に設定されている演出パターンに対応して登録された制御パターンのうち、受信したコマンドの種類に対応する制御パターンを参照し、当該制御パターンに基づいて演出装置の出力制御を行う。これにより演出パターンおよび遊技の進行状況に応じた演出が実行されることとなる。

【 0170 】

なお、第 1 サブ制御部 91 は、あるコマンドの受信を契機とする演出の実行中に、新たにコマンドを受信した場合には、実行中の制御パターンに基づく演出を中止し、新たに受信したコマンドに対応する制御パターンに基づく演出を実行するようになっている。すなわち演出が最後まで終了していない状態でも、新たにコマンドを受信すると、受信した新たなコマンドが新たな演出の契機となるコマンドではない場合を除いて実行していた演出はキャンセルされて新たなコマンドに基づく演出が実行されることとなる。

【 0171 】

特に、本実施の形態では、演出の実行中に賭数の設定操作がなされたとき、すなわち第 1 サブ制御部 91 が、BET コマンドのうち BET コマンド（BET 音あり）を受信したときに、実行中の演出を中止するようになっている。このため、遊技者が、演出を最後まで見るよりも次のゲームを進めたい場合には、演出がキャンセルされ、次のゲームを開始できるので、このような遊技者に対して煩わしい思いをさせることがない。また、通常リープが入賞して賭数が設定されたときにも演出をキャンセルさせることができる。また、第 1 サブ制御部 91 は、BET コマンドのうち BET コマンド（BET 音あり）を受信した 50

ときに、賭数に応じた回数分、所定のB E T音（たとえば「ピッ！」という効果音）をスピーカ53、54から出力させる。これにより、賭数が設定されたことや、通常リプに入賞したことを気付かせやすくすることができる。

【0172】

一方、B E TコマンドのうちB E Tコマンド（B E T音なし）を受信したときには、B E T音（たとえば「ピッ！」という効果音）をスピーカ53、54から出力させることなく、かつ実行中の演出を中止することなく継続させようになっている。これにより、「リプレイ」以外の図柄をも構成図柄に含み、無効ライン上にベルが揃うベルリップなどが入賞したときには、遊技者がリプレイ入賞したことに気付かない可能性が通常リプよりも高くなるようにすることができ、さらにそのような場合にまで演出が中断されてしまうことを防止することができる。なお、B E Tコマンドを受信したときには、その種類にかかわらず、実行中の演出をキャンセルさせるとともに、B E T音を出力させるようにしてもよい。10

【0173】

また、第1サブ制御部91は、クレジットコマンドのうちクレジットコマンド（通常）を受信したときに、所定のクレジット音（たとえば「ダ！」という効果音）をスピーカ53、54から出力させる。これにより、クレジットされたことを気付かせやすくすることができる。また、第1サブ制御部91は、クレジットコマンドのうちクレジットコマンド（B E T音あり）を受信したときには、B E T音と同じ音（たとえば「ピッ！」という効果音）をスピーカ53、54から出力させる。クレジットコマンド（B E T音あり）を受信したときには、入賞したことに気付き難いベルリップによるリプレイ入賞後であるところ、当該ベルリップによるリプレイ入賞に気付かず賭数設定するためにメダルを投入されたとしても、B E T音が出力されるため、B E T音が出力されないことによる不信感や違和感を抱かせてしまう不都合の発生を防止することができる。また、ベルリップによるリプレイ入賞により賭数が設定されたとしても、前述したように、実行中の演出が継続されるため、クレジットコマンド（B E T音あり）を受信したときにも当該演出が実行されている場合がある。この場合には、当該クレジットコマンド（B E T音あり）を受信することにより、当該演出を途中でキャンセルする。20

【0174】

また、演出の実行中にクレジットまたは賭数の精算操作がなされたとき、すなわち第1サブ制御部91が、精算を通知する払出開始コマンドを受信した場合には、原則として、実行中の演出を中止して、演出状態（液晶表示器51の表示状態、スピーカ53、54からの効果音など）を客待ち状態にする。クレジットや賭数の精算を行なうのは、遊技を終了する場合であり、このような場合に実行中の演出を終了させることで、遊技を終了する意志があるので、不要に演出が継続してしまわないようになっている。30

【0175】

しかし、精算を通知する払出開始コマンドのうち、リプレイゲームにおけるクレジット精算を通知する払出開始コマンドを受信したときには、リプレイ入賞により設定された賭数が残存しており、以降において少なくとも1ゲーム行われるため、実行中の演出をその後も継続するようになっている（客待ち状態にもならない）。40

【0176】

演出パターンは、内部当選コマンドを受信した際に、内部当選コマンドが示す内部抽選の結果に応じた選択率にて選択され、R A M 9 1 c に設定される。演出パターンの選択率は、R O M 9 1 b に格納された演出テーブルに登録されており、第1サブ制御部91は、内部当選コマンドを受信した際に、内部当選コマンドが示す内部抽選の結果に応じて演出テーブルに登録されている選択率を参照し、その選択率に応じて複数種類の演出パターンからいずれかの演出パターンを選択し、選択した演出パターンを当該ゲームの演出パターンとしてR A M 9 1 c に設定するようになっており、同じコマンドを受信しても内部当選コマンドの受信時に選択された演出パターンによって異なる制御パターンが選択されるため、結果として演出パターンによって異なる演出が行われることがある。50

【 0 1 7 7 】

また、第1サブ制御部91は、メイン制御部41から特定のコマンドを受信した場合に、該特定のコマンドに対応する制御パターンによる演出を行う。たとえば、エラーコマンドを受信した場合に、エラー状態に対応する制御パターンにてエラー報知演出を行い、待機コマンドを受信した場合に、待機状態を示すデモ演出を行う。

【 0 1 7 8 】

また、第1サブ制御部91は、操作検出コマンドから特定されるMAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8Rの検出状態(on/off)を時系列にて複数個バッファしておくとともに、これらバッファされているMAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8Rの検出状態(on/off)に基づいて、MAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8Rの検出状態が変化したか否かを特定可能とされており、これらの検出状態の変化を特定することで、MAXBETスイッチ6、スタートスイッチ7、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作状況を特定できるようになっている。10

【 0 1 7 9 】

また、本実施の形態において、第1サブ制御部91は、AT中にメイン制御部41から判定用役当選コマンドを受信した場合に、図23に示す判定用ナビ演出処理を実行する。メイン制御部41は、この判定用ナビ演出に従って遊技者が操作したストップスイッチの押し順に基づき、AT中であるか否かを判定するようになっている。

【 0 1 8 0 】

また、本実施の形態において、第1サブ制御部91は、メイン制御部41からAT信号出力コマンドを受信した場合に、図22に示すAT信号出力フラグ制御処理を実行する。AT信号出力フラグは、AT信号が出力されたことを示すフラグであり、第1サブ制御部91はAT信号出力フラグがセットされているか否かによって、AT中にAT信号が出力されたか否かを識別する。そして、AT中にAT信号が出力されるまでは判定用ナビ演出を実行し、AT信号の出力後以降は判定用ナビ演出ではなく、通常のナビ演出を実行する。20

【 0 1 8 1 】**[入賞役]**

本実施の形態のスロットマシン1においては、入賞ラインL1上に役図柄が揃うと、入賞となる。入賞となる役の種類は、大きく分けて、メダルの払い出しを伴う小役と、再遊技役とがある。遊技状態に応じて定められた各役の入賞が発生するためには、内部抽選に当選して、当該役の入賞を許容する旨の当選フラグがRAM41cに設定されている必要がある。30

【 0 1 8 2 】

図7は、小役の種類、小役の図柄組み合わせ、払枚数、および小役に関連する技術事項について説明するための図である。図8は、再遊技役の種類、再遊技役の図柄組み合わせ、作動、および再遊技役に関連する技術事項について説明するための図である。

【 0 1 8 3 】

図7を参照して、入賞役のうち小役について説明する。入賞役のうち小役には、通常ベル、左スイカ1枚1~8、左リップ1枚1~16、チェリー1~3、スイカ1~8、チャンス1、2、1枚1~3が含まれる。小役は、入賞ラインL1において、図7に示す各々の役に対応する図柄の組み合わせが揃ったときに入賞となる。40

【 0 1 8 4 】

たとえば、通常ベルは、入賞ラインL1上に「ベル - ベル - ベル」の組み合わせが揃ったときに入賞となり、賭数を設定するためのメダル枚数(3枚)よりも多い8枚のメダルが払い出される。また、他の小役の図柄の組合せ、払枚数については、図7に示す通りなので説明を省略する。

【 0 1 8 5 】

また、通常ベル、左スイカ1枚1~8、左リップ1枚1~16の構成図柄それぞれは、左50

リール 2 L、中リール 2 C、右リール 2 R 各々において 5 コマ以内に配置されている。そのため、後述する内部抽選において通常ベルに単独当選しているときには、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役に入賞するようになっている。つまり、通常ベルは取りこぼしのない役である。

【 0 1 8 6 】

チェリー 1 ~ 3、スイカ 1 ~ 8、チャンス 1 およびチャンス 2、1 枚 1 ~ 3 の構成図柄のうちいずれかは、左リール 2 L、中リール 2 C、右リール 2 R のいずれかにおいて、5 コマ以内に配置されていない。したがって、ストップスイッチを適正なタイミングで操作しなければ、当選している役に入賞することはない。

【 0 1 8 7 】

また、チェリー 1 またはチェリー 2 に入賞したときには、左リール 2 L においてチェリーの図柄が下段に停止する。そのため、チェリー 1 およびチェリー 2 は、下段チェリーまたは弱チェリーともいう。チェリー 3 に入賞したときには、左リール 2 L においてチェリーの図柄が中段に停止する。そのため、チェリー 3 は、中段チェリーまたは中チェリーともいう。また、スイカ 7 またはスイカ 8 に入賞したときには、左リール 2 L においてチェリーの図柄が中段に停止する。そのため、スイカ 7 およびスイカ 8 は、中段チェリーまたは強チェリーともいう。

【 0 1 8 8 】

次に、図 8 を参照して、入賞役のうち再遊技役について説明する。入賞役のうち再遊技役には、通常リップ、ベルリップ 1 ~ 5、7 揃いリップ、および 7 フェイクリップ 1 ~ 5 が含まれる。再遊技役は、入賞ライン L 1 において、図 8 に示す各々の役に対応する図柄の組み合わせが揃ったときに入賞となる。

【 0 1 8 9 】

たとえば、通常リップは、入賞ライン L 1 上に「リプレイ - リプレイ - リプレイ」の組み合わせが揃ったときに入賞となる。ここで、図 3 を参照すると、通常リップの構成図柄であるリプレイは、左リール 2 L、中リール 2 C、右リール 2 R 各々において 5 コマ以内に配置されている。そのため、通常リップに単独当選しているときには、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役に入賞するようになっている。つまり、通常リップは取りこぼしのない役である。

【 0 1 9 0 】

次に、ベルリップ 1 ~ 4 について説明する。ベルリップ 1 ~ 4 は、入賞ライン L 1 上にベルリップ 1 ~ 4 のいずれかに対応する図柄の組み合わせが揃ったときに入賞となる。図 8 に示すように、ベルリップ 1 ~ 4 のそれぞれは、異なる図柄の組み合わせから構成されている。そのため、入賞ライン L 1 上にベルリップ 1 ~ 4 のいずれかに対応する図柄の組み合わせが揃っても、見た目上、入賞ライン L 1 上にハズレ表示結果が導出されたと遊技者に認識されるようになっている。

【 0 1 9 1 】

さらに、ベルリップ 1 ~ 4 に入賞したときには、左リール 2 L の上段、中リール 2 C の上段、および右リール 2 R の上段のそれぞれにベル図柄が停止する。このように、ベルリップ 1 ~ 4 のいずれかに入賞したときには、入賞ライン L 1 上にベルリップ 1 ~ 4 のいずれかに対応する図柄の組み合わせが表示されるとともに、入賞ライン L 1 上とは異なるリールの上段に跨った位置にメダルの付与を伴う通常ベルに対応する図柄の組み合わせが表示される。

【 0 1 9 2 】

なお、図 3 を参照すると、ベルリップ 1 ~ 4 の構成図柄のうち白 7、黒 7、黒 B A R、および白 B A R は、中リール 2 C において 5 コマ以内に配置されていない。そのため、ベルリップ 1 ~ 4 に単独当選しても、ストップスイッチを適正なタイミングで操作しなければ、当選している役に入賞することはない。なお、本実施の形態においては、ベルリップ 1 ~ 4 すべてと通常リップとが同時当選するため、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役のうちいずれかに入賞するようになっている。

10

20

30

40

50

【 0 1 9 3 】

次に、ベルリップ5について説明する。ベルリップ5は、入賞ラインL1上にベルリップ5に対応する図柄の組み合わせが揃ったときに入賞となる。図8に示すように、ベルリップ5は、異なる図柄の組み合わせから構成されている。そのため、入賞ラインL1上にベルリップ5に対応する図柄の組み合わせが揃っても、見た目上、入賞ラインL1上にハズレ表示結果が導出されたと遊技者に認識させるようになっている。

【 0 1 9 4 】

さらに、ベルリップ5に入賞したときには、左リール2Lの上段、中リール2Cの中段、および右リール2Rの下段のそれぞれにベル図柄が停止する。このように、ベルリップ5に入賞したときには、入賞ラインL1上にベルリップ5に対応する図柄の組み合わせが表示されるとともに、入賞ラインL1上とは異なる左リール2Lの上段、中リール2Cの中段、および右リール2Rの下段に跨った位置にメダルの付与を伴う通常ベルに対応する図柄の組み合わせが表示される。10

【 0 1 9 5 】

なお、図3を参照すると、ベルリップ5の構成図柄のうちリプレイおよびベルは、左リール2L、中リール2C、右リール2R各々において5コマ以内に配置されている。そのため、ベルリップ5に単独当選しているときには、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役に入賞するようになっている。つまり、ベルリップ5は取りこぼしのない役である。なお、本実施の形態においては、ベルリップ5と通常リップ5とが同時当選するため、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役のうちいずれかに入賞するようになっている。20

【 0 1 9 6 】

また、本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、メイン制御部41により、後述する図18のリップフリーズ処理によって、ゲームの進行を遅延させるリップフリーズが実行される。リップフリーズとは、ゲームの進行を遅延させるためにメイン制御部41が実行する制御のことである。リップフリーズは、ベルリップ1～5のいずれかが入賞したときに行われる。リップフリーズが発生すると、これを解除する特定条件が成立するまでの間、リプレイ入賞による賭数設定されるタイミングを遅延させ、その結果、次のゲームのスタート操作が無効化されることにより、スタートスイッチ7を有効化するタイミングも遅延させる。特定条件は、リップフリーズの開始から所定時間（本実施の形態においては、30秒）経過したこと、MAXBETスイッチ6を用いたMAXBET操作があったこと、精算スイッチ10を用いたクレジット精算操作があったこと、および、投入メダルセンサ31により投入されたメダルが検出されることなどにより成立する条件を含む。ただし、リップフリーズを解除するときのMAXBET操作においては、メダルの消費がされることがない。ベルリップ入賞によりすでに賭数が規定数設定されているためである。一方、リップフリーズを解除するときのクレジット精算操作においては、クレジットが精算される。これにより利便性が向上する。30

【 0 1 9 7 】

前述したように、ベルリップ1～5の入賞図柄の組み合わせは、見た目上、遊技者にハズレ表示結果が導出されたと認識されるようになっている。そのため、仮に、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、同時に通常ベルに対応する図柄の組み合わせが表示されないとすると、ハズレ表示結果が導出されたように見えるにもかかわらず、メダルを消費することなく次のゲームのための賭数が自動設定されるため、遊技者に違和感を与えててしまう。しかしながら、本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかの入賞が発生したときに、遊技者に対して、一見、通常ベルの入賞が発生したかのように認識させることができる。しかも、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに行われるリップフリーズを解除するためにはMAXBET操作やメダル投入などを必要がある。さらに、メダル投入などによりリップフリーズが解除された後でなければ、ベルリップ1～5のいずれかの入賞によって賭数が自動設定されない。このため、遊技者に対して通常ベルが入賞した後にMAXBET操作やメダル投入を伴い次のゲームを開始できるようになったかのように4050

思わせることができ、違和感を感じさせない。

【0198】

さらに、本実施の形態において、通常ベルに入賞したときには、ゲームを開始可能とするために賭数を設定するときに用いられるメダル枚数（3枚）よりも多い8枚のメダルが払い出される。これにより、ベルリップ1～5のいずれかの入賞が発生したときに、通常ベルの入賞が発生したときにメダルが付与されたときと同じように、遊技者に対してMAX BETスイッチ6の操作や、メダル投入、精算スイッチ10の操作を自然に促すことができる。

【0199】

次に、7揃いリップについて説明する。7揃いリップに入賞したときには、メダルを用いることなく次のゲームを行うことが可能となる。ここで、図3を参照すると、7揃いリップの構成図柄のうち白7は、左リール2L、中リール2C、右リール2R各々において5コマ以内に配置されていない。そのため、7揃いリップに単独当選しても、ストップスイッチを適正なタイミングで操作しなければ、当選している役に入賞することはない。10

【0200】

次に、7フェイクリップ1～5について説明する。7フェイクリップ1～5のいずれかに入賞したときには、メダルを用いることなく次のゲームを行うことが可能となる。ここで、図3を参照すると、7フェイクリップ1～5の構成図柄のうち白7、黒7、黒BAR、白BARは、左リール2L、中リール2C、右リール2R各々において5コマ以内に配置されていない。そのため、7フェイクリップ1～5のいずれかに単独当選しても、ストップスイッチを適正なタイミングで操作しなければ、当選している役に入賞することはない。20

【0201】

次に、図9、図10を参照して、抽選対象役として読み出される抽選対象役の組み合わせについて説明する。本実施の形態では、抽選対象役として複数の入賞役が同時に読み出されて、重複して当選し得る。図9、図10においては、抽選対象役ごとに入賞役の組み合わせ、所定の設定値（たとえば設定値1）における判定値数、およびリール制御についての内容を示す。入賞役の組み合わせにおいては、入賞役の間に“+”を表記することにより、内部抽選において同時に抽選対象役として読み出されることを示す。判定値数においては、その分母は、内部抽選用の乱数（0～65535の整数）に対応させて、「65536」に設定されている。このため、たとえば、判定値数として「9309」が設定されている抽選対象役である押し順ベル1の当選確率は、9309/65536となる。なお、本実施の形態においては、通常、遊技者が遊技を進行するに際し遊技状態は変化しない。そのため、図9、図10に示すように、それぞれの抽選対象役に対して判定値数は1つだけ設定されている。30

【0202】

図9に示すように、本実施の形態における小役の抽選対象役としては、押し順ベル1～4、左スイカ1～4、チェリー1～3、スイカ1～8、チャンス1、2、および1枚1～3が設定されている。また、各々の抽選対象役については、対応する入賞役が読み出される。40

【0203】

たとえば、押し順ベル1は、通常ベル+左リップ1枚1+左リップ1枚6+左リップ1枚11+左リップ1枚16+左スイカ1枚1～8が読み出される抽選対象役である。他の抽選対象役については、図9に示す通りなので、説明を省略する。

【0204】

図10に示すように、本実施の形態における再遊技役の抽選対象役としては、通常リップ、押し順リップ1、押し順リップ2、7揃いリップ、フェイクリップ1、およびフェイクリップ2が設定されている。通常リップは、通常リップが読み出される抽選対象役である。なお、通常リップは、判定値数として「8978」が設定されている。そのため、通常リップには、およそ7ゲームに1回ほどの頻度で当選するようになっている。50

【0205】

押し順リップ1は、通常リップ+ベルリップ1+ベルリップ2+ベルリップ3+ベルリップ4が読み出される抽選対象役である。ここで、ベルリップ1~4は、それぞれ単独当選しても、ストップスイッチを適正なタイミングで操作しなければ、当選している役に入賞することはないが、図10に示すように、ベルリップ1~4すべてと通常リップとが同時当選するため、ストップスイッチの操作タイミングにかかわらず当選している役のうちいずれかに入賞するようになっている。押し順リップ2は、通常リップ+ベルリップ5が読み出される抽選対象役である。通常リップおよびベルリップ5は取りこぼしがない役であるため、押し順リップ2に当選したときには、当選している役のうちいずれかに入賞するようになっている。なお、押し順リップ1および押し順リップ2は、それぞれ判定値数として「8714」が設定されている。そのため、押し順リップ1および押し順リップ2のいずれかには、およそ3ゲームに1回ほどの頻度で当選するようになっている。10

【0206】

7揃いリップは、7揃いリップが読み出される抽選対象役である。フェイクリップ1は、7フェイクリップ1+7フェイクリップ2+7フェイクリップ3+7フェイクリップ4が読み出される抽選対象役である。フェイクリップ2は、7フェイクリップ5が読み出される抽選対象役である。

【0207】**[押し順ベル当選時のリール制御]**

次に、図9を用いて、押し順ベル1~4のいずれかに当選した時のリール制御について説明する。押し順ベル1が当選したゲームにおいて左第1停止されたときには、当選した役のうち引き込み範囲内で左リップ1枚1、左リップ1枚6、左リップ1枚11、および左リップ1枚16のいずれかに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。中左押しされたときには、当選した役のうち通常ベルに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。中右押しされたときには、当選した役のうち左スイカ1~4のいずれかに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。右第1停止されたときには、当選した役のうち左スイカ5~8のいずれかに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。他の押し順ベル2~4については、図9に示す通りなので説明を省略する。2030

【0208】

ここで、上記のようなリール制御が行われる理由は、遊技者がストップスイッチを操作したときに、払出枚数が多い入賞役を入賞させるための図柄を優先的に入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるか、あるいは、入賞の可能性が高い入賞役を入賞させるための図柄を優先的に入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるかが、一義的に決められているからである。

【0209】

たとえば、押し順ベル1に当選したときに遊技者が左第1停止をした場合には、当選した役のうち入賞の可能性が高い左リップ1枚1、左リップ1枚6、左リップ1枚11、および左リップ1枚16のいずれかを入賞させるための図柄である「リプレイ」を入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるようになっている。40

【0210】

入賞の可能性が高い左リップ1枚1、左リップ1枚6、左リップ1枚11、および左リップ1枚16のいずれかを入賞させるための図柄を入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させる具体例を以下に説明する。たとえば、押し順ベル1に当選したときに遊技者が左第1停止をした場合には、図7に示すように、押し順ベル1に含まれるいずれかの役を入賞させるためには、「ベル」、「リプレイ」、「スイカA」、「スイカB」のいずれかを入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させる必要がある。ここで、「ベル」を入賞ラインL1に引き込むよりも、「スイカA」や「スイカB」、もしくは「リプレイ」を入賞ラインL1に引き込んだ方が入賞役の選択肢が多い(たとえば、「ベル」を停止させると入賞役

の選択肢は通常ベルの1種類のみだが、「リプレイ」を停止させると入賞役の選択肢は左リップ1枚1、左リップ1枚6、左リップ1枚11、および左リップ1枚16の4種類ある）。そのため、本実施の形態においては、押し順ベル1に当選したときに遊技者が左第1停止をした場合には、入賞の可能性が高い左リップ1枚1、左リップ1枚6、左リップ1枚11、および左リップ1枚16のいずれかを入賞させるための図柄である「リプレイ」を入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるようになっている。

【0211】

また、押し順ベル1に当選したときに遊技者が中第1停止をした場合には、当選した役のうち入賞の可能性が高い通常ベルおよび左スイカ1枚1～4のいずれかを入賞させるための図柄である「ベル」を入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるようになっている。その後、遊技者が第2停止として左リール2Lを停止させた場合には、入賞の可能性が残った通常ベルおよび左スイカ1枚1～4のうち払出枚数が多い通常ベルを入賞させるための図柄である「ベル」を入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるようになっている。10

【0212】

このように、本実施の形態においては、遊技者がストップスイッチを操作したときに、払出枚数が多い入賞役を入賞させるための図柄を優先的に入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させるか、あるいは、入賞の可能性が高い入賞役を入賞させるための図柄を優先的に入賞ラインL1に引き込んでリールを停止させることで、当選した役のうち押し順に応じて入賞する役を異ならせている。20

【0213】

なお、本実施の形態においては、後述するAT中ではない、非AT中のゲームにおいて左第1停止させなかった場合には、左第1停止させたときには科されることのない遊技者にとって不利な所定のペナルティを生じさせる制御が行われる。これは、演出状態が非AT中のゲームにおいて遊技者に中第1停止または右第1停止することを促すためである。つまり、本実施の形態のスロットマシン1は、非AT中のゲームにおいて遊技者に左第1停止させるように設計されている。

【0214】

所定のペナルティとしては、後述するナビストックを付与するか否かのナビストック抽選において、ナビストック付与の当選確率が著しく低い確率に設定されるようになったり、後述するATフリーズが実行されなくなったりする。これにより、ペナルティが科されてしまうと、遊技者にとって有利となるATに制御されにくくなるため、ペナルティが科されないように、遊技者は非AT中に左第1停止でストップスイッチを操作するようになる。30

【0215】

図9で示したように、非AT中に押し順ベル1～4のいずれかに当選したときには、遊技者が左第1停止をする限り、左リップ1枚1～16のいずれかに入賞する。また、仮に遊技者がペナルティを犯しながら中第1停止または右第1停止をしても、払い出しの多い通常ベルを入賞させるための押し順は分からない。そのため、非AT中においては、おおよそ2ゲームに1回ほどの頻度でメダル1枚の払い出しどとなる。その結果、非AT中においては、メダルの純増枚数を増やすことが困難となる。40

【0216】

一方、AT中に押し順ベル1～4のいずれかに当選したときには、中第1停止または右第1停止をしてもペナルティが科されないため、後述するナビ演出に従ってストップスイッチを操作することにより、通常ベルに入賞する。そのため、AT中においては、おおよそ2ゲームに1回ほどの頻度でメダル8枚の払い出しどとなる。その結果、AT中においては、非AT中に比べてメダルの純増枚数を増やすことが可能となる。

【0217】

[押し順リップ当選時のリール制御]

次に、図10を用いて、押し順リップ1および押し順リップ2のいずれかに当選した時のリ50

ール制御について説明する。押し順リップ1が当選したゲームにおいて左第1停止されたときには、当選した役のうちベルリップ1～4のいずれかに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。一方、押し順リップ1が当選したゲームにおいて中第1停止または右第1停止されたときには、当選した役のうち通常リップに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。

【0218】

押し順リップ2が当選したゲームにおいて左第1停止されたときには、当選した役のうちベルリップ5に対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。一方、押し順リップ2が当選したゲームにおいて中第1停止または右第1停止されたときには、当選した役のうち通常リップに対応する図柄組み合わせを入賞ラインL1に揃えて停止させるリール制御が行われる。10

【0219】

このように、本実施の形態においては、遊技者によるストップスイッチの操作態様に応じて、ベルリップ1～5および通常リップのうち発生する入賞が異なるため、いずれにおいてもメダルを用いることなく次のゲームを行うことができる点では同じでも、入賞の種類を異ならせることにより異なる遊技性をもたらせることができる。

【0220】

また、図10で示したように、非AT中に押し順リップ1または押し順リップ2に当選したときには、遊技者が左第1停止をする限り、ベルリップ1～5のいずれかに入賞する。そのため、非AT中においては、おおよそ3ゲームに1回ほどの頻度でベルリップ1～5が入賞して、メダルを用いることなく次のゲームを行うことが可能となる。ここで、前述したように、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、遊技者に対して、見た目上、通常ベルに入賞したかのように思わせることができる。そのため、非AT中においては、実際は、おおよそ3ゲームに1回ほどの頻度で次のゲームが再遊技となっているが、遊技者の中には、おおよそ3ゲームに1回ほどの頻度で通常ベルの入賞によって、賭数に用いられるメダル枚数以上のメダル払い出しを受けているかのように思わせることができる。20

【0221】

一方、AT中に押し順リップ1または押し順リップ2に当選したときには、遊技者は中第1停止または右第1停止をしてもペナルティが科されないため、中第1停止または右第1停止を促す後述のナビ演出に従ってストップスイッチを操作することにより、通常リップに入賞する。そのため、AT中においては、通常リップに単独当選したときにおおよそ7ゲームに1回ほどの頻度で通常リップが入賞するのに加えて、押し順リップ1または押し順リップ2に当選したときにもおおよそ3ゲームに1回ほどの頻度で通常リップが入賞して、メダルを用いることなく次のゲームを行うことが可能となる。これにより、実際は、遊技状態の移行はないため再遊技役の当選確率は向上しないが、遊技者に対して、ATに制御されたと同時に遊技状態が移行してあたかも再遊技役の当選確率が向上したかのように思わせることができる。30

【0222】

このように、本実施の形態においては、ATに制御されたか否かに応じて、ベルリップ1～5および通常リップのうち発生する入賞が異なるため、ATに制御されたか否か、さらには、いずれの再遊技役を入賞させるためのナビ演出を実行するかに応じて、入賞の種類を異ならせることができ、遊技の進行に応じた制御を実行することができる。40

【0223】

次に、本実施の形態におけるメイン制御部41が実行する各種制御内容を以下に説明する。

【0224】

[ゲーム処理]

図11は、メイン制御部41が設定変更処理の後に実行するゲーム処理の制御内容を示すフローチャートである。ゲーム処理では、BET処理(S1)、内部抽選処理(S2)、判定用役当選コマンド生成、格納処理(S3)、リール回転処理(S4)、演出制御状50

態判定処理（S5）、入賞判定処理（S6）、払出処理（S7）、ゲーム終了時処理（S8）を順に実行し、ゲーム終了時処理が終了すると、再びBET処理に戻る。

【0225】

S1におけるBET処理では、メイン制御部41は、賭数を設定可能な状態で待機し、遊技状態に応じた規定数の賭数が設定され、スタートスイッチ7が操作された時点でゲームを開始させる処理を実行する。また、BET処理では、所定のリプレイ入賞（ベルリップ入賞）に伴ってリップフリーズを発生させるリップフリーズ処理が実行され得る。また、メイン制御部41は、ゲームを開始させる処理として、スタートスイッチ7が操作された時点で、設定された賭数に用いられたメダル数分のメダルIN信号の出力を命令する出力命令をRAM41cに設定する。

10

【0226】

S2における内部抽選処理では、S1におけるスタートスイッチ7の検出によるゲーム開始と同時にラッ奇された内部抽選用の乱数値に基づいて上記した各役への入賞を許容するかどうかを決定する処理を行う。この内部抽選処理では、それぞれの抽選結果に基づいて、RAM41cに当選フラグが設定される。

【0227】

S3における判定用役当選コマンド生成、格納処理では、メイン制御部41は、後述する図12で示すように、判定用役に当選したときに正解となる押し順を附加した判定用役当選コマンドを生成するとともに、生成したコマンドをコマンドバッファに格納する処理を実行する。

20

【0228】

S4におけるリール回転処理では、メイン制御部41は、各リール2L、2C、2Rを回転させる処理、遊技者によるストップスイッチ8L、8C、8Rの操作が検出されたことに応じて対応するリール2L、2C、2Rの回転を停止させる処理を実行する。

【0229】

S5における演出制御状態判定処理では、メイン制御部41は、後述する図14で示すように、第1サブ制御部91が制御する演出制御状態を特定し、特定した演出制御状態に基づき、所定制御を実行する。なお、本実施の形態において、メイン制御部41は、第1サブ制御部91の演出制御状態として、AT中であるか否かを特定する。また、メイン制御部41は、AT中であると特定したときには、所定制御として、AT信号を外部出力するとともに、ATフリーズを実行可能な状態にゲームを制御する。

30

【0230】

ATフリーズとは、後述するAT抽選役に当選したときにナビストック抽選とともに実行される可能性のあるフリーズである。ATフリーズは、AT抽選役に当選したときに、50%の確率で実行され、すべてのリールが回転したまま、所定時間（本実施の形態においては、30秒間）経過するまでゲームの進行が遅延される。図21に示すように、このATフリーズが実行されることにより、ナビストック抽選において、より多くのナビストックがより高確率で付与されるため、遊技者は有利な結果を得る可能性が高くなる。なお、本実施の形態においては、ATフリーズが実行可能とする状態への制御をATフリーズ実行可能制御とも称し、ATフリーズ実行可能制御がされている期間をATフリーズ実行可能期間とも称する。

40

【0231】

S6における入賞判定処理では、メイン制御部41は、S4において全てのリール2L、2C、2Rの回転が停止したと判定した時点で、各リール2L、2C、2Rに導出された表示結果に応じて入賞が発生したか否かを判定する処理を実行する。

【0232】

S7における払出処理では、メイン制御部41は、S6において入賞の発生が判定された場合に、その入賞が小役の場合には当該小役の種類に応じた払出枚数に基づきクレジットの加算ならびにメダルの払出などの処理や、リプレイの場合にはリプレイの種類を特定可能なリプレイゲームフラグをRAMに設定してリプレイゲームを付与可能にする処理な

50

どを行う。また、払出処理では、メイン制御部41は、クレジットの加算ならびにメダルの払出により遊技者に対して付与されたメダル数分のメダルOUT信号の出力を命令する出力命令をRAMに設定する。

【0233】

S8におけるゲーム終了時処理では、メイン制御部41は、次のゲームに備えて遊技状態を設定する処理を実行する。また、ゲーム処理では、ゲームの進行制御に応じてコマンドを生成し、通常コマンド送信用バッファに設定することで、その後のタイマ割込処理(メイン)において第1サブ制御部91に対して設定されたコマンドが送信されるようになっている。

【0234】

[判定用役当選コマンド生成、格納処理]

次に、メイン制御部41がゲーム処理のS3のステップで実行する判定用役当選コマンド生成、格納処理について説明する。図12は、メイン制御部41がゲーム処理中に実行する判定用役当選コマンド生成、格納処理の制御内容を示すフローチャートであり、当該フローチャートに基づいて、判定用役当選コマンド生成、格納処理を実行する。また、図13は、図12のSh2の処理において用いられる停止順種別テーブルを説明するための図である。

【0235】

ここで、本実施の形態においては、判定用ナビ演出により判別可能なストップスイッチの押し順には、通常リップを入賞させるためのストップスイッチの押し順と同じ中第1停止または右第1停止が含まれている。たとえば、図13に示すように、押し順リップ1に当選したときに停止順種別0に対応付けられた押し順は「中左押し」であるのに対し、図10に示すように、押し順リップ1に当選したときに通常リップを入賞させるときの押し順には「中第1停止」が含まれる。これにより、通常リップを入賞させるためのストップスイッチの押し順を、メイン制御部41におけるATであるか否かの判別および所定制御の実行に用いることができるとともに、メイン制御部41が判別したATであるか否かに応じて所定制御を実行することができる。

【0236】

[演出制御状態判定処理]

次に、メイン制御部41がゲーム処理のS5のステップで実行する演出制御状態判定処理について説明する。図14は、メイン制御部が実行する演出状態判定処理の制御内容を示すフローチャートである。図14の処理に基づいて、演出状態判定処理が実行される。

【0237】

[所定制御実行処理]

次に、メイン制御部41が定期的(約0.56ms)にゲーム処理などに割り込んで実行するタイマ割込処理(メイン)において実行する所定制御実行処理について説明する。所定制御実行処理において、メイン制御部41は、まず、RAM41cの所定領域に所定制御フラグがセットされているか否かを判定する。メイン制御部41は、所定制御フラグがセットされている場合には、所定制御を実行する。

【0238】

より具体的には、メイン制御部41は、所定制御フラグに基づき、AT信号の出力命令を設定し、後述する外部出力制御処理においてAT信号を外部出力する。なお、AT信号を受信したデータ表示端末などの外部機器は、ATに移行した旨、およびATのセット回数を画面に表示するなどして遊技者に報知する。また、スロットマシン1と通信可能なホールコンピュータに対して、AT信号を送信することにより、ホールコンピュータは当該AT信号を送信したスロットマシン1がATに制御されていることを認識できる。さらに、メイン制御部41は、所定制御フラグに基づき、ATフリーズ実行可能制御を行い、ATフリーズを実行可能な状態にゲームを制御する。

【0239】

[外部出力制御処理]

10

20

30

40

50

次に、メイン制御部41が定期的(約0.56ms)にゲーム処理などに割り込んで実行するタイマ割込処理(メイン)において実行する外部出力制御処理について説明する。外部出力制御処理において、メイン制御部41は、まず、A T信号の出力命令が設定されているか否かを判定する。メイン制御部41は、A T信号の出力命令が設定されていれば、A T信号を外部出力する。これにより、データ表示端末などの外部機器において、A Tに移行した旨、およびA Tのセット回数が画像で表示されるなどして遊技者に報知される。なお、その他の信号(メダルIN信号、メダルOUT信号など)も外部出力制御処理において外部出力されるようになっている。

【0240】

[B E T処理]

10

次に、メイン制御部41がゲーム処理のS1で実行するB E T処理について説明する。図15～図18は、メイン制御部が実行するB E T処理の制御内容を示すフローチャートである。B E T処理では、まず、メイン制御部41のRAMの所定領域において賭数の値が格納されるB E Tカウンタの値をクリアし(S10)、遊技状態に応じた規定数(本実施の形態では上限数と同じ。いずれの遊技状態においても3。)をメイン制御部41のRAMに設定し(S11)、メイン制御部41のRAMにリプレイゲームである旨を示すリプレイゲームフラグが設定されているか否かに基づいて次のゲーム(今から開始されるゲーム)がリプレイゲームであるか否かを判定する(S12)。

【0241】

S12において次のゲーム(今から開始されるゲーム)がリプレイゲームであると判定された場合には、ベルリップ入賞時においてリップフリーズを発生させるためのリップフリーズ処理を実行する(S13)。リップフリーズ処理については、図18を用いて後述する。リップフリーズ処理が終了した後においては、S14において、B E Tカウンタの値を1加算し、メイン制御部41のRAMに設定された賭数の規定数を参照し、B E Tカウンタの値が規定数(ここでは3)であるか否か、すなわちゲームの開始条件となる賭数が設定されているか否かを判定し(S15)、B E Tカウンタの値が規定数でなければS14に戻る。B E Tカウンタの値が規定数となりリプレイ入賞による賭数の設定が完了すると、S16へ移行する。メイン制御部41は、B E Tカウンタの値が加算された後に、B E Tカウンタの値に応じて、1BETLED14、2BETLED15、3BETLED16を順番に点灯させる処理を実行する。また、メイン制御部41は、リプレイ入賞後における賭数の設定が完了した後に、リプレイ中LED20、および、スタート有効LED18(ウェイト中はウェイト中LED19)を点灯させる処理を実行する。

20

【0242】

S16では、前回ゲームにおいて入賞したリプレイが、通常リップ、7揃いリップ、および、7フェイクリップ1～5(これらのリプレイをまとめて、以下では第1のリプレイともいう)であったか否かが判定される。なお、第1のリプレイは、同じ図柄のみから構成されるリプレイのうち通常リップのみとしてもよい。第1のリプレイであったか否かは、設定されているリプレイゲームフラグから特定される。S16において第1のリプレイであったと判定されたときには、S17において賭数が3(リプレイ当選可能な状態は3枚賭けであるため)加算される旨、および、第1サブ制御部91によりB E T音を出力させる旨のB E T音ありを示すB E Tコマンド(S17では便宜上、“B E Tコマンド(B E T音あり)”と示している。以下同様)を通常コマンド用送信バッファに設定する。

30

【0243】

一方、S16において第1のリプレイではなかったと判定されたときには、S18において賭数が3加算される旨、および、第1サブ制御部91によりB E T音を出力させない旨のB E T音なしを示すB E Tコマンド(S18では便宜上、“B E Tコマンド(B E T音なし)”と示している。以下同様)を通常コマンド用送信バッファに設定する。第1のリプレイではなかったと判定されたときとは、第1のリプレイが通常リップ、7揃いリップ、および、7フェイクリップ1～5であるとした場合には、ベルリップ1～5に入賞したと判定されたときである。以下では、第1のリプレイ以外のリプレイを第2のリプレイともいい

40

50

、ここではベルリップ1～5が該当する。なお、第2のリプレイは、異なる図柄を含む図柄の組み合わせから構成される7フェイクリップ1～5を含むものであってもよく、また後述するA T 抽選契機となる7揃いリップを含むものであってもよい。

【0244】

S 1 7 および S 1 8 で設定された B E T コマンドは、その後のタイマ割込処理（メイン）で第1サブ制御部 9 1 に対して送信される。これにより、第1サブ制御部 9 1 側においては、第1のリプレイ入賞後において賭数が設定される毎に B E T 音を出力するのに対し、第2のリプレイ入賞後において賭数が設定される際には B E T 音を出力させないことになる。これにより、第1のリプレイ入賞を遊技者に気付かせやすくすることができるのでに対し、第2のリプレイ入賞を遊技者に気付かせ難くすることができる。

10

【0245】

S 1 9 では、メイン制御部 4 1 の R A M の所定領域において格納されるクレジットの値であるクレジットカウンタの値が上限値である 5 0 であるか否かを判定する。S 1 9 において上限値であると判定されたときには、投入不可フラグをメイン制御部 4 1 の R A M に設定し（S 2 0）、S 2 2 に進む。S 2 0 において、投入不可フラグが設定されると、投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を消灯させるための処理が行われる。なお、B E T カウンタが第2のリプレイ入賞により規定数に設定されたときには、S 2 0 において投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を消灯させずに、たとえば、後述する S 3 7 で Y E S と判定されるカリップフリーズが終了した後や、3 B E T 分に相当するクレジットコマンド（B E T 音あり）が出力された後に、投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を消灯させる。

20

【0246】

S 1 9 において上限値でないと判定されたとき、つまりクレジット投入が可能であると判定されたときには、S 2 1 に進む。なお、S 1 2 においてリプレイゲームでないと判定された場合にはそのまま S 2 1 に進む。

【0247】

S 2 1 においては、投入待ち前の設定を行って S 2 2 に進む。投入待ち前の設定では、メイン制御部 4 1 の R A M に投入不可フラグが設定されている場合は当該投入不可フラグをクリアし、メダルの投入が可能な状態とする。このため、リプレイ入賞後においては、賭数の設定が完了する前であって投入待ち前の設定が未だ行われていないときに投入されたメダルを受けず、賭数の設定が完了して投入待ち前の設定が行われてから投入されたメダルを有効に受けけてクレジット加算されることになる。メイン制御部 4 1 は、S 2 1 において投入待ち前の設定が行われて投入不可フラグをクリアされた後に、投入要求 L E D 1 7 を点灯させ、賭数を設定することが可能な場合には B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を点灯させる処理を実行する。なお、B E T カウンタが第1のリプレイ入賞により規定数に設定されたときには、S 2 1 において投入要求 L E D 1 7 のみを点灯させる。また、B E T カウンタが第2のリプレイ入賞により規定数に設定されたときには、S 2 1 において投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を点灯させ、たとえば、後述する S 3 7 で Y E S と判定されるカリップフリーズが終了した後や、3 B E T 分に相当するクレジットコマンド（B E T 音あり）が出力された後に、投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を消灯させる。

30

【0248】

S 2 2 では、メイン制御部 4 1 の R A M に投入不可フラグが設定されているか否かに基づいてメダルの投入が可能な状態か否かを判定する。S 2 2 においてメダルの投入が可能な状態であると判定された場合には、流路切替ソレノイド 3 0 を o n の状態とし、メダルの流路をホッパータンク側の経路としてメダルの投入が可能な状態とし（S 2 3）、S 2 5 に進み、メダルの投入が可能な状態でないと判定された場合には、流路切替ソレノイド 3 0 を o f f の状態とし、メダルの流路をメダル払出口 9 側の経路として新たなメダルの投入を禁止し（S 2 4）、S 2 5 に進む。

【0249】

40

50

S 2 5においては、設定キースイッチ3 7がonの状態か否かを判定し、設定キースイッチ3 7がonであれば、B E Tカウンタの値が0か否かを判定する(S 2 6)。S 2 6においてB E Tカウンタの値が0であれば、確認開始コマンドを通常コマンド送信用バッファに設定し(S 2 7)、設定確認処理(S 2 8)、すなわち設定確認状態に移行する。S 2 7で設定された確認開始コマンドは、その後のタイマ割込処理(メイン)で第1サブ制御部9 1に対して送信される。また、S 2 8における設定確認処理が終了した後は、S 2 2に戻る。S 2 5において設定キースイッチ3 7がonではない場合またはS 2 6においてB E Tカウンタの値が0ではない場合には、S 3 0に進む。

【0 2 5 0】

S 3 0では、投入メダルセンサ3 1による検出結果が適正な検出結果となり投入メダルの通過が検出されたか否か、すなわち投入メダルの通過が検出された旨を示す投入メダルフラグの有無を判定する。S 3 0において投入メダルの通過が検出されていなければ、S 4 5に進み、投入メダルの通過が検出されていれば、投入メダルフラグをクリアし(S 3 1)、メイン制御部4 1のRAMに投入不可フラグが設定されているか否かに基づいてメダルの投入が可能な状態か否かを判定し(S 3 2)、メダルの投入が可能な状態でなければS 4 5に進む。

【0 2 5 1】

S 3 2においてメダルの投入が可能な状態であれば、メイン制御部4 1のRAMに設定された賭数の規定数を参照し、B E Tカウンタの値が規定数であるか否を判定し(S 3 3)、B E Tカウンタの値が規定数でなければ、賭数が1加算される旨、および、第1サブ制御部9 1によりB E T音を出力させる旨のB E T音ありを示すB E Tコマンド(B E T音あり)を通常コマンド送信用バッファに設定し(S 3 4)、B E Tカウンタの値を1加算し(S 3 5)、S 2 2に戻る。S 3 4で設定されたB E Tコマンドは、その後のタイマ割込処理(メイン)で第1サブ制御部9 1に対して送信される。これにより、メダル投入により賭数が設定される際には、第1サブ制御部9 1側において、B E T音が出力される。

【0 2 5 2】

S 3 3においてB E Tカウンタの値が規定数であれば、S 3 6において前回ゲームにおいて第2のリプレイが入賞していたか否かが判定される。第2のリプレイであったか否かは、リプレイゲームフラグから特定される。S 3 6において、前回ゲームにおいて第2のリプレイが入賞していなかったと判定されたときには、S 3 8において、1加算後のクレジットカウンタの値を示すとともに第1サブ制御部9 1によりクレジット音を出力させる旨を示すクレジットコマンド(S 3 8では便宜上、“クレジットコマンド(通常)”と示している。以下同様)を通常コマンド送信用バッファに設定し、S 4 0においてメイン制御部4 1のRAMにおいてクレジットの値が格納されるクレジットカウンタの値を1加算する。S 3 8で設定されたクレジットコマンドは、その後のタイマ割込処理(メイン)で第1サブ制御部9 1に対して送信される。

【0 2 5 3】

S 3 6において、前回ゲームにおいて第2のリプレイが入賞していたと判定されたときには、S 3 7において、規定数分のB E T音が出力されたか否かが判定される。具体的には、S 3 9に示すクレジットコマンドが規定数分の3回出力されたか否か判定される。第2のリプレイ入賞後において賭数が設定されるに際しては、S 1 8で示したようにB E Tコマンド(B E T音なし)が出力されるため、第1サブ制御部9 1においてB E T音が出力されない。このため、第2のリプレイ入賞後、賭数が設定された後において、メダルが投入されてクレジットされる際に、B E T音を規定数回まで出力させるための処理が行われる。

【0 2 5 4】

S 3 7において、規定数分のB E T音が出力されていないときには、S 3 9において、1加算後のクレジットカウンタの値を示すとともに第1サブ制御部9 1によりクレジット音を出力させる旨を示すクレジットコマンド(S 3 9では便宜上、“クレジットコマンド

10

20

30

40

50

(B E T 音あり) ”と示している。以下同様) を通常コマンド送信用バッファに設定し、S 4 0においてメイン制御部 4 1 の R A M においてクレジットの値が格納されるクレジットカウンタの値を 1 加算する。S 3 9 で設定されたクレジットコマンドは、その後のタイマ割込処理(メイン)で第 1 サブ制御部 9 1 に対して送信される。一方、S 3 7 において、規定数分の B E T 音が既に出力されているときには、S 3 8 に進み、クレジットコマンド(通常)が通常コマンド送信用バッファに設定される。これにより、第 2 のリプレイ入賞後のメダル投入によるクレジット加算の際には、第 1 サブ制御部 9 1 側において、3 枚目までについては B E T 音が出力され、4 枚目以降についてはクレジット音が出力される。一方、第 2 のリプレイ入賞後でないときのメダル投入によるクレジット加算の際には、第 1 サブ制御部 9 1 側において、1 枚目からクレジット音が出力されることになる。なお、S 3 6 および S 3 7 の次のステップとして、S 4 0 を実行した後に、対応する S 3 8 あるいは S 3 9 の処理を行うことにより、クレジットカウンタの値として S 4 0 により加算された後にあたる現在の値を示すクレジットコマンドを S 3 8 あるいは S 3 9 において設定するようにしてもよい。また、第 2 のリプレイ入賞時にはリプフリーズ解除後において規定数分の賭数が設定されるため、S 3 9 においては、クレジットコマンド(B E T 音あり)として、規定数分の B E T 音を出力させるためのコマンドを設定し、規定数分の B E T 音を出力させるようにしてもよい。10

【0255】

S 4 1 においては、クレジットカウンタの値が上限値である 5 0 であるか否かが判定される。クレジットカウンタの値が 5 0 でなければ、S 2 2 に戻り、クレジットカウンタの値が 5 0 であれば、S 4 2 において投入不可フラグをメイン制御部 4 1 の R A M に設定し S 2 2 に戻る。20

【0256】

S 4 5 では、スタートスイッチ 7 の操作が検出されているか否か、すなわちスタートスイッチ 7 の立上りを示す立上りエッジが設定されているか否かを判定する。さらに立上りエッジは、いずれかのスイッチが O N に変化し、かつ全てのスイッチが O F F である場合にのみ設定されるので、S 4 5 では、いずれかのスイッチが O N に変化したか否かに加えて他のスイッチが O F F であるかどうかについても判定されることとなる。

【0257】

S 4 5 においてスタートスイッチ 7 の操作が検出されていないと判定された場合、またはスタートスイッチ 7 が操作されたものの他のスイッチも操作されている場合には、S 5 0 に進み、スタートスイッチ 7 の操作が有効に検出されていれば、S 4 6 に進み、立上りエッジをクリアする。また、S 4 7 では、メイン制御部 4 1 の R A M に設定された賭数の規定数を参照し、B E T カウンタの値が規定数であるか、すなわちゲームの開始条件となる賭数が設定されているか否かを判定する。30

【0258】

S 4 7 において B E T カウンタの値が規定数でなければ、S 2 2 に戻り、B E T カウンタの値が規定数であれば、S 4 8 において、投入不可フラグをメイン制御部 4 1 の R A M に設定するとともに、流路切替ソレノイド 3 0 を o f f の状態とし、メダルの流路をメダル払出口 9 側の経路として新たなメダルの投入を禁止し、S 4 9 において、ゲーム開始時の設定を行う。これにより、ゲームが開始されてから当該ゲームが終了して、次のゲーム以降の B E T 処理における S 2 1 において投入待ち前の設定が行われるまではメダルを投入しても受けられず、メダル払出口 9 から払出されることになる。そして、S 4 9 の後、B E T 処理を終了して図 1 1 の S 2 に進む。40

【0259】

S 5 0 においては、1 枚 B E T スイッチ 5 の操作が検出されているか否か、すなわち 1 枚 B E T スイッチ 5 の立上りを示す立上りエッジが設定されているか否かを判定する。S 5 0 において 1 枚 B E T スイッチ 5 の操作が検出されなければ、S 5 1 に進み、1 枚 B E T スイッチ 5 の操作が検出されれば、図 1 7 の S 6 5 に進み、立上りエッジをクリアする。50

【0260】

S66においては、メイン制御部41のRAMに設定された賭数の規定数を参照し、BETカウンタの値が規定数であるか否かを判定する。S66においてBETカウンタの値が規定数であればS22に戻り、BETカウンタの値が規定数でなければ、S67においてクレジットカウンタの値が0であるか否かを判定する。S67においてクレジットカウンタの値が0であればS22に戻る。S67においてクレジットカウンタの値が0でなければ、S68において、賭数が1加算される旨、および、第1サブ制御部91によりBET音を出力させる旨のBET音ありを示すBETコマンド（BET音あり）を通常コマンド送信用バッファに設定する。また、S69においては、クレジットカウンタの値を1減算し、S70においては、BETカウンタの値を1加算してS22に戻る。S68で設定されたBETコマンドは、その後のタイマ割込処理（メイン）で第1サブ制御部91に対して送信される。これにより、1枚BETスイッチ5の操作により賭数が設定される際には、第1サブ制御部91側において、BET音が出力される。なお、第2のリプレイ入賞後において、S66でYESと判定されたときには、S37と同様の判定を行い、規定数分、BET音が出力されていないときには、S39と同様の処理を行うようにして、BET音を出力させるようにしてもよい。

10

【0261】

S51においては、MAXBETスイッチ6の操作が検出されているか否か、すなわちMAXBETスイッチ6の立上り示す立上りエッジが設定されているか否かを判定する。S51においてMAXBETスイッチ6の操作が検出されていなければ、S52に進み、MAXBETスイッチ6の操作が検出されれば、図17のS75に進み、立上りエッジをクリアする。

20

【0262】

S76においては、メイン制御部41のRAMに設定された賭数の規定数を参照し、BETカウンタの値が規定数であるか否かを判定する。S76においてBETカウンタの値が規定数であれば、S80に進み、BETカウンタの値が規定数でなければ、S77においてクレジットカウンタの値が0であるか否かを判定する。S77においてクレジットカウンタの値が0であれば、S80に進む。S77においてクレジットカウンタの値が0でなければ、S78において、クレジットカウンタの値を1減算し、S79において、BETカウンタの値を1加算して、S76に戻る。

30

【0263】

S80では、BETカウンタが加算されたか否かを判定し、BETカウンタが加算されていなければS22に戻る。なお、S80におけるBETカウンタが加算されている場合には、S79における加算のみならず、リップリーズがMAXBETスイッチ6操作により解除された後のS14における加算も含む。一方、BETカウンタが加算されれば、S81において加算された数分賭数が加算された旨、および、第1サブ制御部91によりBET音を出力させる旨のBET音ありを示すBETコマンド（BET音あり）を通常コマンド送信用バッファに設定しS22に進む。S81で設定されたBETコマンドは、その後のタイマ割込処理（メイン）で第1サブ制御部91に対して送信される。これにより、MAXBETスイッチ6の操作により賭数が設定される際には、第1サブ制御部91側において、設定された賭数分だけBET音が出力される。

40

【0264】

S52においては、精算スイッチ10の操作が検出されているか否か、すなわち精算スイッチ10の立上りを示す立上りエッジが設定されているか否かを判定する。S52において精算スイッチ10の操作が検出されていなければS22に戻り、精算スイッチ10の操作が検出されれば、S53に進み、立上りエッジをクリアする。S54においては、メイン制御部41のRAMにリプレイゲームフラグが設定されているか否かに基づいて次のゲームがリプレイゲームであるか否かを判定する。

【0265】

S54においてリプレイゲームであると判定されなかったときには、S56においてB

50

E T カウンタの値が 0 か否かを判定し、B E T カウンタの値が 0 でなければ S 5 7 に進み、ホッパーモータ 3 4 を駆動して B E T カウンタに格納された値分のメダルを払い出す制御（すなわち賭数の設定に用いられたメダルを返却するとともに B E T カウンタの値を 0 にする制御）が行われるとともに、メダルの払出開始および賭数精算を通知する払出開始コマンドを通常コマンド送信用バッファに設定するための賭数精算処理を行う。S 5 7 における賭数精算処理の後、S 5 8 において、メイン制御部 4 1 の R A M に設定されている投入不可フラグをクリアして S 2 2 に戻る。これにより、リプレイ入賞後ではなく賭数が設定されている状態で精算スイッチ 1 0 の操作により賭数精算が行われる際には、第 1 サブ制御部 9 1 側において、賭数精算中である旨が表示されるとともに、賭数精算に対応する音が出力される。

10

【 0 2 6 6 】

これに対し、S 5 4 においてリプレイゲームであると判定されたときや、S 5 6 において B E T カウンタの値が 0 であると判定されたときには、S 5 9 において、ホッパーモータ 3 4 を駆動してクレジットカウンタに格納された値分のメダルを払い出す制御（すなわちクレジットとして記憶されているメダルを返却するとともにクレジットカウンタの値を 0 にする制御）が行われるとともに、メダルの払出開始を通知するとともに、リプレイゲームにおけるクレジット精算であるか賭数が設定されていないときにおけるクレジット精算であるかを通知する払出開始コマンドを通常コマンド送信用バッファに設定するための賭数精算処理を行う。S 5 7 における賭数精算処理の後、S 5 8 において、メイン制御部 4 1 の R A M に設定されている投入不可フラグをクリアして S 2 2 に戻る。これにより、リプレイ入賞において精算スイッチ 1 0 の操作により精算が行われる際には、賭数精算が行われることなくクレジット精算のみが行われ、かつ、第 1 サブ制御部 9 1 側においては、リプレイ入賞後におけるクレジット精算中である旨が表示されるとともに、リプレイ入賞後におけるクレジット精算に対応する音が出力される。また、B E T カウンタの値が 0 であるときにおける精算スイッチ 1 0 の操作により精算が行われる際には、第 1 サブ制御部 9 1 側において、B E T カウンタの値が 0 であるときのクレジット精算中である旨が表示されるとともに、B E T カウンタの値が 0 であるときのクレジット精算に対応する音が出力される。

20

【 0 2 6 7 】

図 1 8 は、メイン制御部 4 1 が B E T 処理の S 1 3 で実行するリップリーズ処理の制御内容を示すフローチャートである。リップリーズ処理は、リプレイゲームであると判定された場合、つまり、前回ゲームにおいてリプレイ入賞後に行われる。S 8 5 では、前回ゲームにおいて入賞したリプレイが、ベルリップ 1 ~ 5 である第 2 のリプレイであったか否かが判定される。ベルリップ 1 ~ 5 でなかったと判定されたときには、フリーズを発生させることなく、そのままリップリーズ処理を終了する。

30

【 0 2 6 8 】

一方、ベルリップ 1 ~ 5 のいずれかであったと判定されたときには、S 8 9 ~ S 9 2 のいずれかにおいて Y E S と判定されてフリーズ解除条件が成立するまで、リプレイ入賞により賭数設定されるタイミングやスタートスイッチ 7 を有効化するタイミングを遅延させるフリーズ（リップリーズ）を発生させるための処理が行われる。S 8 6 において、クレジットカウンタの値が上限値の 5 0 であるか否かを判定する。S 8 6 において上限値でないと判定されたときには、クレジット加算が可能であるため、S 8 7 において、流路切替ソレノイド 3 0 を o n の状態とし、メダルの流路をホッパートンク側の経路としてメダルの投入が可能な状態とされる。また、S 8 8 において、遊技者に投入要求 L E D 1 7 および B E T スイッチ有効 L E D 2 1 を点灯させるための処理が行われる。これにより、特に、M A X B E T 操作や、メダル投入などを促進させることができる。

40

【 0 2 6 9 】

これに対し、S 8 6 においてクレジットカウンタの値が上限値である 5 0 であると判定されたときには、クレジット加算が不可能であるため、S 8 7 などの処理を行わずに、S 8 9 へ移行する。これにより、クレジットカウンタが 5 0 であるにもかかわらず、投入さ

50

れたメダルがホッパータンク側に流下されしまう一方、当該メダルによりクレジット加算も賭数加算もされないといった不具合が生じてしまうことを防止することができる。

【0270】

S89では、リップフリーズの開始から所定時間（本実施の形態においては、30秒）経過したか否かを判定する。S89においてリップフリーズの開始から所定時間経過したと判定したときには、リップフリーズ解除条件が成立する。

【0271】

S89においてリップフリーズの開始から所定時間経過していないと判定したときには、S90において、遊技者によるMAXBETスイッチ6を用いたMAXBET操作があつたか否かを判定する。S90において遊技者によるMAXBET操作があつたと判定したときには、リップフリーズ解除条件が成立する。10

【0272】

S90において遊技者によるMAXBET操作がないと判定したときには、S91において、メダル投入部4から投入されたメダルが、流路切替ソレノイド30よりもホッパータンク34a側に配置されている投入メダルセンサ31が備える複数のセンサのうち、最も上流側に配置されているセンサ（つまり最初に投入メダルを検出可能なセンサ（このセンサを以下では特定センサともいう））により検出されているか否かを判定する。特定センサによりメダルの通過が検出されるのは、S87で流路切替ソレノイド30がonの状態にされているときである。S91においてメダルの投入があったと判定したときには、リップフリーズ解除条件が成立する。なお、S91においてメダルの投入があったと判定したときでも、他のセンサにより未だメダルの投入が検出されておらず、投入メダルセンサ31による検出結果が適正な検出結果となっていないため、投入メダルフラグは設定されない。20

【0273】

また、S91においてメダルの投入があったと判定されていないときには、S92において遊技者による精算スイッチ10を用いたクレジット精算操作があつたか否かを判定する。S92において遊技者によるクレジット精算操作があつたと判定したときには、リップフリーズ解除条件が成立する。また、当該クレジット精算操作によりフリーズが解除された後においては、図16のS52においてYESと判定されてS59に移行される結果、クレジット精算処理が行われる。一方、S92において遊技者によるクレジット精算操作がないと判定したときには、S89へ移行する。30

【0274】

フリーズ解除条件が成立した後においては、S93において、流路切替ソレノイド30がonの状態となっているときには当該流路切替ソレノイド30がoff状態にされて、リップフリーズ処理を終了する。リップフリーズ処理においては、S93の処理が行われる。これにより、たとえば、クレジットカウンタが49であるときにリップフリーズが発生して、複数枚のメダルが一気に投入された場合でも、そのうちの1枚目が特定センサにより検出されることによりフリーズ解除条件が成立した後、即座にS93において流路切替ソレノイドがoff状態にさせて、リップフリーズ処理を終了させた後、1枚目のメダルがさらに他のセンサにより検出されて投入メダルセンサ31による検出結果が適正な検出結果となり投入メダルフラグが設定されると、図16のS30でYESと判定されてS40でクレジットカウンタが50に更新されて、図15のS19でYESと判定されてS20で投入不可フラグが設定され流路切替ソレノイドがoff状態となるため、複数枚のメダルのうち2枚目以降のメダルはメダル払出口9から払出される。投入メダルセンサ31が備える複数のセンサは、複数枚のメダルが一気に投入された場合において、1枚目のメダルが特定センサにより検出されてから他のセンサにより検出されて投入メダルセンサ31による検出結果が適正な検出結果となるまでに要する時間が方が、1枚目のメダルが特定センサにより検出されてから2枚目のメダルが流路切替ソレノイド30に到達するまでに要する時間よりも短くなるように配置されている。このため、1枚目のメダル投入によりクレジット50に到達するときには、2枚目以降のメダルが流路切替ソレノイド30に到達し4050

たときに必ず流路切替ソレノイドが○f f 状態となるようにして、2枚目以降のメダルをメダル払出口9から払出させることができる。これにより、メダルを投入したにもかかわらず、クレジット加算もされず、返却もされないといった不具合の発生を防止することができる。

【0275】

一方、クレジットカウンタが49未満であるときにリップフリーズが発生して、複数枚のメダルが一気に投入された場合には、そのうちの1枚目が特定センサにより検出されることによりフリーズ解除条件が成立した後、即座にS93において流路切替ソレノイドが○f f 状態にされるものの、その直後の図15のS19でNOと判定されてS21で投入待ち前の設定が行われて流路切替ソレノイドが○n状態に切り替えられ、当該○n状態がクレジット50に到達するまで維持されるため、複数枚のメダルのうち2枚目以降のメダルも（クレジット50に到達するまでは）取り込まれてクレジットに加算される。これにより、リップフリーズ中においてメダル投入されたときの利便性を向上させることができる。10

【0276】

次に、ゲーム終了後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングについて説明する。図19(a)～(d)は、図15～図18に示したBET処理が実行されることにより、ゲーム終了後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングの一例を説明するための図である。

【0277】

図19(a)は、小役入賞せずにメダル払出がなかった後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングを説明するための図である。小役入賞が発生していない場合には、払出が行われることなくゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S12の処理が実行された後において、S21以降の処理が実行されることにより、図19(a)に示されるようにメダルの投入あるいは精算が許容される。20

【0278】

図19(b)は、小役入賞してメダル払出が行われた後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングを説明するための図である。小役入賞が発生している場合には、払出が行われた後にゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S12の処理が実行された後において、S21以降の処理が実行されることにより、図19(b)に示されるようにメダルの投入あるいは精算が許容される。30

【0279】

図19(c)は、通常リップ入賞した後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングを説明するための図である。通常リップ入賞が発生している場合には、払出が行われることなくゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S12の処理に加えて、さらに賭数設定が完了したタイミング以降（つまり、賭数設定が完了したタイミング、または当該タイミングより後）であってS19においてクレジット可能であると判定された後において、S21以降の処理が実行されることにより、図19(c)に示されるようにメダルの投入あるいは精算が許容される。40

【0280】

図19(d)は、ベルリップ入賞した後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングを説明するための図である。ベルリップ入賞が発生している場合には、払出が行われることなくゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S12の処理が実行された後、図18に示すリップフリーズ処理が実行されて、リップフリーズ解除条件が成立するまでリップフリーズに制御される。この間においては、図18のS87で示したように、流路切替ソレノイド30が○n状態にされて、フリーズ解除のためのメダル投入が許可されるとともに、フリーズ解除のためのクレジット精算操作やMAXBET操作も許可される。リップフリーズ解除条件が成立すると50

、賭数設定が完了したタイミング以降（つまり、賭数設定が完了したタイミング、または当該タイミングより後）に、図15のS19においてクレジット可能であると判定された後において、S21以降の処理が実行されることにより、図19（d）に示されるように通常のメダルの投入あるいは精算が許容される。

【0281】

リップフリーズ中においては、フリーズ解除のためのメダル投入やクレジット精算操作が許容されており、リップフリーズ中におけるメダル投入やクレジット精算操作に連動してリップフリーズが解除され、賭数設定された後に通常のメダルの投入あるいは精算が行われる。なお、リップフリーズ中であっても、クレジットカウンタの値がすでに50に達しているときには、図18のS87において流路切替ソレノイド30がon状態にされないため、この場合におけるメダルの投入については、リップフリーズ終了後から許容されることとなる。10

【0282】

[遊技状態について]

次に、本実施の形態における遊技状態について説明する。本実施の形態においては、1つの遊技状態のみが設定されており、役の当選や入賞などに応じて複数の遊技状態の間を遷移するようなものではない。そのため、スロットマシン1は、遊技状態に応じて再遊技役の当選確率を向上させることで有利に遊技を進めるような遊技性を有するものではない。20

【0283】

ここで、スロットマシン1は、再遊技役の当選確率の高低によって、遊技者間での有利度合いが変化するものではないが、その分、ATに制御されることは遊技者にとって非常に重要となる。つまり、再遊技役の当選確率が遊技状態に応じて変化しないスロットマシン1では、図9で示したようにAT中に通常ベルを入賞させてメダルの純増枚数を増やすことで有利に遊技を進めることができることが、勝敗を分ける重要な要素となる。20

【0284】

本実施の形態においては、メイン制御部41が第1サブ制御部91によってATに制御されたことを特定したときに外部出力制御処理においてAT信号を外部出力することで、データ表示端末などの外部機器により、ATに移行した旨、およびATのセット回数を画面に表示するなどして遊技者に報知するようになっている。これにより、外部機器により、ATに移行した旨、およびATのセット回数が報知されたときには、ATに対する大きな期待をもっている遊技者に対して、大きな喜びを享受することができるようになっている。30

【0285】

次に、本実施の形態における第1サブ制御部91が実行する各種制御内容を以下に説明する。

【0286】

[タイマ割込処理（サブ）]

図20は、第1サブ制御部91が内部クロックのカウント値に基づいて1.12秒の間隔で実行するタイマ割込処理（サブ）のフローチャートである。第1サブ制御部91は当該フローチャートに示すタイマ割込処理を実行する。40

【0287】

[ナビストック抽選]

次に、図20のSb5で実行するナビストック抽選処理内で実行されるナビストック抽選について説明する。図21は、サブ制御部が管理するナビストック抽選テーブルについて説明するための図である。

【0288】

本実施の形態において第1サブ制御部91は、AT抽選役（本実施の形態では、弱チェリー、中チェリー、チャンス1、チャンス2、7揃いリップ、強チェリー）に当選した場合にATに制御するか否かを決定するナビストック抽選を実行する。ナビストック抽選では50

、ナビストック数を付与するか否かおよび付与する場合にはその個数が決定される。

【0289】

より具体的には、図21に示すように、弱チェリーが当選する第1抽選条件が成立した場合におけるナビストック付与の当選確率は、ATフリーズが実行されなかったときには10%に設定され、ATフリーズが実行されたときには20%に設定されている。また、ATフリーズが実行されなかったときには、付与されるナビストック数が1個となる当選確率が100%に設定され、2個となる当選確率が0%に設定され、3個となる当選確率が0%に設定されている。一方、ATフリーズが実行されたときには、付与されるナビストック数が1個となる当選確率が0%に設定され、2個となる当選確率が100%に設定され、3個となる当選確率が0%に設定されている。他の抽選条件である第2～第5抽選条件については、図21に示す通りなので説明を省略する。10

【0290】

このように、本実施の形態においては、当選したAT抽選役の種類に応じて、ナビストック付与の当選確率が異なる。さらに、ナビストック抽選とともにATフリーズが実行されたときには、ATフリーズが実行されなかったときよりも、ナビストック数が付与される可能性が高くなり、また、付与される場合のナビストック数が多くなる可能性が高くなっている。これにより、AT中にATフリーズを実行させることにより、遊技者に対して、ナビストック抽選が実行されたことを認識させることでナビストック獲得の期待をもたせることができ、さらに、ナビストック抽選においてより多くのナビストック数が付与されることに対して大きな期待をもたせることができる。20

【0291】

さらに、本実施の形態におけるスロットマシン1は、再遊技役の当選確率が遊技状態に応じて変化するものではないため、ATに制御されることが有利に遊技を進める上で非常に重要となっているため、AT中にATフリーズを実行させることにより、より多くのナビストック数が付与されることでATが長く継続することに対して大きな期待をもたせることができる。

【0292】

図22は、図20のSb7で実行するAT信号出力フラグ制御処理の制御内容を示すフローチャートである。図23は、Sb8で実行する判定用ナビ演出処理の制御内容を示すフローチャートである。30

【0293】

以上のように、本実施の形態では、ATにおいてAT信号が出力されるまでの特定期間では、押し順リップまたは通常リップに対して4択の判定用ナビ演出が実行され、特定期間の経過後は、2択の通常のナビ演出が実行されるので、AT信号を出力した後は4択の操作を選択してトップスイッチの操作を行わなくてもよくなり、遊技者の負担を軽減できる。

【0294】

[ナビ演出]

次に、第1サブ制御部91が実行するナビ演出の具体的な内容について説明する。本実施の形態のナビ演出は、液晶表示器51からのナビ画像の表示と、スピーカ53、54からのナビ音声の出力とによって行われる。40

【0295】

たとえば、通常のナビ演出であれば、押し順ベル1～4や押し順リップ1、2に当選したときに、「中だ！」（中第1停止を報知）や「右だ！」（右第1停止を報知）といったトップスイッチ8L、8C、8Rの押下順序を示す押下順序画像と、スロットマシン1のモチーフに合わせたキャラクタ画像とが液晶表示器51に表示される。また、スピーカ53、54からもトップスイッチの押下順序を示す音声が出力される。

【0296】

また、たとえば、判定用ナビ演出であれば、通常リップや押し順リップ1、2に当選したときに、「中だ！左だ！右だ！」（中左押しを報知）や「右だ！左だ！中だ！」（逆挟み押

10

20

30

40

50

しを報知)といったストップスイッチ 8 L、8 C、8 R の押下順序を示す押下順序画像と、スロットマシン 1 のモチーフに合わせたキャラクタ画像とが液晶表示器 5 1 に表示される。また、スピーカ 5 3、5 4 からもストップスイッチの押下順序を示す音声が出力される。

【0297】

[A T に関するタイミングチャート]

次に、本実施の形態における A T 内での各種演出について説明する。図 2 4 は、A T に関するタイミングチャートの一例を示す図である。

【0298】

図 2 4 においては、判定用役に対して押し順正解したとき、A T 信号が外部出力されたとき、A T フリーズ実行可能制御がされたとき、判定用ナビ演出が実行されたとき、および通常のナビ演出を含む判定用以外のナビ演出が実行されたときに、ラインが OFF から ON に立ち上がる旨が示されている。また、図 2 4 においては、押し順リップまたは通常リップが当選したときのナビ演出が 4 択ナビであるか 2 択ナビであるかが示されている。さらに、図 2 4 においては、A T に制御されている状態ではラインが OFF から ON に立ち上がる旨が示され、A T に制御されていない状態ではラインが ON から OFF に立ち下がる旨が示されている。なお、判定用以外のナビ演出には、判定用役である押し順リップや通常リップ以外の役に当選したときに、第 1 サブ制御部 9 1 が実行するナビ演出、あるいは押し順リップや通常リップに当選したときに判定に用いられない通常のナビ演出(2 択ナビ)が含まれる。また、図 2 4 では A T が 1 セットで 5 0 ゲーム行われるとともに、A T が 2 セット目まで行われた場合を例に挙げて説明する。10

【0299】

図 2 4 に示すように、タイミング t 1 から開始された A T は、1 セット 5 0 ゲームの期間に亘って制御され、タイミング t 3 で 1 セット目が終了する。その後、タイミング t 3 から続けて 2 セット目の A T が開始され、タイミング t 5 で 2 セット目が終了する。また、A T においては、判定用ナビ演出と判定用以外のナビ演出とが実行されるようになっている。

【0300】

1 セット目の A T においてメイン制御部 4 1 が A T か否かを特定する特定期間では、メイン制御部 4 1 は、押し順リップまたは通常リップに当選したときに、所定の停止順種別を抽選によって選択し、当該停止順種別を特定する情報を内部当選コマンドに含ませて第 1 サブ制御部 9 1 に送信する。第 1 サブ制御部 9 1 は、内部当選コマンドに含まれる情報から特定される停止順種別に基づき判定用ナビ演出を実行する。たとえば、第 1 サブ制御部 9 1 は、押し順リップ 1 の当選時に停止順種別 0 を選択した場合、停止順種別 0 に対応付けられた判定用の押し順(中左右)を判別可能な判定用ナビ演出(4 択ナビ)を実行する。メイン制御部 4 1 は、停止順種別と実際に遊技者によって操作された押し順とが一致する場合に、判定用役に対する押し順が正解した旨を特定する。そして、メイン制御部 4 1 は、1 セット 5 0 ゲームの A T 内で押し順正解を 3 回判定したときに、タイミング t 2 で示すようにその後 A T 1 セット目であることを特定する A T 信号を外部出力する。これにより、外部機器において、A T の 1 セット目であることを特定することが可能となる。30

【0301】

ここで、A T の 1 セット内で、メイン制御部 4 1 が A T のセット回数を特定することができた後には、再度、判定用役に対する押し順正解の判定をする必要がない。そのため、第 1 サブ制御部 9 1 は、メイン制御部 4 1 が A T 1 セット目であることを特定する A T 信号を外部出力したタイミング t 2 から A T 1 セット目が終了するタイミング t 3 までの間は、判定用以外のナビ演出のみを実行する。たとえば、押し順リップまたは通常リップに当選したときでも判定用ナビ演出(4 択ナビ)を実行することなく通常のナビ演出(2 択ナビ)を実行する。より具体的には、押し順リップ 1 の当選時であれば、左第 1 停止または右第 1 停止を報知する通常のナビ演出(2 択ナビ)が実行され、判定用ナビ演出の 4 択より押し順の択数が減少する。40

【 0 3 0 2 】

さらに、メイン制御部41は、1セット50ゲームのAT内で押し順正解を3回判定してAT1セット目であることを特定するAT信号を外部出力したときには、同時にATフリーズ実行可能制御にゲームを制御する。これにより、ナビストック抽選において、ATフリーズを実行することが可能となり、遊技者を有利にさせることができる。

【 0 3 0 3 】

ATの1セット目が終了して、2セット目が制御されたときには、再び判定用ナビ演出が実行される。2セット目のATにおいて、メイン制御部41は、1セット目と同様に、押し順リップまたは通常リップ当選したときに、所定の停止順種別を抽選によって選択し、当該停止順種別を特定する情報を内部当選コマンドに含ませて第1サブ制御部91に送信する。第1サブ制御部91は、内部当選コマンドに含まれる情報から特定される停止順種別に基づき判定用ナビ演出を実行する。メイン制御部41は、停止順種別と実際に遊技者によって操作された押し順とが一致する場合に、判定用役に対する押し順が正解した旨を特定する。そして、メイン制御部41は、1セット50ゲームのAT内で押し順正解を3回判定したときに、タイミングt4で示すようにその後AT2セット目であることを特定するAT信号を外部出力する。これにより、外部機器において、ATの2セット目であることを特定することが可能となる。さらに、メイン制御部41は、AT信号を外部出力したときには、同時にATフリーズ実行可能制御にゲームを制御する。その後、第1サブ制御部91は、タイミングt4からAT2セット目が終了するタイミングt5までの間は、判定用以外のナビ演出のみを実行する。

10

20

【 0 3 0 4 】

このように、本実施の形態におけるATにおいては、ATの1セット内で、第1サブ制御部91の演出制御状態（たとえば、AT中であるか否か、ATのセット数）をメイン制御部41が判定するための判定用ナビ演出と、判定用以外のナビ演出である通常のナビ演出とが実行される。そして、一旦、メイン制御部41が第1サブ制御部91の演出制御状態を特定した後には、そのセット内のATにおいては、判定処理をする必要がないため、判定用ナビ演出は実行されないようになっている。

【 0 3 0 5 】

さらに、本実施の形態では、ATが開始されたことが特定されるまでの特定期間では、4択の判定用ナビ演出が実行され、特定期間の経過後は、2択の通常のナビ演出が実行されるので、AT信号を出力した後は4択の操作を選択してストップスイッチの操作を行わなくてもよくなり、遊技者の負担を軽減できる。

30

【 0 3 0 6 】

次に、前述した実施の形態により得られる主な効果を説明する。

(1) 前述した実施の形態では、図15のS12～S21や図19(c)で示したように、リプレイ入賞が発生した後であってリプレイゲームが開始（リール回転開始）されるまでの間に投入されたメダルであっても、当該リプレイ入賞による賭数設定（自動BET）がされて次のリプレイゲームが開始可能な状態となってから後に検出されたメダルである場合には、当該メダルの検出に応じて図16のS36～S40が行われて、クレジットに加算させることができる。このため、リプレイ入賞が発生した後におけるクレジット加算が賭数設定よりも先に行われてしまうことを防止できる。その結果、違和感を抱かせることなく、リプレイ入賞が発生した後における遊技者の利便性を向上させることができる。

40

【 0 3 0 7 】

また、リプレイのうちベルリップ1～5のいずれかに入賞した後においては、図18のS86～S92で示したように、リプフリーズが発生し、メダルの投入により成立する条件を含む複数種類のフリーズ解除条件のうちいずれかが成立することにより終了する。これにより、小役入賞時やはづれ時と同様に、メダルの投入など所定の操作を行わなければ、次のゲームが開始されないように思わせるとともに、これらの所定の操作が行われることで次のゲームを開始できるようになったかのように思わせることができる。

50

【0308】

(2) 前述した実施の形態では、図16のS52～S59に示されるように、精算スイッチ10への操作に応じて、賭数が設定されている場合には当該賭数を精算する賭数精算処理を実行し、賭数が設定されていない場合にはクレジットを精算するクレジット精算処理を実行可能としつつ、設定されている賭数がリプレイ入賞により自動BETされた賭数である場合には、賭数精算処理を実行せずにクレジット精算処理を実行する。これにより、メダルを払い出すのではなくリプレイゲーム(1ゲーム)を付与するというリプレイの機能そのものを残してリプレイの存在意義を維持する一方、クレジットについてはリプレイ入賞後であっても精算操作に応じて払出可能としたことにより、リプレイ入賞後における遊技者の利便性をさらに向上させることができる。また、ベルリップ入賞後におけるリップフリーズ中に精算操作がされた場合も同様に、クレジット精算が行われるため、遊技者の利便性を向上させることができる。10

【0309】

(3) 前述した実施の形態におけるスロットマシン1によれば、以下の課題を解決することができる。従来のスロットマシンにおいては、一般的に、ストップスイッチ8L、8C、8Rの操作から対応するリール2L、2C、2Rの回転を停止するまでの最大停止遅延時間が、所定時間(たとえば190ms(ミリ秒))に制限されている。このため、操作タイミングに関わらず取りこぼしが発生しない入賞役を設ける場合には、各リールにおいて、所定時間内で引き込み可能な範囲内(本実施の形態では、5コマ以内)に、当該入賞役を構成する図柄を配置する必要がある。その結果、取りこぼしが発生しない入賞役の数が多くなるほど、入賞役各々を構成する専用図柄として数多くの種類を要することとなる。20

【0310】

一方、複数(通常は3つ)のリールに描かれる識別情報としての図柄については、無限に設けることができるものではなく、ある程度の制限が科される。たとえば、3つのリール各々に描かれる図柄の数は、1リールに対して最大21個に制限されており、さらに3つのリールに描かれる図柄の種類は全部で最大10種類に制限されている。

【0311】

このような従来のスロットマシンを背景とした場合、たとえば入賞役について同一の図柄により構成しようとした場合、専用図柄を用意する必要がある。このため、図柄の数や種類の制限範囲内で移行役のための専用図柄を設けることが設計上困難となる虞があった。また、ストップスイッチ8L～8Rの操作手順(押し順、操作タイミングなど)にかかわらずリプレイ入賞し得るように構成する場合においては、所定時間内で引き込み可能な範囲内に当該リプレイを構成する専用図柄を配置する必要があり、専用図柄の数を多くせざるを得なくなり、益々設計が困難になってしまう虞があった。30

【0312】

このような課題を解決するために、前述した実施の形態におけるスロットマシン1においては、リプレイに、外形が同一の図柄のみから構成される「リプレイ-リプレイ-リプレイ」が入賞ラインに停止されることにより発生する通常リップなどの第1のリプレイと、外形が同一または類似とはいえない図柄を含む「リプレイ-白7-スイカA」が入賞ラインに停止されることにより発生するベルリップ1などの第2のリプレイとを含めた。これにより、リプレイのための専用図柄を必ずしも複数設ける必要がなく、図柄の数と種類を増大させてしまうことを回避でき、図柄の数、種類、および配置の制限内で、リプレイの種類(バリエーション)を豊富にすることができます。一方、第2のリプレイ入賞が発生した場合には、外形が同一または類似とはいえない図柄を含む組合せが停止されるため、第1のリプレイ入賞が発生した場合よりもリプレイ入賞の発生に気付かず、メダルを投入してしまう可能性が高まるが、前述したように検出されたメダルに応じてクレジット加算させることができるために、投入したメダルが受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。40

【0313】

(4) 前述した実施の形態における第2のリプレイを構成する図柄には、リプレイとは異なる図柄が含まれる。このため、第2のリプレイ入賞の発生に気付かずにメダルを投入してしまう可能性がより一層高まるが、検出されたメダルに応じてクレジット加算させることができるために、投入したメダルが受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。さらに、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、上段あるいは右下がりの無効ライン上においてベル揃いとなる。このため、遊技者に対して通常ベルが入賞したと思わせることができるために、メダルの投入あるいはMAXBET操作させることができ、当該投入あるいは操作により次のゲームを開始できるようになったかのように思わせることができ、違和感を感じさせないようにすることができる。

10

【0314】

(5) 前述した実施の形態では、図15のS16～S18で示したように、第1のリプレイ入賞が発生した後においてはBETコマンド（BET音あり）が設定されて出力されるため、第1サブ制御部91側によりBET音が出力される一方、第2のリプレイ入賞が発生した後においてはBETコマンド（BET音なし）が設定されて出力されるため、第1サブ制御部91側によりBET音が出力されることがない。これにより、第2のリプレイ入賞が発生して賭数設定が完了していることに気付かずにメダルを投入してしまう可能性がより一層高まるが、検出されたメダルに応じてクレジット加算させることができるために、投入したメダルが受け入れられないなどといった煩わしさを遊技者に感じさせることなく遊技を進行させることができる。

20

【0315】

(6) 前述した実施の形態では、図16のS36～S39で示したように、BET音を出力させない第2のリプレイ入賞が発生して賭数設定が完了していることに気付かずにメダルを投入してクレジット加算された場合でも、賭数の上限数に相当する3回まではBET音と同じ音が出力されるために、遊技者の勘違いでメダルを投入して賭数を設定しているつもりであるにもかかわらずBET音が出力されないことにより、不信感や違和感を抱かせてしまうことを防止することができる。

20

【0316】

(7) 前述した実施の形態では、図5、図6に示されるように、遊技制御基板40と、第1演出制御基板90と、コネクタ410、420とが基板ケース200に収納され、かつ基板ケース200が痕跡を残さずに開封不能となるように封止シールなどにより封止されるため、第1演出制御基板90に搭載された第1サブ制御部91に対して不正な制御情報を受信させることによる不正を行なうことが困難となるうえに、開封されてもその痕跡が残ることで不正がされた可能性を早期に発見することができる。

30

【0317】

(8) 前述した実施の形態では、第2サブ制御部191については、第1演出制御基板90とは別個の出力制御基板（第2演出制御基板190）に搭載されることで、第1演出制御基板90の面積を小さくできるため、基板ケース200を小型化できる。したがって、基板ケース200が大型化することで基板ケースの取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

40

【0318】

(9) 前述した実施の形態では、遊技制御基板40および第1演出制御基板90がコネクタ410、420を介して基板対基板接続された状態で1つの基板ケース200内に収納されるので、基板ケース200内に遊技制御基板40と第1演出制御基板90とを接続するケーブル等を収納する必要がなく、基板ケース200が大型化することで基板ケース200のスロットマシン本体への取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

【0319】

(10) 前述した実施の形態では、メイン制御部41から第1サブ制御部91へ送信されるコマンドがシリアル通信にて送信されるようになっており、コマンドの送信に用いる信号線が少なくて済み、遊技制御基板40と第1演出制御基板90とを接続するための

50

コネクタ410、420を小型化することが可能となり、その結果、基板ケース200が大型化することで基板ケース200の取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

【0320】

(11) 前述した実施の形態では、遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが、互いに並設された状態、すなわち遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが重ならない状態で透明な熱可塑性合成樹脂からなる1つの基板ケース200内に収容されているので、一方の基板によって他方の基板の実装面または裏面が隠れることがなく、基板ケース200内に収容された遊技制御基板40の実装面40aおよび裏面40bと、第1演出制御基板90の実装面90aおよび裏面90bを、基板ケース200の外側から見渡すことが可能となるので、不正行為が行われた可能性を点検作業等において容易に発見することができる。10

【0321】

以上、本発明の実施例を図面により説明してきたが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。本発明は、上記の実施例に限られず、種々の変形、応用が可能である。以下、本発明に適用可能な変形例などについて説明する。また、前述した本実施の形態で説明した技術事項、および、以下の変形例で説明する技術事項のうち少なくとも2つを組み合わせて実施するようにしてもよく、前述した本実施の形態で説明した技術事項を以下の変形例で説明する技術事項に置換して実施するようにしてもよく、当該置換したものに対して、以下の変形例で説明する技術事項をさらに組み合わせて実施するようにしてもよい。20

【0322】

[リプレイ入賞後における投入・精算の許容タイミングについて]

(a) 前述した実施の形態では、図19(c)および(d)で示したように、リプレイ入賞後において投入(クレジット)・精算が許容されるタイミングが、リプレイ入賞による自動BETの完了時である例について説明したが、これに限らず、リプレイ入賞後において投入(クレジット)・精算が許容されるタイミングは、リプレイ入賞による自動BETが開始される(あるいは開始された)ときであってもよい。

【0323】

図25は、リプレイ入賞した後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングの変形例を説明するための図である。図25(a)は、通常リップ入賞が発生している場合には、払出が行われることなくゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S13の処理が行われた後に、自動BETの処理(S14、S15)が開始される。つまり、図15のS10～S13の処理が行われた後は、自動BETの処理(S14、S15)の開始が確定するため、自動BETの処理が開始されるといえる。よって、図25(a)に示すように、自動BETの処理が開始される(あるいは開始された)ときに、メダルの投入あるいは精算を許容するようにしてもよい。30

【0324】

第1の例として、たとえば、S12においてYESと判定されてS13の処理が終了した場合に、S19と同様の処理を行ってクレジットカウンタの値が50であるか否かの判定を行った後に、自動BETの処理(S14、S15と同様の処理)が開始されるようになるとともに、クレジットカウンタの値が50でないと判定された後においては、その後に開始される自動BETの処理の完了を待つことなく、S21と同様の処理を行って以降において投入されたメダルを検出したときにクレジット加算されるとともに、精算スイッチ10への操作を検出したときにクレジット精算されるようにもよい。一方、S19と同様の処理を行ってクレジットカウンタの値が50であると判定された後は、S20以後の処理と同様の処理を行うようにしてもよい。第1の例においてリップフリーズ処理は、たとえば、賭数設定が開始されることになるタイミングで行うようにしてもよい。40

【0325】

第2の例として、たとえば、メダルの投入あるいは精算を行うための割込処理を実行可50

能とし、第1の例におけるクレジットカウンタの値が50でないと判定されたとき、あるいは、クレジットカウンタの値が50でないと判定された後において1回目のS14に相当する処理が実行されてからゲーム開始までの間において、上記割込処理の割込みを許可するようにして、所定期間(2mssec)毎に当該割込処理を実行するようにして、自動BETの処理が開始される(あるいは開始された)ときに、メダルの投入あるいは精算を許容するようにしてもよい。

【0326】

このように構成した場合であっても、リプレイ入賞が発生した後であってリプレイゲームが開始(リール回転開始)されるまでの間に投入されたメダルであっても、当該リプレイ入賞による賭数設定(自動BET)が開始されてから後に検出されたメダルである場合には、当該メダルの検出に応じてクレジット加算させることができる。このため、リプレイ入賞が発生した後におけるクレジット加算が賭数設定の開始よりも先に行われてしまうことを防止できる。その結果、違和感を抱かせることなく、リプレイ入賞が発生した後ににおける遊技者の利便性を向上させることができる。また、メダルを払い出すのではなくリプレイゲーム(1ゲーム)を付与するというリプレイの機能そのものを残してリプレイの存在意義を維持する一方、クレジットについてはリプレイ入賞後であっても精算操作に応じて払出可能したことにより、リプレイ入賞後における遊技者の利便性をさらに向上させることができる。

【0327】

図25(b)は、ベルリップ入賞した後においてメダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングを説明するための図である。ベルリップ入賞が発生している場合には、払出が行われることなくゲームが終了し、その後、図11のS8の処理や、次のゲームのためのS1の処理、図15のS10～S12の処理が行われた後において、図18に示すリップフリーズ処理が実行されて、リップフリーズ解除条件が成立するまでリップフリーズに制御される。この間においては、図18のS87で示したように、流路切替ソレノイド30がon状態にされて、フリーズ解除のためのメダル投入が許可されるとともに、フリーズ解除のためのクレジット精算操作やMAXBET操作も許可される。リップフリーズ解除条件が成立すると、賭数設定が開始されるとともに、図25(b)に示されるようにメダルの投入あるいは精算が許容される。

【0328】

以上のように、通常リップ入賞した場合には、図25(a)で示すように、自動BETの処理が開始される(あるいは開始された)ときに、メダルの投入あるいは精算が許容され、ベルリップ入賞した場合には、図25(b)で示すように、ベルリップフリーズを発生させ、フリーズ解除条件成立後であって、自動BET処理の開始タイミング以降(つまり、自動BET処理の開始タイミング、または当該タイミングより後)に、メダルの投入あるいは精算が許容されるようにしてもよい。この場合、BETされた旨の報知とクレジット加算された旨の報知とが同時に行われることを回避するために、自動BETの処理が開始される(あるいは開始された)ときに、メダルの投入あるいは精算を許容するものの、メダルの投入によりクレジット加算された旨の報知は、必ず、自動BETされた旨の報知がされた後に行うようにしてもよい。また、前述した実施の形態において、リップフリーズを解除させるために投入されたメダルによりクレジット加算された旨の報知についても同様に、必ず、自動BETされた旨の報知がされた後に行うようにしてもよい。

【0329】

なお、リプレイ入賞後において投入(クレジット)が許容されるタイミングをリプレイ入賞による自動BETが開始されたときにした場合であっても、リプレイ入賞後において精算が許容されるタイミングについてはリプレイ入賞による自動BETの完了時となるようにしてもよい。

【0330】

(b) 前述した実施の形態では、図19(c)、(d)、および、図25(a)、(b)で示したように、リプレイ入賞後において投入(クレジット)・精算が許容されるタ

10

20

30

40

50

イミングが、リプレイ入賞による自動B E Tの開始時あるいは完了時である例について説明したが、これに限らず、リプレイ入賞による自動B E Tの開始後あるいは完了後において所定条件が成立したタイミングであってもよい。所定条件は、所定時間経過することにより成立するものや、所定の処理が終了することにより成立するものであってもよい。リプレイ入賞による自動B E Tの完了後において所定条件が所定時間経過することにより成立する例として、たとえば、図15のS17で設定されたB E Tコマンド（B E T音あり）が第1サブ制御部91に出力されて当該コマンドに基づいて3回目のB E T音の出力が完了するまでに要する平均的な時間を時間Aとした場合に、所定条件がS15でY E Sと判定されてから時間Aが経過したときに成立するものであってもよく、また、図15のS18で設定されたB E Tコマンド（B E T音なし）が第1サブ制御部91に出力されて受信されるまでに要する平均的な時間を時間Bとした場合に、所定条件がS15でY E Sと判定されてから時間Bが経過したときに成立するものであってもよい。S15においてY E Sと判定された後、所定条件が成立したときに、S21に移行可能となるようにしてもよい。10

【0331】

(c) 前述した実施の形態では、リプレイの種類として、特定組合せである特定再遊技表示結果として第1のリプレイの通常リップと、非特定組合せである非特定再遊技表示結果として第2のリプレイのベルリップとが設けられている例について説明したが、これに限らず、リプレイの種類としては、非特定再遊技表示結果が設けられておらず特定再遊技表示結果のみが設けられているものであってもよく、これとは逆に、特定再遊技表示結果が設けられておらず非特定再遊技表示結果のみが設けられているものであってもよい。20

【0332】

また、前述した実施の形態では、リプレイの種類にかかわらず、リプレイ入賞後における投入が許容される例について説明したが、これに限らず、リプレイの種類に応じてリプレイ入賞後における投入が許容されるように構成してもよい。たとえば、特定組合せである特定再遊技表示結果としての第1のリプレイ入賞後においては投入が許容されないに対し、非特定組合せである非特定再遊技表示結果としての第2のリプレイ入賞後においてのみ投入が許容されるようにしてもよい。つまり、再遊技表示結果が導出されたことに気付き難いときにのみ投入が許容されるようにして、遊技者に煩わしさを抱かせることなく利便性を向上させるようにしてもよい。30

【0333】

また、前述した実施の形態では、リプレイの種類にかかわらず、リプレイ入賞後における精算が許容される例について説明したが、これに限らず、リプレイの種類に応じてリプレイ入賞後における精算が許容されるように構成してもよい。たとえば、特定組合せである特定再遊技表示結果としての第1のリプレイ入賞後においては精算が許容されないに対し、非特定組合せである非特定再遊技表示結果としての第2のリプレイ入賞後においてのみ精算が許容されるようにしてもよい。つまり、再遊技表示結果が導出されたことに気付き難いときにのみ精算が許容されるようにして、遊技者に煩わしさを抱かせることなく利便性を向上させるようにしてもよい。

【0334】

[基板ケース200について]

(1) 本実施の形態では、図5に示すように、基板ケース200には、第1演出制御基板90が収容される一方、第2演出制御基板190は収容されないとして説明した。しかしながら、基板ケース200に収容される対象物を他のものとしてもよい。図26に、基板ケース200に収容される他の対象物の一例を示す。40

【0335】

図26(a)に示すように、演出内容（遊技者にとっての有利度に影響する演出を含む）を決定するとともに、決定内容に従った演出装置の出力制御も行う演出制御部が搭載された演出制御基板を備え、遊技制御基板40および当該演出制御基板同士が接続された状態で1つの基板ケース200内に収納され、かつ基板ケース200は、痕跡を残さずに開50

封する事が不可能となるように封止される構成としてもよい。このような構成であっても、演出制御部に対して不正なコマンドを受信させること等の不正を行うことが困難となるうえに、開封されてもその痕跡が残ることで不正がされた可能性を早期に発見することができる。

【0336】

また、以下の図26(b)～(d)に示す構成であれば、演出制御基板の面積を小さくできるため、基板ケース200が大型化することで基板ケース200の取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

【0337】

図26(b)に示すように、演出内容(遊技者にとっての有利度に影響する演出を含む)を決定するとともに、決定内容に従った演出装置の出力制御も行う演出制御部が搭載された演出制御基板を備え、遊技制御基板40および当該演出制御基板同士が接続された状態で1つの基板ケース200内に収納される構成であってもよい。この場合には、表示制御に用いる画像データ、音出力制御に用いる音声データ等の演出データが格納された演出データ用ROM192(図4参照)が搭載されたROM基板を演出制御基板とは別個に備え、遊技制御基板40および演出制御基板が接続された状態で1つの基板ケース200内に収納される一方で、当該演出データROM基板が基板ケース200に収納されず、基板ケース200外に設置される構成でもよい。

【0338】

また、図26(c)に示すように、第1サブ制御部91が、演出内容(遊技者にとっての有利度に影響する演出を含む)を決定するとともに、液晶表示器51の表示制御を行う表示制御部が搭載された表示制御基板、音声の出力制御を行なう音制御部が搭載された音制御基板、LEDの発光制御を行なう発光制御部が搭載された発光制御基板を設け、表示制御部、音制御部、発光制御部が、第1サブ制御部91による決定内容に従って出力制御のみを行う構成としてもよい。この場合には、遊技制御基板40および第1演出制御基板90が接続された状態で1つの基板ケース200内に収納される一方で、表示制御基板、音制御基板、発光制御基板が、基板ケース200に収納されず、基板ケース200の外に設置される構成としてもよい。

【0339】

また、図26(d)に示すように、第1サブ制御部91が演出内容(遊技者にとって有利度に影響する演出を含む)を決定するとともに、音声の出力制御、LEDの発光制御を行い、液晶表示器51の表示制御を行なう表示制御部が搭載された表示制御基板を別個に設ける構成としてもよい。この場合には、表示制御部が、第1サブ制御部91による決定内容に従って出力制御のみを行う構成において、遊技制御基板40および演出制御基板が接続された状態で1つの基板ケース200内に収納される一方で、当該表示制御基板が基板ケース200に収納されず、基板ケース200の外に設置される構成としてもよい。

【0340】

(2) また、本実施の形態では、遊技制御基板および第1演出制御基板90が互いに並設された状態、すなわち遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが重ならない状態で1つの基板ケース200内に収納される構成であるが、遊技制御基板40および第1演出制御基板90が接続された状態で、かつ重なった状態で1つの基板ケースに収納され、かつ基板ケース200は、痕跡を残さずに開封する事が不可能となるように封止される構成としてもよい。

【0341】

(3) また、本実施の形態では、遊技制御基板40と第1演出制御基板90とが重ならない状態で1つの基板ケース200内に収納される構成であるが、遊技制御基板40および第1演出制御基板90が接続された状態で、かつ重なった状態で1つの基板ケースに収納される構成でもよい。このような構成では、基板ケース200のサイズをさらに小型化できるため、基板ケース200が大型化することで基板ケース200のスロットマシン本体への取付位置等が制限されてしまうことを防止できる。

10

20

30

40

50

【 0 3 4 2 】

(4) また、本実施の形態では、カバー部材 202 とベース部材 201 との封止を、熱溶着および封印シールにて行っているが、カバー部材 202 が開けられたときには痕跡が残るものであれば、その他の手段を用いてもよく、たとえば、ワンウェイネジや係止ピン等の固着部材や、接着剤等の固着部材を介して固着されるようにしてもよい。

【 0 3 4 3 】

(5) 本実施の形態では、基板ケース 200 は、遊技制御基板 40 の裏面および第 1 演出制御基板 90 の裏面側を被覆可能なベース部材 201 と、該ベース部材 201 の開口を開閉可能であり、遊技制御基板 40 の実装面側を被覆可能なカバー部材 202 と、から構成されていたが、遊技制御基板 40 および第 1 演出制御基板 90 の表裏面を被覆可能に收容するケース体と蓋体とから構成されていてもよく、この場合、ケース体に遊技制御基板 40 および第 1 演出制御基板 90 実装面を透視可能な第 1 の透視部および両者の裏面を透視可能な第 2 の透視部双方が設けられていればよい。

10

【 0 3 4 4 】**[リップフリーズについて]**

前述した実施の形態では、ベルリップ入賞後であって自動 B E T されるまでにおいて、図 18 に示すリップフリーズ処理を実行して、リップフリーズを発生させる例について説明した。しかし、リップフリーズは、ベルリップ入賞ゲーム終了時に発生あるいは発生開始するもの(たとえば、図 11 の S 6 の入賞判定処理においてリップフリーズ処理実行)であってもよい。

20

【 0 3 4 5 】

また、リップフリーズは、ベルリップ入賞後であって自動 B E T された後に発生あるいは発生開始するもの(たとえば、図 15 の S 12 で Y E S と判定された後、まず、S 16 ~ S 18 の処理を行い、次に S 14 ~ S 15 の処理を行った後、リップフリーズ処理実行)であってもよい。この場合、図 25 (c) に示すように、賭数設定が完了した後のリップフリーズ中においては、図 18 の S 8 7 で示したように、流路切替ソレノイド 30 が on 状態にされて、フリーズ解除のためのメダル投入が許可されるとともに、フリーズ解除のためのクレジット精算操作や M A X B E T 操作も許可されるようにし、リップフリーズ解除条件が成立すると、図 15 の S 19 においてクレジット可能であると判定された後において、S 21 以降の処理が実行されることにより、図 25 (c) に示されるようにメダルの投入あるいは精算が許容されるようにしてもよい。また、この場合においても、メダルの投入あるいは精算が許容されるタイミングは、自動 B E T の処理が行われて賭数設定が完了した後に限るものではなく、自動 B E T の処理が開始される(あるいは開始された)ときであってもよい。

30

【 0 3 4 6 】**[フリーズ解除条件について]**

本実施の形態においては、リップフリーズを解除するための条件として、所定時間の経過、M A X B E T 操作、メダル投入(特定センサによる検出)、およびクレジット精算操作が設定されていた。しかしながら、これに限らず、その他の条件であってもよい。

40

【 0 3 4 7 】

たとえば、1 B E T 操作によってフリーズ解除条件が成立するものであってもよい。通常ベルなどの小役が入賞したときに、次のゲームを開始するために遊技者が通常行う操作であれば、当該操作をフリーズ解除条件として設定してもよい。たとえば、通常ベルなどの小役が入賞したときに、必ず点灯することで遊技者に操作を促すボタンがあれば、当該ボタンの操作をフリーズ解除条件として設定してもよい。

【 0 3 4 8 】

また、リップフリーズを、所定時間の経過、M A X B E T 操作、メダル投入、およびクレジット精算操作のうち、いずれか一つのみで解除するものであってもよい。たとえば、メダル投入のみによりフリーズ解除条件が成立するものであってもよい。また、これらの複数の条件の全てが成立したとき、もしくはこれら複数の条件のうち任意の 2 以上の条件が

50

成立したときにリップフリーズが解除されるものであってもよい。また、所定時間の経過でリップフリーズが解除されることは設定されていなくてもよい。

【0349】

また、本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、遊技者にMAXBET操作や、メダル投入、クレジット精算操作を促す方法として、リップフリーズを実行するものであった。しかしながら、フリーズに限らず、たとえば、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、通常ベルに入賞したときと同じように、液晶表示器51にMAXBET操作やメダル投入、クレジット精算操作を促す画像を表示してもよいし、スピーカ53、54からMAXBET操作やメダル投入、クレジット精算操作を促す音声を出力するものであってもよい。

10

【0350】

また、メダル投入によるフリーズ解除条件が成立したか否かについては、通常時において投入されたメダルを検出するための投入メダルセンサ31が備える複数のセンサのうち特定センサの検出結果（適正な検出結果と異なる検出結果）に基づき判定され、これら複数のセンサすべてが流路切替ソレノイド30より下流側に設けられている例について説明したが、これに限らず、複数のセンサのうち特定センサについては流路切替ソレノイド30よりメダル投入部4側（上流側）に設けてもよい。

【0351】

また、メダル投入によるフリーズ解除条件が成立したか否かについては、投入メダルセンサ31が備える複数のセンタすべての検出結果（適正な検出結果となるか否か）に基づき判定されるものであってもよい。また、メダル投入によるフリーズ解除条件が成立したか否かについては、賭数設定やクレジット加算の判定に用いる投入メダルセンサ31とは異なるセンサ（投入メダルフラグの設定に関与しないセンサ（以下では特別センサともいう））を投入メダル検出可能位置に設けて、当該特別センサの検出結果に基づき判定されるようにしてよい。たとえば、特別センサとして、流路切替ソレノイド30より下流側にメダルを検知するフリーズ解除用センサAを設け、通常時においては、フリーズ解除用センサAの検出結果のみによってはメダル投入が検出されない一方、リップフリーズ中においては、フリーズ解除用センサAの検出結果に基づきメダル投入によりフリーズ解除条件が成立したことが検出されるようにしてよい。また、特別センサとして、流路切替ソレノイド30よりメダル投入部4側（上流側）にメダルを検知するフリーズ解除用センサAを備え、通常時においては、フリーズ解除用センサAの検出結果のみによってはメダル投入が検出されない一方、リップフリーズ中においては、フリーズ解除用センサAの検出結果に基づきメダル投入によりフリーズ解除条件が成立したことが検出されるようにしてよい。この場合には、クレジットカウンタの値が50となっているときに発生したリップフリーズ中においても、メダル投入によりフリーズ解除条件を成立させ得るように構成することができる。

20

【0352】

[リプレイの図柄組合せについて]

(a) 前述した実施の形態では、第1のリプレイの図柄組合せが、同一の図柄（「リプレイ」）のみから構成される例について説明したが、これに限らず、一の図柄と、当該一の図柄と外形が類似する図柄とから構成されるように構成してもよい。外形が類似の図柄とは、外形が共通しているために、需要者である遊技者の視覚を通じて起こさせる美感（印象）が共通する図柄をいい、その結果、観念的に同じ図柄であると認識できる（異なる図柄であると認識し難い）図柄をいう。たとえば、一の図柄が「REPLAY」という文字が楕円で囲まれた形状の図柄である場合に、「REPLAY」という文字に下線が引かれておりそれらが楕円で囲まれた形状の図柄が一の図柄と形状が類似の図柄であるといえる。

30

【0353】

また、前述した実施の形態では、第2のリプレイの図柄組合せが、第1のリプレイの図柄と同一の図柄（「リプレイ」）と、当該図柄とは外形が同一でも類似でも異なる図

50

柄（「スイカA」など）とから構成される例について説明したが、これに限らず、第1のリプレイの図柄と類似の図柄を含むものであってもよく、また、第1のリプレイの図柄と同一でも類似でもない異なる図柄のみから構成されるものであってもよい。この場合における、異なる図柄は、リプレイ以外の入賞の図柄組合せのいずれにも含まれていない図柄（たとえば、スターマークが付された図柄）であってもよく、リプレイ以外の入賞の図柄組合せに含まれている図柄（たとえば、ビッグボーナスを構成する図柄（「白7」）など）であってもよく、また、リプレイ以外の入賞の図柄組合せに含まれている図柄（たとえば、「ベル」に限らず、たとえば「スイカA」など）が無効ライン上に停止される図柄であってもよい。

【0354】

10

[通常ベルとベルリップ1～5との関係について]

本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、入賞ラインL1上に入賞したベルリップ1～5のいずれかに対応する図柄組み合わせが表示されるとともに、左リール2Lの上段、中リール2Cの上段、右リール2Rの上段に跨った位置、もしくは左リール2Lの上段、中リール2Cの中段、右リール2Rの下段に跨った位置に通常ベルの図柄組み合わせである「ベル-ベル-ベル」が表示されるものであった。しかしながら、その他の役や図柄組み合わせ、表示位置であってもよい。

【0355】

20

たとえば、通常ベルに限らず、チェリーやスイカなどその他の小役であってもよい。また、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、その他の位置に表示される図柄組み合わせは、通常ベルのように「ベル」図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果に限らず、スイカ1～8のように「スイカ」図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果、チェリー1～3のように「チェリー」図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果、あるいは「チェリー」図柄とその他の図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果、あるいは複数のリールのうちいずれかのリールの一部に「チェリー」図柄が導出される表示結果であってもよい。つまり、他の一般的なスロットマシンで小役として用いられていることで遊技者が経験則から小役であると認識しがちな、「ベル」図柄揃い、「スイカ」図柄揃い、「チェリー」図柄揃い、あるいは「チェリー」図柄とその他の図柄からなるものであってもよい。

【0356】

30

また、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、その他の位置に表示される図柄組み合わせは、通常ベルのように「ベル」図柄を想定させるような黄色の図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果に限らず、スイカ1～8のように「スイカ」図柄を想定させるような緑色の図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果、チェリー1～3のように「チェリー」図柄を想定させるような赤色の図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果、あるいは「チェリー」図柄を想定させるような赤色の図柄とその他の図柄が一直線上に並んだ構成を有する表示結果」、あるいは複数のリールのうちいずれかのリールの一部に「チェリー」図柄を想定させるような赤色の図柄が導出される表示結果であってもよい。つまり、他の一般的なスロットマシンで小役として用いられていることで遊技者が経験則から小役であると認識しがちな、黄色の図柄揃い、緑色の図柄揃い、赤色の図柄揃い、あるいは赤色の図柄とその他の図柄からなるものであってもよい。

40

【0357】

さらに、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、その他の位置に表示される図柄組み合わせは、通常ベルのような小役の図柄組み合わせに限らず、遊技者に小役と認識させる図柄組み合わせであればよい。言い換えると、遊技者に再遊技役やハズレの図柄組み合わせが導出されたと認識させる図柄組み合わせ以外の図柄組み合わせであればよい。遊技者に再遊技役が導出されたと認識させる図柄組み合わせとしては、「再」、「再遊技」、「再遊戯」、「リプレイ」、「リップ」、「りぷ」、「りぶれい」、「R」、「R E」、「R E P」、「R P」、および「R E P L A Y」のうちいずれかの文字が付された図柄から構成される図柄組み合わせがある。また、所定の果物（たとえば、ベル、スイカ、チエ

50

リー)の図柄から構成される図柄組み合わせが小役であるものとすれば、遊技者に再遊技役が導出されたと認識させる図柄組み合わせとしては、所定の果物(たとえば、ベル、スイカ、チェリー)以外の果物の図柄から構成される図柄組み合わせがある。また、小役が導出されたときに払い出し音が鳴るものであれば、導出されたときに、その払い出し音が鳴る図柄組み合わせは、遊技者に小役と認識させる図柄組み合わせとなる。

【0358】

また、本実施の形態においては、「通常ベル」が入賞することでメダルの払い出しがあるが、「通常ベル」が入賞してもメダルが払い出されないものであってもよい。たとえば、「通常ベル」が入賞することで、次のゲームがメダルを消費することなく行えるものであってもよい。この場合でも、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、他の位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出されることで、遊技者は他の一般的なスロットマシンで小役として認識しているために、メダルが払い出されるものだと認識させることができる。10

【0359】

さらに、たとえば、「通常ベル」は入賞しないハズレ図柄の組み合わせであってもよい。この場合でも、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに、他の位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出されることで、遊技者は他の一般的なスロットマシンで小役として認識しているために、メダルが払い出されるものだと認識させることができる。

【0360】

なお、「通常ベル」の図柄組み合わせにおいて、スロットマシン固有の図柄、たとえば、ロゴや小役によく用いられる色(黄色、緑色、赤色)以外の色の図柄を用いる場合には、他の一般的なスロットマシンで小役として認識されていないため、入賞によってメダルの払い出しが行われるものである必要がある。20

【0361】

また、左リール2Lの中段、中リール2Cの中段、右リール2Rの中段を結ぶ入賞ラインL1に限らず、左リール2Lの上段、中リール2Cの上段、右リール2Rの上段を結ぶ入賞ラインL2、左リール2Lの上段、中リール2Cの中段、右リール2Rの下段を結ぶ入賞ラインL3、左リール2Lの下段、中リール2Cの中段、右リール2Rの上段を結ぶ入賞ラインL4、左リール2Lの下段、中リール2Cの下段、右リール2Rの下段を結ぶ入賞ラインL5などを用いてもよい。さらに、1本の入賞ラインに限らず、複数本の入賞ラインが設定されているものであってもよい。上記のような入賞ラインを設定するものであっても、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、入賞ライン上に入賞したベルリップ1～5のいずれかに対応する図柄組み合わせが表示されるとともに、入賞ライン以外のラインに通常ベルの図柄組み合わせが表示されるものであればよい。30

【0362】

また、本実施の形態においては、入賞が発生する位置にベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したときに、入賞が発生しない位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出するパターンを用いていたが、これに限らない。たとえば、入賞が発生する位置にベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したときに、入賞が発生する位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出するパターンであってもよい。また、たとえば、入賞が発生しない位置にベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したときに、入賞が発生する位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出するパターンであってもよい。また、たとえば、入賞が発生しない位置にベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したときに、入賞が発生しない位置に通常ベルの図柄組み合わせが導出するパターンであってもよい。40

【0363】

また、本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したことによってベルリップ1～5のいずれかが入賞し、かつその他の位置に導出された通常ベルの図柄組み合わせによっては入賞しないパターンを用いていたが、これに限らない。たとえば、ベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したことによってはベルリ50

プ1～5が入賞せず、かつその他の位置に導出された通常ベルの図柄組み合わせによっては入賞するパターンであってもよい。また、たとえば、ベルリップ1～5のいずれかの図柄組み合わせが導出したことによってはベルリップ1～5が入賞せず、かつその他の位置に導出された通常ベルの図柄組み合わせによっても入賞しないパターンであってもよい。

【0364】

[精算処理について]

前述した実施の形態では、精算処理に関して、メダル投入あるいは1枚BETスイッチ5かMAXBETスイッチ6が操作されることにより賭数が設定されている状態において、精算スイッチ10が操作されると、図16のS56でNOと判定されてS57において賭数精算処理を行い、その後、再び精算スイッチ10が操作されると、図16のS56でYESと判定されてS59においてクレジット精算処理を行う例、つまり最初の精算操作で賭数精算を行い、次の精算操作でクレジット精算を行う例について説明した。しかし、精算処理は、このようなパターンで行うものに限らず、以下のようなパターンで行うものであってもよい。

10

【0365】

パターンa：最初の精算操作でクレジット精算を行い、次の精算操作で賭数精算を行うものであってもよい。たとえば、S56においてクレジットカウンタの値が0であるか否かを判定し、クレジットカウンタの値が0でないと判定されたときにS59に進んでクレジット精算を行い、クレジットカウンタの値が0であると判定されたときにS57に進んで賭数精算を行うようにしてもよい。

20

【0366】

パターンb：最初の精算操作で賭数分をクレジット加算することにより賭数精算を行い、次の精算操作でクレジット精算を行うものであってもよい。たとえば、設定されている賭数が3でクレジットが40である場合、最初の精算操作で賭数分の3をクレジット加算してクレジットを43とすることにより賭数精算を行い、次の精算操作で43枚メダルを払出すことによりクレジット精算を行うものであってもよい。この場合において、最初の精算操作による賭数精算が行われることにより、クレジットカウンタの値が50を超える場合も考えられる。この場合には、クレジットカウンタの値が50を超えた値に設定されるようにしてもよく、50を超えた分のメダルに関して賭数精算時に払出すようにしてもよい。

30

【0367】

パターンc：1回の精算操作で、まず賭数精算を行い、その後に引き続いてクレジット精算を行うものであってもよい。たとえば、S56でNOと判定されたときには、賭数精算を行った後に引き続いてクレジット精算を行い、S56でYESと判定されたときには、クレジット精算を行うようにしてもよい。

【0368】

パターンd：1回の精算操作で、まずクレジット精算を行い、その後に引き続いて賭数精算を行うものであってもよい。たとえば、S56においてクレジットカウンタの値が0であるか否かを判定し、クレジットカウンタの値が0でないと判定されたときにはクレジット精算を行った後に引き続いて賭数精算を行い、クレジットカウンタの値が0であると判定されたときには賭数精算を行うようにしてもよい。

40

【0369】

パターンe：1回の精算操作で、まず賭数分をクレジット加算することにより賭数精算を行い、その後に引き続いてクレジット精算を行うものであってもよい。たとえば、設定されている賭数が3でクレジットが40である場合に精算操作が行われることにより、賭数分の3をクレジット加算してクレジットを43とすることにより賭数精算を行い、その後に引き続いて43枚メダルを払出すことによりクレジット精算を行うものであってもよい。この場合において、精算操作による賭数精算が行われることにより、クレジットカウンタの値が50を超える場合も考えられる。この場合には、クレジットカウンタの値が50を超えた値に設定されるようにしてもよく、50を超えた分のメダルに関して賭

50

数精算時に払出すようにしてもよい。

【0370】

[B E T 音について]

(a) 前述した実施の形態では、第1のリプレイ入賞後において自動B E TされたときにはB E T音を出力させ、第2のリプレイ入賞後において自動B E TされたときにはB E T音を出力させない例について説明した。しかし、入賞したリプレイの種類にかかわらず、自動B E TされたときにはB E T音を出力させないようにしてよく、逆に自動B E TされたときにはB E T音を出力させるようにしてよい。

【0371】

また、前述した実施の形態では、B E T音の有無について、B E Tコマンドの種類によって判別する例について説明したが、これに限らず、入賞判定コマンドにより入賞しているリプレイの種類を判別することにより、B E T音の有無を判別するようにしてよい。

10

【0372】

また、前述した実施の形態では、入賞したリプレイの種類にかかわらず、B E Tカウンタの値が加算された後に、B E Tカウンタの値に応じて、1 B E T L E D 1 4、2 B E T L E D 1 5、3 B E T L E D 1 6を順番に点灯させる処理を行う例について説明したが、これに限らず、第1のリプレイ入賞後において自動B E Tされた後においてのみ1 B E T L E D 1 4、2 B E T L E D 1 5、3 B E T L E D 1 6を順番に点灯させる処理を行い、第2のリプレイ入賞後において自動B E Tされた後においては当該処理を行わないようにしてよい。

20

【0373】

(b) 前述した実施の形態では、第2のリプレイ入賞後においてメダルが投入された際に、S 3 9においてクレジットコマンド(B E T音あり)が出力されて、B E T音を出力させる例について説明したが、これに限らず、入賞したリプレイの種類にかかわらずB E T音を出力させるようにしてよい。たとえば、S 3 6では、リプレイ入賞であったか否かを判定するようにしてよい。

【0374】

(c) 前述した実施の形態では、リプレイ入賞後においてクレジット加算された場合に、規定数分までB E T音を出力させる例について説明したが、クレジット加算された場合に限らず、たとえば、1枚B E Tスイッチ5やMAXB E Tスイッチ6が操作された場合にも、操作に応じて規定数分までB E T音を出力させるようにしてよい。

30

【0375】

(d) 前述の実施の形態では、S 3 4において、B E T音ありのB E Tコマンドを設定し、S 3 9において、B E T音ありのクレジットコマンドを設定して、更新された賭数に相当する回数分、B E T音を出力するとして説明した。しかしながらB E T音の出力に限られず、他の態様で更新された賭数を報知するようにしてよい。たとえば、演出効果L E D、リールL E D 5 5、演出用停止L E D 5 7 a、5 7 bのうち少なくとも1つを発光させるようにしてよいし、液晶表示器5 1に所定の画像を表示させるようにしてよい。また、賭数に応じた報知ではなく、賭数を特定できる報知であればよい。たとえば、賭数が「3」であれば、液晶表示器5 1に「3」を表示する構成や、「3」という音声を出力する構成であってよい。

40

【0376】

[外形が同一および / または類似の識別情報について]

一の識別情報と外形が同じで全体の色や模様が異なる点で相違する他の識別情報は、一の識別情報と外形が同一の識別情報といえる。また、一の識別情報と外形が同じで一部の色や模様が異なる点で相違する他の識別情報は、一の識別情報と外形が同一の識別情報といえる。また、一の識別情報と大きさのみが異なる点で相違する他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報と外形が同一の識別情報が複数からなる点で相違する他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報にキャラクタが付加されている点で相違する他の識別情報は、一

50

の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報と向きが異なる点で相違するものの一の識別情報と観念的に同じものを想起させる他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報の一部が欠けている点で相違するが全体としての外形が同じになる他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報の一部が隆起している点で相違するが全体としての外形が同じになる他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報と観念的に同じものを想起させる他の識別情報は、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。また、一の識別情報と上記した相違点が複数の点で相違する識別情報であっても、一の識別情報と観念的に同じ識別情報であると認識できる識別情報であれば、一の識別情報と外形が類似の識別情報といえる。一方、一の識別情報と外形が同一の識別情報や一の識別情報と外形が類似の識別情報以外の他の識別情報は、一の識別情報と外形が非類似の識別情報といえる。

【0377】

[ナビストック抽選について]

本実施の形態においては、ATフリーズが実行されることで、ナビストック抽選においてナビストック数が付与される確率および付与される場合のナビストック数が多くなる確率が高くなり、遊技者の有利度合いを向上させるものであった。しかしながら、遊技者の有利度合いを向上させる方法としては、その他の方法でもよい。

【0378】

たとえば、ATフリーズが実行されることで、ナビストック抽選を行うことなく、必ずナビストックが付与されるものであってもよい。また、ATフリーズが実行されることで、ナビストック抽選の実行契機となるAT抽選役の種類が所定ゲーム数の間だけ増えるものであってもよい。ATフリーズが実行されたときには、ATフリーズが実行されなかつたときよりも、遊技者の有利度合いが向上するものであれば、いずれの方法を用いてもよい。

【0379】

[判定用ナビ演出について]

本実施の形態では、判定用ナビ演出が行われるための判定用役として、通常リプや押し順リプを用いるものであったが、これに限らず、その他の役であってもよい。また、本実施の形態では、メイン制御部41は、所定の判定用ナビ演出を第1サブ制御部91にさせることによって、AT中であるか否かを特定していたが、その他の演出状態を特定するものであってもよい。たとえば、メイン制御部41は、第1サブ制御部91側における、ナビストック抽選での抽選モード（高確率モード、低確率モード）などの有利な遊技状態に関する抽選確率、獲得されたナビストック数やナビストックの有無などの有利な遊技状態へ移行させるための権利に関するもの、有利な遊技状態のゲーム数や継続率、プレミア演出や設定示唆演出の実行されやすさ、演出種類、遊技者に携帯端末の壁紙や音楽を付与するための二次元コードの表示の有無、携帯端末の壁紙や音楽の付与の有無など、本実施の形態と異なる態様の演出制御状態を特定するものであってもよい。さらには、メイン制御部41が、第1サブ制御部91の制御する有利度以外の制御状態、たとえば、第1サブ制御部91側が判定した異常、不正行為の可能性、時間などをメイン制御部41が特定するものであってもよい。

【0380】

[その他の変形例について]

(1) 前述した実施の形態では、1ゲームが開始可能となる賭数と、遊技状態に応じて定められた賭数の上限数とが同じ数となる例について説明したが、これに限らず、1ゲームが開始可能となる賭数は、遊技状態に応じて定められた賭数の上限数よりも小さい数となるように定められているものであってもよい。たとえば、1ゲームが開始可能となる賭数は「1」に定められており、遊技状態に応じて定められた賭数の上限数としては「3」が定められているものであってもよい。この場合、S15およびS37の規定数はリプレイ入賞した前回ゲームの賭数か、リプレイ入賞により賭数が設定されるゲーム（当該ゲ

10

20

30

40

50

ームが行われる遊技状態)において定められている上限数が相当し、S33、S66、S76の規定数は上限数が相当し、S47の規定数は1ゲームが開始可能となる賭数が相当する。

【0381】

(2) 前述した実施の形態では、3つのリール2L、2C、2Rを有する可変表示装置を備え、全てのリールが停止した時点で1ゲームが終了し、3つのリールに導出された表示結果の組合せに応じて入賞が発生するスロットマシンについて説明した。すなわち、各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な複数の可変表示領域のそれぞれに表示結果を導出させることができ可能な可変表示装置を備え、遊技用価値を用いて1ゲームに対して所定数の賭数を設定することによりゲームが開始可能となるとともに、前記複数の可変表示領域のすべてに前記表示結果が導出されることにより1ゲームが終了し、1ゲームの結果として前記複数の可変表示領域のそれぞれに導出された前記表示結果の組合せに応じて入賞が発生可能とされたスロットマシンについて説明した。しかし、各々が識別可能な複数種類の識別情報を変動表示可能な可変表示装置に表示結果が導出されることにより1ゲームが終了し、該可変表示装置に導出された表示結果に応じて入賞が発生可能とされたスロットマシンであれば、3つのリールを有する可変表示装置を備えるものに限らず、1のリールしか有しないものや、3以外の複数のリールを有する可変表示装置を備えるスロットマシンであってもよい。10

【0382】

(3) 前述した実施の形態では、メダル並びにクレジットを用いて賭数を設定するスロットマシンを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、遊技用価値として遊技球を用いて賭数を設定するスロットマシンや、遊技用価値としてクレジットのみを使用して賭数を設定する完全クレジット式のスロットマシンであってもよい。遊技球を遊技用価値として用いる場合には、たとえば、メダル1枚分を遊技球5個分に対応させることができ、上記実施の形態で賭数として3を設定する場合は15個の遊技球を用いて賭数を設定するものに相当する。20

【0383】

さらに、メダルおよび遊技球などの複数種類の遊技用価値のうちいずれか1種類のみを用いるものに限定されるものではなく、たとえば、メダルおよび遊技球などの複数種類の遊技用価値を併用できるものであってもよい。すなわち、メダルおよび遊技球などの複数種類の遊技用価値のいずれを用いても賭数を設定してゲームを行うことが可能であり、かつ入賞によってメダルおよび遊技球などの複数種類の遊技用価値のいずれをも払い出し得るスロットマシンであってもよい。30

【0384】

本実施の形態として、入賞の発生に応じて遊技媒体を遊技者の手元に払い出すスロットマシンを説明したが、遊技媒体が封入され、入賞の発生に応じて遊技媒体を遊技者の手元に払い出すことなく遊技点(得点)を加算する封入式のスロットマシンを採用してもよい。基盤とドラムとが流通可能で、筐体が共通なもので基盤のみあるいは基盤とドラムとを遊技機と称する。

【0385】

(4) 本実施の形態においては、1つの遊技状態のみが設定されていたが、これに限らず、役の当選や入賞などに応じて複数の遊技状態の間を遷移するようなスロットマシンであってもよい。前述した実施の形態では遊技者にとって有利な状態として当選状況に応じた情報が報知されるナビ演出を実行するアシストタイム(AT)に制御する例について説明したが、遊技者にとって有利な状態としては、これに限らず、リプレイの当選確率が高くなるリプレイタイム(RT)や、いわゆるボーナス(BB(ビッグボーナス)やRB(レギュラーボーナス)、もしくはCB(チャンスボーナス)などの特別遊技状態。CBについては、複数の遊技状態(たとえば、RT1、RT2など)のいずれかに制御されたときに、制御中の遊技状態を変化させずにCBが実行される、貫通型のCBであってもよい。)に制御するものであってもよい。4050

【0386】

また、複数の遊技状態の間を遷移するようなスロットマシンであれば、特定の再遊技役に入賞したときに制御中の遊技状態から有利度合いの異なる遊技状態に制御されるものであってもよい。たとえば、通常R Tにおいてベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、通常R Tよりも再遊技役の当選確率が向上する有利R Tに移行（昇格）するものであってもよい。あるいは、有利R Tにおいてベルリップ1～5のいずれかに入賞したときには、通常R Tに移行（転落）するものであってもよい。これによれば、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したことを遊技者に分かりにくくすることで、いずれの遊技状態で遊技をしているかを把握しにくくすることができ、遊技者の遊技状態に対する興味を惹きつけ、遊技の興味を向上させることができる。さらに、本実施の形態においては、ベルリップ1～5のいずれかに入賞したときに通常ベルが入賞したかのように遊技者に思わせることができると10ため、いずれの遊技状態で遊技をしているかをより把握しにくくすることができる。

【0387】

(5) ナビストック数が残存している状態で遊技者にとって有利なボーナスに当選したときにおける当該ナビストック数について、クリア（たとえば「0」）する処理を行うものであってもよく、当該ボーナス終了後まで持ち越す処理を行うものであってもよく、所定数減算する処理を行うものであってもよく、所定数上乗せ加算する処理を行うものであってもよく、また当該ボーナス当選ごとにいずれの処理を行うかを決定し、該決定された処理を行うものであってもよい。これにより、ナビストック数が残存している状態においてボーナス当選したときのバリエーションが増加し、遊技の興味を向上させることができる。>20

【0388】

(6) 本実施の形態では、複数のナビストックが付与されたときに再度のA Tに移行する権利が付与されるようにした例を挙げたが、この実施の形態に限らず、たとえば、A T中の所定条件の成立で再度のA Tに移行する権利が付与される、A Tの終了時の抽選に当選すると再度のA Tに移行する権利が付与されるなど、上記実施例と異なる様で再度の有利状態に制御するスロットマシンに上記の実施例で示した構成を適用して、本発明を実現することが可能である。なお、再度のA Tに移行する権利が付与されている場合には一旦終了させずにA Tを連続的に継続してもよいし、セットの区切りで一旦A Tを終了させてもよい。>30

【0389】

(7) 本実施の形態では、1セットのA Tを抽選で決定したゲーム数を消化したときに終了する例を挙げたが、この実施の形態に限らず、たとえば、固定された所定ゲーム数のゲームを行うと1セットのA Tが終了する、A T中に所定役に当選または所定役が入賞すると1セットのA Tが終了する、A T中に実行する抽選に当選すると1セットのA Tが終了するなど、上記実施例と異なる様で有利状態の終了条件が成立するスロットマシンに上記の実施例で示した構成を適用して、本発明を実現することが可能である。

【0390】

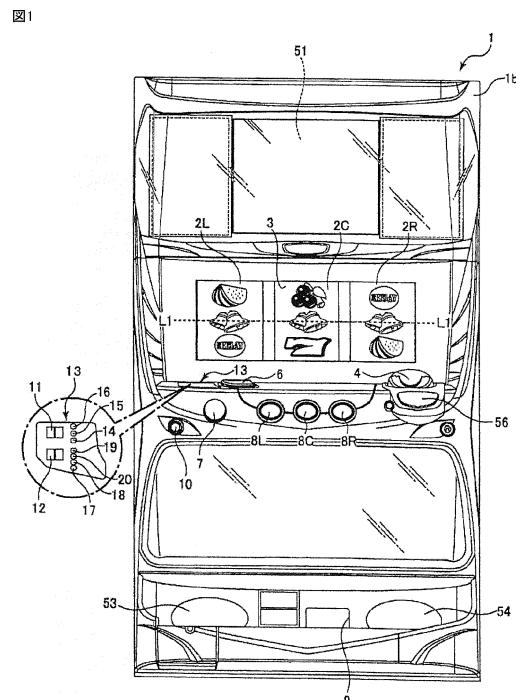
(8) なお、今回開示された実施の形態は全ての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内での全ての変更が含まれることが意図される。>40

【符号の説明】

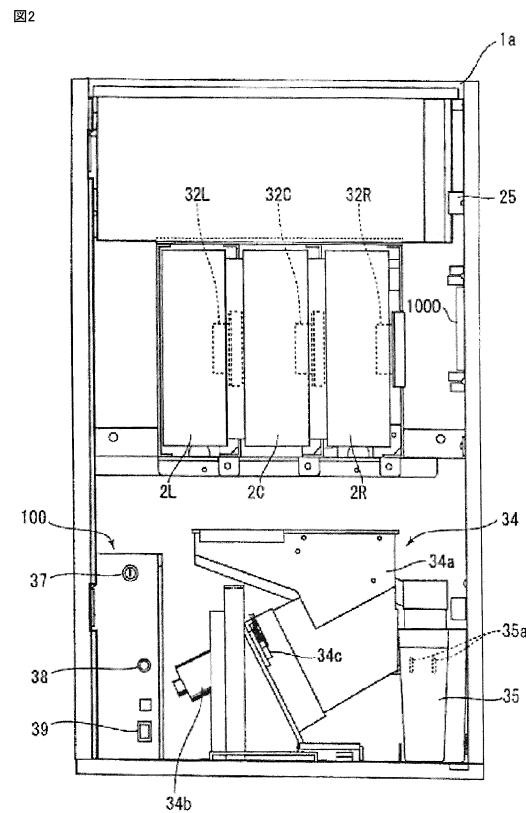
【0391】

1 スロットマシン、2 L、2 C、2 R リール、6 MAX BETスイッチ、7 スタートスイッチ、8 L、8 C、8 R ストップスイッチ、41 メイン制御部、51 液晶表示器、91 サブ制御部、140 ホールコンピュータ、200 呼び出しランプ装置、1000 外部出力基板。

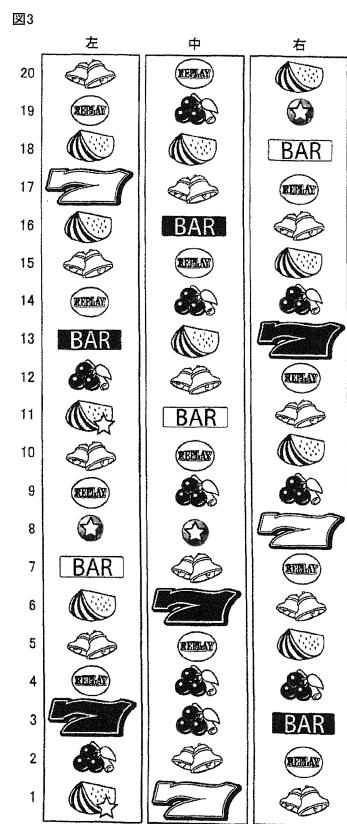
【図1】



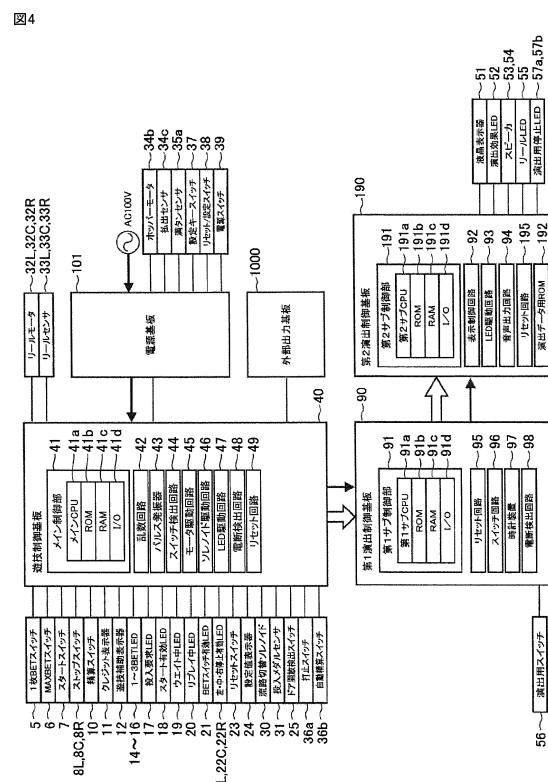
【図2】



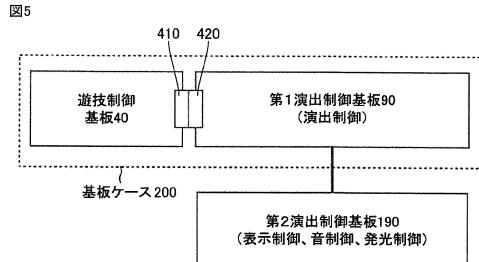
【図3】



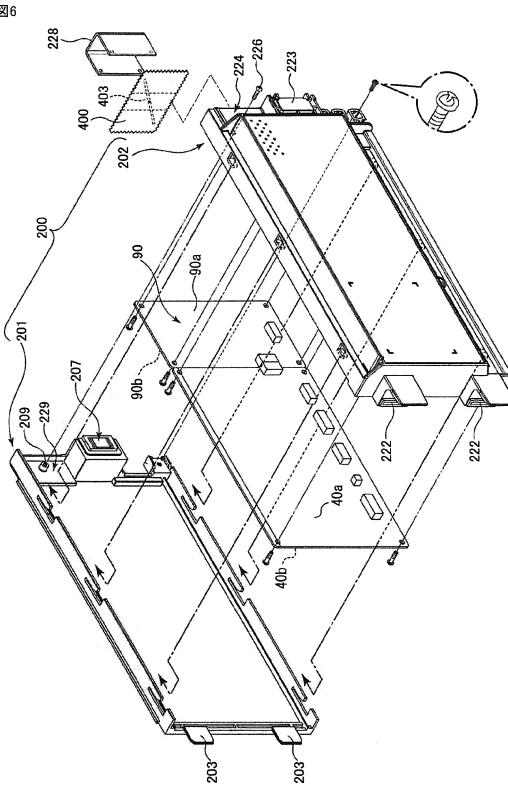
【図4】



【図5】



【 义 6 】



【図7】

名 称	固柄の組合せ			払出枚数	備考
	左	中	右		
通常ベル	ベル	ベル	ベル	8枚	
左スイカ1枚1	スイカB	ベル	リプレイ	1枚	
左スイカ1枚2	スイカB	ベル	チエリー	1枚	
左スイカ1枚3	スイカB	ベル	リプレイ	1枚	
左スイカ1枚4	スイカB	ベル	チエリー	1枚	
左スイカ1枚5	スイカB	リプレイ	ベル	1枚	
左スイカ1枚6	スイカB	スイカA	ベル	1枚	
左スイカ1枚7	スイカB	リプレイ	ベル	1枚	
左スイカ1枚8	スイカB	スイカA	ベル	1枚	
左リプ1枚1	リプレイ	白7	白7	1枚	
左リプ1枚2	リプレイ	白7	黒7	1枚	
左リプ1枚3	リプレイ	白7	黒BAR	1枚	
左リプ1枚4	リプレイ	白7	白BAR	1枚	
左リプ1枚5	リプレイ	黒7	白7	1枚	
左リプ1枚6	リプレイ	黒7	黒7	1枚	
左リプ1枚7	リプレイ	黒7	黒BAR	1枚	
左リプ1枚8	リプレイ	黒7	白BAR	1枚	
左リプ1枚9	リプレイ	黒BAR	白7	1枚	
左リプ1枚10	リプレイ	黒BAR	黒7	1枚	
左リプ1枚11	リプレイ	黒BAR	黒BAR	1枚	
左リプ1枚12	リプレイ	黒BAR	白BAR	1枚	
左リプ1枚13	リプレイ	白BAR	白7	1枚	
左リプ1枚14	リプレイ	白BAR	黒7	1枚	
左リプ1枚15	リプレイ	白BAR	黒BAR	1枚	
左リプ1枚16	リプレイ	白BAR	白BAR	1枚	
チエリー1	黒7	ANY	ANY	1枚	
チエリー2	黒BAR	ANY	ANY	1枚	下段チエリーー(跳チエリーー)
チエリー3	スイカB	チエリー	ANY	1枚	
スイカ1	スイカB	スイカA	スイカA	5枚	上段チエリーー(中チエリーー)
スイカ2	ベル	スイカA	ベル	5枚	
スイカ3	白7	スイカA	チエリー	5枚	
スイカ4	白7	スイカA	ブランク	5枚	
スイカ5	白BAR	スイカA	チエリー	5枚	
スイカ6	白BAR	スイカA	ブランク	5枚	
スイカ7	チエリー	スイカA	チエリー	5枚	
スイカ8	チエリー	スイカA	ブランク	5枚	
チャンス1	白BAR	白BAR	ベル	1枚	
チャンス2	白BAR	黒BAR	ベル	1枚	
1枚1	リプレイ	白BAR	リプレイ	1枚	
1枚2	ベル	黒7	ベル	1枚	
1枚3	スイカA	チエリー	ANY	1枚	

【四 8】

名稱	図柄の組合せ			作動	備考
	左	中	右		
通常リップ	リブレイ	リブレイ	リブレイ		
ベルリップ1	リブレイ	白7	スカA		
ベルリップ2	リブレイ	黒7	スカA		見た目上段ベル横い
ベルリップ3	リブレイ	黒B AR	スカA		
ベルリップ4	リブレイ	白BAR	スカA		
ベルリップ5	リブレイ	白BAR	スカA		
ベルリップ6	リブレイ	ベル	リブレイ		
7前リップ	白7	白7	白7		
フロエイクリップ1	ベル	白7	白7		
フロエイクリップ2	ベル	黒7	白7		
フロエイクリップ3	ベル	黒BAR	白7		
フロエイクリップ4	ベル	白BAR	白7		
フロエイクリップ5	タガ	タガ	タガ		

【 四 9 】

9

【図10】

图 10

抽選が実行 される名前	入賞対象の組合せ	判定直後	リール削除
通常リップ	通常リップ	8718	
押ししりップ1	通常リップ+ベルリップ1+ベルリップ2 +ベルリップ3+ベルリップ4	8714	-在第1停止 →ベルリップ1~4のいずれか入賞 -中第1停止または右回り停止 →通常リップ入賞
押ししりップ2	通常リップ+ベルリップ5	8714	-在第1停止 →通常リップ入賞 -中第1停止または右回り停止 →通常リップ入賞
フ娘リップ	7構ないリップ	30	
フェイクリップ1	7フェイクリップ1+7フェイクリップ2 +7フェイクリップ3+7フェイクリップ4	52	
フェイクリップ2	7フェイクリップ5	52	

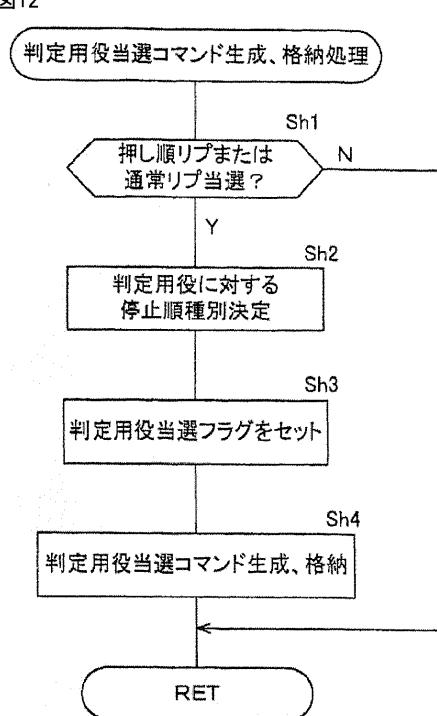
【 図 1 1 】

四 11



【图12】

13



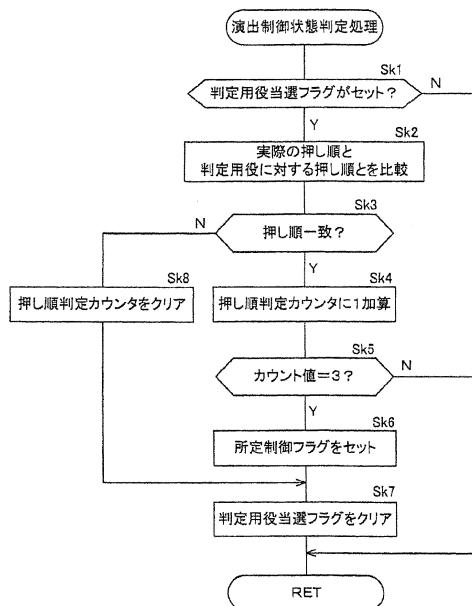
【図13】

図13

判定段段	停止原種別	判定用ナビ演出(サブ)	実際の押し順	AT判定(メイン)
押し原リプ1 押し原リプ2	0	中左右	中左押し 中左押し以外	制御 非制御
	1	中右左	中右押し 中右押し以外	制御 非制御
	2	右左中	逆抹み押し 逆抹み押し以外	制御 非制御
	3	右中左	逆押し 逆押し以外	制御 非制御
通常リプ	0	中左右	中左押し 中左押し以外	制御 非制御
	1	中右左	中右押し 中右押し以外	制御 非制御
	2	右左中	逆抹み押し 逆抹み押し以外	制御 非制御
	3	右中左	逆押し 逆押し以外	制御 非制御

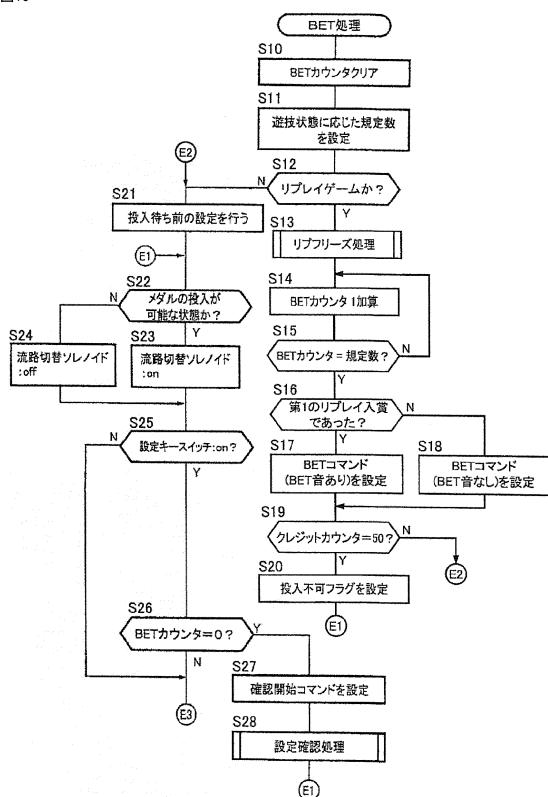
【図14】

図14



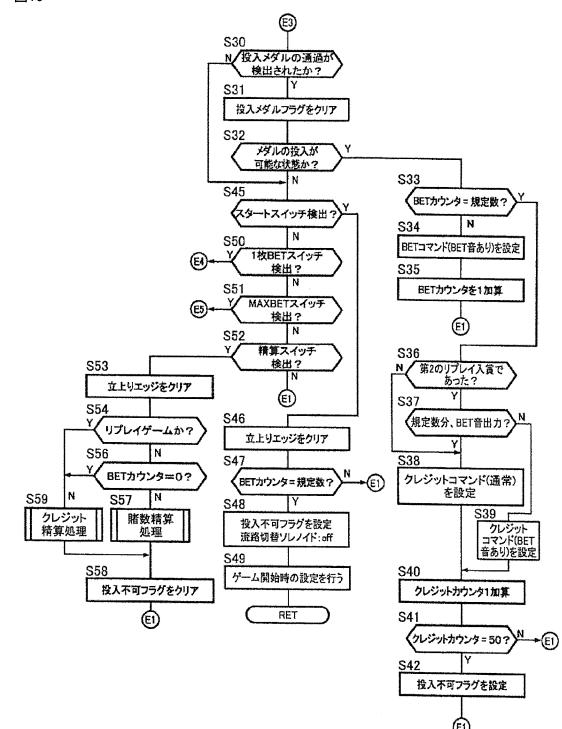
【図15】

図15

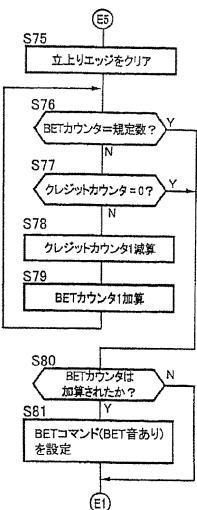
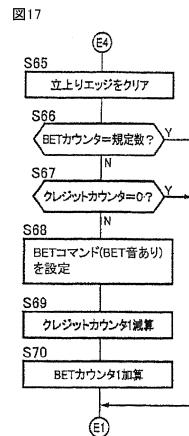


【図16】

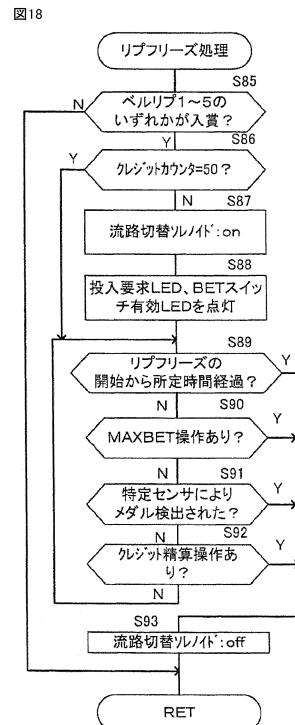
図16



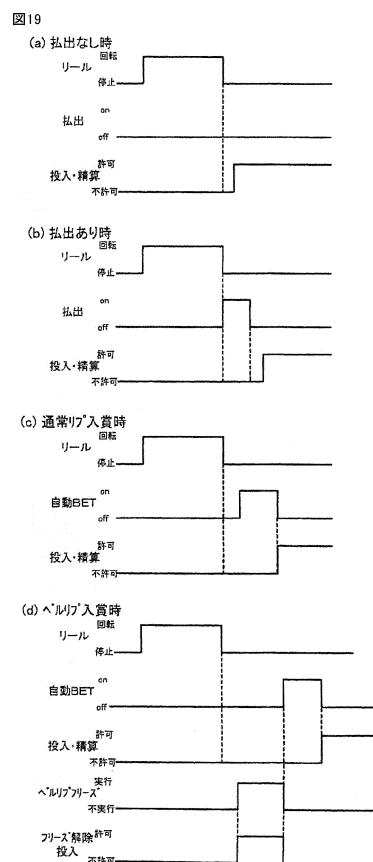
【図17】



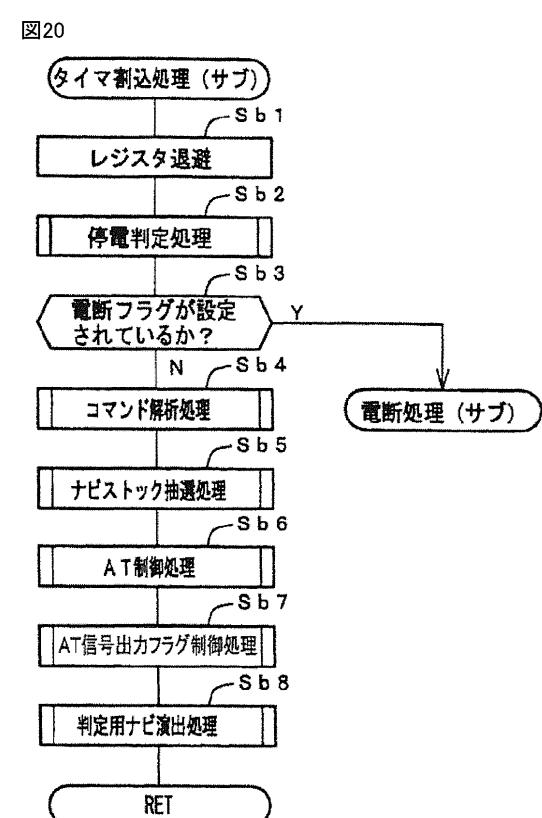
【図18】



【図19】



【図20】



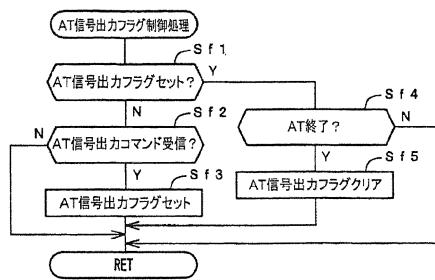
【図21】

図21

抽選条件		当選確率		付与ナビストック数の割合					
		ATフリーズなし		ATフリーズあり		ATフリーズなし		ATフリーズあり	
		1	2	3	1	2	3	1	2
第1抽選条件	弱チエリー当選	10%	20%	100%	0%	0%	0%	100%	0%
第2抽選条件	中チエリー当選	20%	40%	80%	20%	0%	0%	80%	20%
第3抽選条件	チャンス1当選 チャンス2当選	30%	60%	60%	40%	0%	0%	60%	40%
第4抽選条件	7揃いリップ当選	40%	80%	40%	60%	0%	0%	40%	60%
第5抽選条件	強チエリー当選	50%	100%	20%	80%	0%	0%	20%	80%

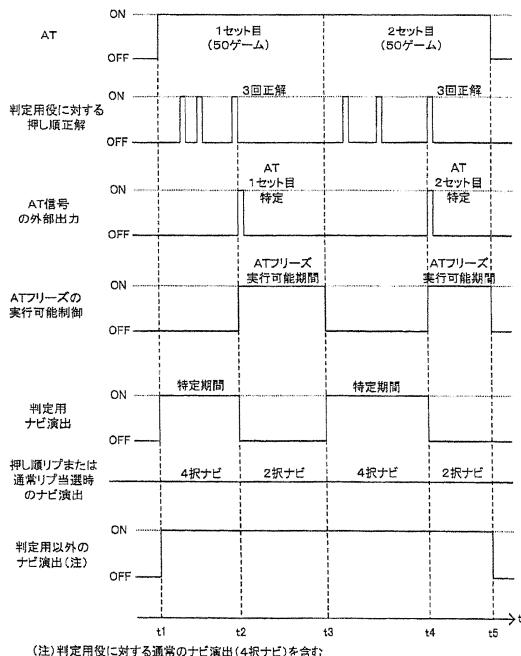
【図22】

図22



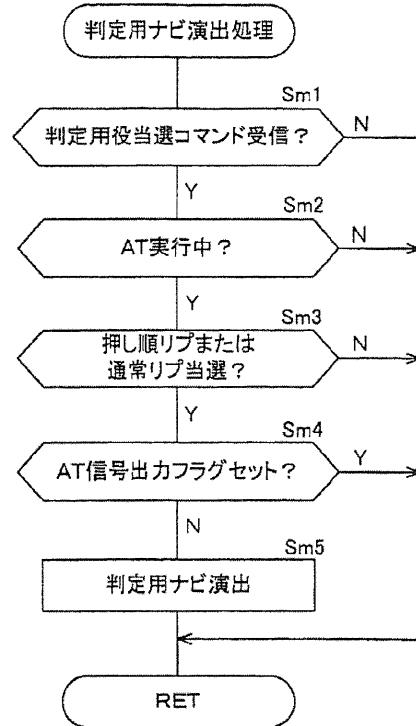
【図24】

図24



【図23】

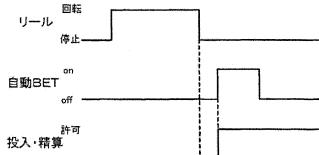
図23



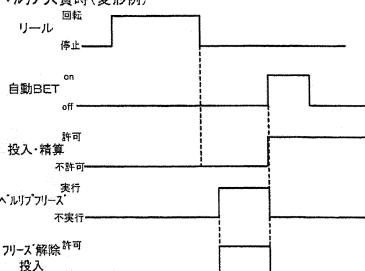
【図25】

図25

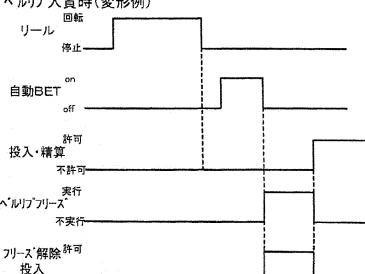
(a) 通常リップ入賞時(変形例)



(b) ベルリップ入賞時(変形例)



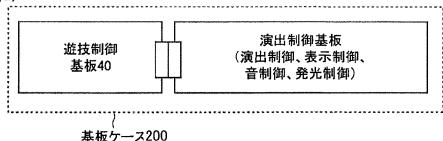
(c) ベルリップ入賞時(変形例)



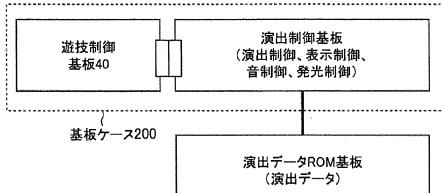
【図26】

図26

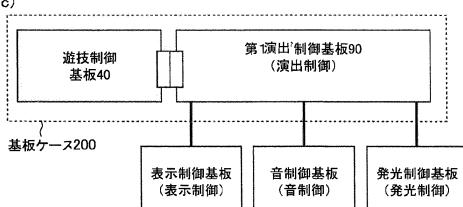
(a)



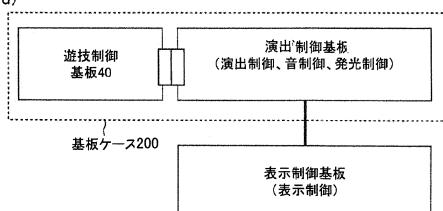
(b)



(c)



(d)



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2014-000396(JP,A)
特開2010-115328(JP,A)
特開2010-184012(JP,A)
特開2015-107178(JP,A)
特開2015-080681(JP,A)
特開2014-069090(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 6 3 F 5 / 0 4